

獣医保健看護学科

(ページ) (授業コード) (科目名)

(担当教員)

1	3100000	自然科学概論	N 学科長
3	3100100	動物生態学	山本 俊昭
5	3100200	動物品種論	近江 俊徳,落合 和彦
7	3100400	獣医保健看護学概論	松原 孝子,担当教員
9	3100500	動物保健看護体験実習	藤澤 正彦,学科教員,吉村 格,長田 雅宏
11	3100600	動物行動学	近藤 保彦
13	3100700	動物飼育学	左向 敏紀,山田 裕
15	3100800	動物機能学	袴田 陽二,藤澤 正彦
17	3100900	動物機能学実習	袴田 陽二,藤澤 正彦,金田 剛治,田島 剛
19	3101000	野生動物学	羽山 伸一
21	3101100	野生動物学実習	梶ヶ谷 博,山本 俊昭
23	3101200	動物形態学	神谷 新司,山本 昌美,石崎 正通
25	3101300	動物形態学実習	神谷 新司,山本 昌美
27	3101400	動物遺伝学	近江 俊徳,落合 和彦
29	3101500	動物生化学	近江 俊徳,落合 和彦
31	3101600	動物生化学実習	近江 俊徳,落合 和彦
33	3101700	動物病態学	山本 昌美,石崎 正通
35	3101800	動物病態学実習	神谷 新司,山本 昌美
37	3102000	動物トレーニング理論	水越 美奈,矢崎 潤
39	3102300	動物トレーニング理論実習a	水越 美奈
41	3102400	動物トレーニング理論実習b	水越 美奈
43	3102500	動物微生物学	青木 博史,福所 秋雄,塩川 舞
45	3102600	動物微生物学実習	青木 博史,塩川 舞
47	3102700	動物心理学	柿沼 美紀,野瀬 出
49	3102800	動物保健看護関連法規	牧野 ゆき
51	3102900	動物寄生虫学	池 和憲

獣医保健看護学科

(ページ) (授業コード) (科目名)

(担当教員)

53	31030000	動物寄生虫学実習	池 和憲,森田 達志
55	31031000	動物医療検査学	皆上 大吾
57	31032000	動物医療検査学実習	皆上 大吾
59	31033000	動物栄養学概論	左向 敏紀,石岡 克己,森 昭博
61	31035000	動物グルーミング理論	水越 美奈,松原 孝子
63	31038000	動物グルーミング理論実習a	松原 孝子,百田 豊
65	31039000	動物グルーミング理論実習b	松原 孝子,百田 豊
67	31040000	動物医療看護学I	石岡 克己,百田 豊
69	31041000	動物医療看護学I実習	石岡 克己,百田 豊,森 昭博,小田 民美
71	31042000	動物薬理学	金田 剛治,田島 剛
73	31043000	動物薬理学実習	金田 剛治,田島 剛
75	31044000	公衆衛生学	小林 真理子,青木 博史,小林 淳
77	31045000	公衆衛生学実習	小林 真理子,小林 淳,松原 孝子
79	31046000	動物医療看護学II	左向 敏紀,松原 孝子,小暮 一雄,森 昭博
81	31047000	動物医療看護学II実習	石岡 克己,百田 豊,森 昭博,小田 民美
83	31048000	動物介在療法論	小林 真理子,水越 美奈,的場 美芳子
85	31049000	動物医療看護学III	皆上 大吾,松原 孝子,藤田 道郎,青木 忍
87	31050000	動物医療看護学III実習	左向 敏紀,石岡 克己,牧野 ゆき,水越 美奈,松原 孝子,皆上 大吾,百田 豊,森 昭博,小田 民美
89	31052000	動物栄養学各論	左向 敏紀,森 昭博,坂根 弘,徳本 一義,藤井 立哉
91	31054000	動物栄養学各論実習a	左向 敏紀,森 昭博,小林 淳,小田 民美
93	31055000	動物栄養学各論実習b	左向 敏紀,森 昭博,小林 淳,小田 民美
95	31056000	動物病院管理学	松原 孝子
97	31058000	動物病院管理学実習a	左向 敏紀,石岡 克己,牧野 ゆき,水越 美奈,松原 孝子,皆上 大吾,百田 豊,森 昭博,小田 民美
99	31059000	動物病院管理学実習b	左向 敏紀,石岡 克己,牧野 ゆき,水越 美奈,松原 孝子,皆上 大吾,百田 豊,森 昭博,小田 民美
101	31061000	動物病院実習a	石岡 克己
103	31062000	動物病院実習b	石岡 克己

獣医保健看護学科

(ページ) (授業コード) (科目名)

(担当教員)

105	31065000	動物医療センター実習Ia	左向 敏紀,石岡 克己,牧野 ゆき,水越 美奈,松原 孝子,皆上 大吾,百田 豊,森 昭博,小田 民美
107	31066000	動物医療センター実習Ib	左向 敏紀,石岡 克己,牧野 ゆき,水越 美奈,松原 孝子,皆上 大吾,百田 豊,森 昭博,小田 民美
109	31067000	動物医療センター実習II	左向 敏紀,石岡 克己,松原 孝子,皆上 大吾,百田 豊,森 昭博,小田 民美
111	31069000	臨床動物行動学	水越 美奈,矢崎 潤
113	31073000	臨床動物行動学演習a	水越 美奈,小田 民美
115	31074000	臨床動物行動学演習b	水越 美奈
117	31075000	動物医療看護学IV	中村 遊香,百田 豊,長谷川 大輔,余戸 拓也
119	31077000	動物医療看護学IV実習a	百田 豊,余戸 拓也,小田 民美
121	31079000	動物繁殖学	袴田 陽二,藤澤 正彦,河上 栄一,霍野 晋吉
123	31081000	動物繁殖学実習I	袴田 陽二,藤澤 正彦
125	31085000	動物グルーミング理論実習b	百田 豊,余戸 拓也
127	31089000	動物繁殖・新生子学実習b	袴田 陽二,藤澤 正彦,河上 栄一,堀 達也,小林 正典
129	31092000	動物介在療法実習a	小林 真理子,水越 美奈,小林 淳
131	31093000	動物介在療法実習b	小林 真理子,水越 美奈
133	31095000	水生生物学	山本 俊昭,田島 木綿子,和田 新平
135	31097000	水生生物学実習a	山本 俊昭
137	31098000	水生生物学実習b	山本 俊昭
139	31100000	動物園学	小林 和夫
141	31103000	動物園学実習a	梶ヶ谷 博
143	31104000	動物園学実習b	梶ヶ谷 博
145	31106000	野生動物保護管理学	梶ヶ谷 博
147	31108000	野生動物保護管理学実習	梶ヶ谷 博,山本 俊昭
149	31110000	動物生態調査実習a	梶ヶ谷 博,山本 俊昭
151	31111000	動物生態調査実習b	梶ヶ谷 博,山本 俊昭
153	31112000	野鳥保護活動実習	梶ヶ谷 博
155	31113000	特別講義	N 学科長,担当教員

獣医保健看護学科

(ページ)	(授業コード)	(科目名)	(担当教員)
157	31114000	卒業論文	N 学科長
159	31116001	Reading English(a) N1	井上 啓介
161	31116002	Reading English(a) N2	鴫崎 敏彦
163	31117001	Reading English(b) N1	井上 啓介
165	31117002	Reading English(b) N2	鴫崎 敏彦
167	31119001	Oral English(a) N1	松藤 薫子
169	31119002	Oral English(a) N2	中江 篤子
171	31120001	Oral English(b) N1	松藤 薫子
173	31120002	Oral English(b) N2	中江 篤子
175	31121000	国文学	西連寺 成子
177	31122000	哲学	高村 夏輝
179	31123000	法学	牧野 ゆき
181	31124000	心理学	柿沼 美紀,野瀬 出
183	31125000	経済学	佐々木 輝雄
185	31126000	数学	大坂 元久
187	31128000	生物学I	土田 修一
189	31130000	物理学I	八木 昌平
191	31132000	化学I	片山 欣哉
193	31133000	健康科学	武藤 三千代
195	31134001	スポーツ野外活動(ウォーキング)	濱部 浩一,野村 誠,武藤 三千代
197	31134002	スポーツ野外活動(スキー)	濱部 浩一,野村 誠,武藤 三千代
199	31134003	スポーツ野外活動(ダイビング)	濱部 浩一,野村 誠,武藤 三千代
201	31134004	スポーツ野外活動(ゴルフ)	濱部 浩一,野村 誠,武藤 三千代
203	31134005	スポーツ野外活動(濱部)	濱部 浩一
205	31134006	スポーツ野外活動(野村(誠))	野村 誠
207	31134007	スポーツ野外活動(フィットネス)	武藤 三千代

獣医保健看護学科

(ページ) (授業コード) (科目名)

(担当教員)

209	31135000	生物命名法	箕輪 多津男
211	31136000	環境生物学	小林 淳
213	31138001	科学情報機器演習 N1	山内 昭
215	31138002	科学情報機器演習 N2	山内 昭
217	31140000	動物免疫学	青木 博史,塩川 舞
219	31141000	動物・人間関係論	小林 真理子,水越 美奈
221	31142000	犬学・猫学	学科教員,臼井 玲子
223	31143000	社会活動動物論	水越 美奈
225	31144000	動物防疫学	青木 博史
227	31146000	エキゾチックアニマル論	霍野 晋吉
229	31147000	実験動物学	袴田 陽二,藤澤 正彦,天尾 弘実
231	31149000	アニマルケア論	左向 敏紀,保志 昌子,中村 遊香,青木 忍
233	31150000	ペットビジネス論	川原井 麻子

科目No.	310000R1	科目区分	必修
科目名	自然科学概論	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	N 学科長		

授業のねらい	自然科学をどのように捉え、どのように理解するかは非常に重要なことである。最近の話題を講義し、自然科学の定義について考える。また、自然科学史について概観し、自然科学の未来について考察する。
到達目標	獣医保健看護を学ぶために自然科学に対してどのような理解してゆくかという道もたくさんあり、その方法を理解する。また、自然科学における研究方法や、研究に携わる者に必要とされる心構え・態度について学ぶ。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第 1 回 神谷 人と動物の身体の違いー比較形態学ー 第 2 回 小林(真) 動物から知る環境の変化 第 3 回 袴田 動物医療と動物実験 第 4 回 藤澤 消化管の不思議 第 5 回 梶ヶ谷 野生動物における現象解析 第 6 回 青木 ウイルスって生き物ですか？ 第 7 回 左向 人と犬と猫の糖尿病の違いー比較生物学ー 第 8 回 大坂 自然界の様々な法則について 第 9 回 近江 人と動物の血液型 第 10 回 石岡 生物と人工物ー飛翔の航空力学ー 第 11 回 山本(昌) 腫瘍学の基礎知識 落合 大学で行われる研究の産業化について 第 12 回 小林(淳) 飲み水の条件 第 13 回 百田 犬の皮膚に関する基礎知識 第 14 回 近皆上 犬の加齢によっておこりやすい病気 第 15 回 まとめ
授業期間を通して課される課題	

科目No.	310000R1	科目区分	必修
科目名	自然科学概論	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	講義内容のレポートを作成（120分）		
テキスト・参考文献他	その都度配布。		
授業形態	スライドやプリントなどを用いた教室における講義。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	実施しない
レポート試験	60%	講義ごとにレポートを課す。
平常点評価	40%	講義ごとに出席を取る。

オフィスアワー	講義ごとに、担当教員と個別に連絡を取ること。
その他	

科目No.	310010R1	科目区分	必修
科目名	動物生態学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	山本 俊昭		

授業のねらい	地球上に生息する動物には、不思議な色、形をした種がいる。これら生き物の性質はすべて進化の産物である。したがって、生き物を理解する上で「進化」を学ぶことは必要不可欠であるといえる。本講義では、その不思議な性質がなぜ進化したのかを考えていく。
到達目標	高校の生物学ではほとんど触れない生態学であるが、本講義では特に進化生態学および行動生態学の考え方を理解してもらう。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第 1 回 至近要因と究極要因について 第 2 回 進化のメカニズム：自然淘汰・遺伝的浮動 第 3 回 個体変異の源泉：突然変異 第 4 回 種分化について：同所的種分化・異所的種分化 第 5 回 利他行動の進化について：包括適応度・血縁淘汰 第 6 回 性選択について 1：同性内淘汰・異性間淘汰 第 7 回 性選択について 2：ランナウェイ理論・ハンディーギャップ理論 第 8 回 最適化について 第 9 回 ゲーム理論について：進化的に安定な戦略 第 10 回 性比の進化について 1：フィッシャーの性比理論 第 11 回 性比の進化について 2：局所的配偶競争・局所的資源競争 第 12 回 有性生殖と無性生殖について 第 13 回 擬態の進化について 第 14 回 性転換する生物について 1 第 15 回 性転換する生物について 2
授業期間を通して課される課題	15回の講義のうち、数回は小テストを実施する予定である。

科目No.	310010R1	科目区分	必修
科目名	動物生態学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	復習として、毎回のテーマをまとめておく		
テキスト・参考文献他	①進化とはなんだろうか 長谷川真理子 著 ②生態学入門 日本生態学会編		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	70	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	0	レポート試験は行わない
平常点評価	30	出席、小テストによって評価する

オフィスアワー	33号棟1階
その他	

科目No.	310020R1	科目区分	必修
科目名	動物品種論	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	近江 俊徳, 落合 和彦		

授業のねらい	動物品種論では、人間が利用する目的で野生動物から遺伝的に改良した動物である家畜の成立、さらに各家畜種内における育種により、外貌、性質、能力に特有な遺伝的特徴を獲得した品種について学ぶ事で、獣医保健看護学が対象とする各種動物の生物学的な基礎知識を習得する。
到達目標	1. 家畜化の歴史ならびに品種の成り立ちについて説明できる。 2. 産業動物、伴侶動物、実験動物に分類される各種動物の特徴を説明できる。 3. 動物の飼育（取り扱い）や看護を意識して、各種動物の品種の特徴を整理できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	特になし
履修上の留意点	イヌ、ネコの品種における特徴については少人数班で学習資料を作成するチュートリアル形式の講義を行う。
概要・スケジュール	<p>第1回 動物品種論総論および産業動物の品種（ウシ） 近江 第2回 産業動物の品種（ヒツジ・ヤギ・ウマ） 落合 第3回 イヌの品種とその特徴に関する特別演習のための講義 落合 第4回 1N牧場実習、イヌの品種とその特徴に関する資料作成 落合 第5回 イヌの品種とその特徴に関する資料作成 落合 第6回 イヌの用途別グループに関する発表 近江・落合 第7回 産業動物の品種（ブタ・家禽） 近江 第8回 実験動物の品種（ウサギ、モルモット、ハムスター） 落合 第9回 伴侶動物（イヌ）その1 近江・落合 第4、5回に作製した資料を用いて班ごとに割り当てられた品種の特徴について発表形式で行う 第10回 伴侶動物（イヌ）その2 近江・落合 第11回 伴侶動物（イヌ）その3とネコに関する課題作成 落合 第12回 伴侶動物（ネコ）その1 近江・落合 第13回 伴侶動物（ネコ）その2 近江・落合 第14回 エキゾチックアニマル（チンチラ、フェレット、プレーリードッグ他）およびコンパニオンバード（ハト、カナリア、インコ、オウム他） 落合 第15回 動物品種論のまとめ 落合</p>
授業期間を通して課される課題	特別演習において、各自1犬種について調べた資料を提出する。また、班ごとに犬種の性質および用途に関する資料をまとめて提出する。

科目No.	310020R1	科目区分	必修
科目名	動物品種論	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるため教科書および次回の講義で取扱う資料を事前に読むこと（30分） 復習として、毎回のテーマについてまとめておく（60分）		
テキスト・参考文献他	（教科書）最新犬種図鑑 ジャパンケネルクラブ 監修 interzoo、新猫種大図鑑 ブルース・フォーグル 著 ペットライフ社、日本の家畜・家禽 秋篠宮文仁・小宮輝之 著 学研 （参考書）動物看護学・総論 日本動物看護学会		
授業形態	配布プリント、スライド、教科書等を使用して、講義およびグループ学習を行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	70%	学期末に定期試験を実施
レポート試験	10%	特別演習でレポートを課す
平常点評価	20%	毎回出席を確認して出席率を評価に加える

オフィスアワー	近江：獣医保健看護基礎部門比較遺伝学研究分野（E棟4階） t.omi(a)nvl.u.ac.jp 落合：獣医保健看護基礎部門比較遺伝学研究分野（E棟4階） kochiai(a)nvl.u.ac.jp 講義終了後またはEメールにて面接を予約。 ※(a)を@にすること。
その他	

科目No.	310040R1	科目区分	必修
科目名	獣医保健看護学概論	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	松原 孝子, 担当教員		
授業のねらい	複雑多岐に変容する獣医保健並びに動物看護の基本となる概念を学び、獣医療の高度最前線において獣医療を補助・支援する高度専門職としての自己理解を促す。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 獣医療における動物看護師の現状を理解する 2. 動物看護師として基本となる理念、役割を知る 3. 動物看護者の倫理綱領と動物看護過程を理解する 4. これからの獣医保健看護学と動物看護師のあり方について考察できる 		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点	授業中の発言・質疑など、主体的に授業に参加すること		
概要・スケジュール	第 01 回 特別講義（福所） 獣医保健看護学の目指すもの 第 02 回 小林真 牧場実習オリエンテーション 第 03 回 石岡 動物看護の基本となる概念 第 04 回 左向 動物看護学の成立と特徴 第 05 回 石岡 動物看護の役割と機能を支えるしくみ 第 06 回 松原 動物看護者の倫理綱領 第 07 回 松原 動物看護者の倫理綱領 第 08 回 松原 動物看護者の倫理綱領 第 09 回 松原 動物看護過程の展開 第 10 回 松原 動物看護過程の展開 第 11 回 松原 動物看護過程の展開 第 12 回 松原 動物看護過程の展開 第 13 回 牧野 動物愛護・管理に関する法律 第 14 回 水越 動物看護師による社会活動 第 15 回 青木 動物保健領域における獣医療技術者の役割		
授業期間を通して課される課題	各單元ごとに予習、小テスト、課題などあり		

科目No.	310040R1	科目区分	必修
科目名	獣医保健看護学概論	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容を深めるため、次回のテーマに応じたテキストや資料を事前に読むこと（30分） 復習として毎回のテーマについてまとめておく、または、与えられた課題に取り組む（60分）		
テキスト・参考文献他	テキスト：動物看護学教育標準カリキュラム準拠「専門分野 基礎動物看護学」 「今からはじめる動物看護過程」「イラストでやさしく動物看護者の倫理」 必要時プリント資料配布 随時指示、授業内において指示する 参考書：動物看護倫理事例集、動物看護者の倫理綱領・動物看護者の業務指針		
授業形態	教室内での講義、および少人数のグループワークなど		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	70	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	15	レポート内容を評価する
平常点評価	15	出席、小テスト、授業中の態度など総合評価

オフィスアワー	松原（担当教員）：研究室にて takako1961@nvl.u.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約すること
その他	出席が2/3に満たないものは、成績評価を受けることはできない 本講義は複数の教員によって実施するため、授業内容あるいは順序を変更する場合がある

科目No.	310050R1	科目区分	必修
科目名	動物保健看護体験実習	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	藤澤 正彦, 学科教員, 吉村 格		
授業のねらい	獣医保健看護学を学ぶ目的を理解させ、獣医保健看護学生としてのビジョン醸成を支援するためには就学後の早い機会に社会における関係分野の実情を見聞し、そこに働く人々の「息吹」に触れること (Early Exposure) が必要であり、最も有効な手段の一つと考えられる。		
到達目標	各施設（動物医療施設、牧場、民間・公共の検査施設、博物館、動物愛護行政施設、人体機能代替動物養成施設など）の見学実習を通じ、動物看護、あるいは人と動物とのありかたについて学ぶ。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	各施設で維持・管理されている動物の種類や特徴、施設設立の意義等に関して事前に調べておくことが望ましい。		
履修上の留意点	「体験実習」であることから出席を重視する。		
概要・スケジュール	<p>平成26年度の見学先は下記の通り（都合により変更の場合有）</p> <p>必修</p> <p>1、牧場体験実習（富士アニマルファーム）：前期、5月 {http://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/fafarm/index.html/}</p> <p>2、神奈川訓練センター（富士ハーネス）：後期、11月 {https://www.moudouken.net/center/kanagawa/}</p> <p>3、動物医療センター見学（本学、動物医療センター）：後期、11、12月 {http://www.nvlu.ac.jp/amedical/index.html/}</p> <p>選択</p> <p>1、葛西臨界水族園見学：後期 {http://www.tokyo-zoo.net/zoo/kasai/}</p> <p>2、農林水産省 横浜動物検疫所見学：後期 {http://www.forth.go.jp/keneki/yokohama/}</p> <p>3、東京都動物愛護相談センター（本所、多摩支所）見学：後期 {http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/douso/index.html}</p> <p>4、日本医大 医学部付属実験動物管理室見学：後期</p>		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	310050R1	科目区分	必修
科目名	動物保健看護体験実習	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	事前に各施設の情報収集並びに見学後レポート作成を必要とする。		
テキスト・参考文献他	牧場体験実習書（一部）、産業動物の特徴に関するプリント（各動物）、施設見学実習書（一部）を適宜、配布する。		
授業形態	各施設における見学・体験実習を中心とするが、一部特別講義を実施する場合がある。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	特になし
レポート試験	40%	レポート提出
平常点評価	60%	出席点

オフィスアワー	獣医保健看護学科専任教員：武蔵境キャンパス 吉村 格：富士アニマルファーム
その他	

科目No.	310060R1	科目区分	必修
科目名	動物行動学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	近藤 保彦		

授業のねらい	動物の保健看護に携わるにあたって動物の行動を理解することは必須となります。この授業では、動物たちの行動はいかなるもので、それがどのような生物学的背景を持っているのかを学ぶことを目的としています。
到達目標	この授業では、動物行動の中でも特に社会行動を中心に学んでいきます。これらの行動は、ある部分では生得的なプログラムに従い、またある部分では学習や経験から成り立っています。これらの行動学的・生理学的仕組みを理解することを目標とします。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	高校の生物で勉強した動物のからだのしくみをしっかり復習しておいてください。
履修上の留意点	各講義ではプリントを配ります。講義では、プリント、板書、そして講義の内容をもとにしっかりとしたノートを作ってください。
概要・スケジュール	<p>動物たちは、私たち人間と同様、他個体との社会的相互作用を通して様々な活動を行いながら生活しています。雄どうしは自分のテリトリーを守るために闘争行動を示し、雄と雌とでは自分の種を維持し、子孫を残すために様々な求愛行動をし、性行動（交尾）をします。これらの行動の発現にはフェロモンという特殊な化学信号が重要な役割を果たします。この授業の目的は、これらの行動の生理学的メカニズムを知ることにあります。</p> <p>講義ではこれらの行動をどのように実験動物である小型げっ歯類を使って実験室で実現するか、その行動測定方法と実験技法を説明します。それらを通して行動のホルモンによる調節や神経調節について学びます。</p> <p>授業の流れは次のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 行動神経内分泌学概説 ② 脳の解剖学 ③ ホルモンと脳 ④ 性決定と性分化 ⑤ 脳の性分化 ⑥ フェロモンと行動 ⑦ 雄性行動 ⑧ 雌性行動 ⑨ きずな形成 ⑩ 親和行動 ⑪ 母性行動 ⑫ 攻撃行動 ⑬ 行動の周期性 ⑭ 哺乳類における真社会性 ⑮ 情動行動
授業期間を通して課される課題	

科目No.	310060R1	科目区分	必修
科目名	動物行動学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	高校までの授業と違って、講義の内容がすべて教科書に書かれているわけではありません。毎回の授業後、自宅で教科書をもとに授業中に取ったノートを整理してください。		
テキスト・参考文献他	近藤保彦ら編著「脳とホルモンの行動学—行動神経内分泌学への招待」西村書店、2010.		
授業形態	プリント、スライドを使いながら講義を行います。講義後、質問を受け付けます。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	90	プリント、ノート、教科書の持ち込み可の試験を行います。
レポート試験	0	レポートは行いません。
平常点評価	10	出席数

オフィスアワー	授業での疑問点は、かならず授業後に質問してください。質問は、メールでも受け付けます。
その他	

科目No.	310070R1	科目区分	必修
科目名	動物飼育学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	左向 敏紀, 山田 裕		

授業のねらい	動物飼育学では、産業動物と呼ばれる牛、馬、豚、綿羊、山羊および鶏などの家畜が保有する生理・生体機能の特徴や行動特性を把握し、家畜の適切な飼育・管理法を習得することを目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産業動物（家畜）を生産するために必要な繁殖法や育成法に関する知識が得られる。 2. 家畜に与える飼料や給餌法など栄養管理に関する知識が得られる。 3. 健康な家畜を生産するための適切な飼育施設や衛生環境に関する知識が得られる。 		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	1 学年・前期の動物品種論（動物の品種の特徴）と富士アニマルファーム実習の履修		
履修上の留意点	なし		
概要・スケジュール	第1回	左向	日本における産業動物（家畜）の飼育の歴史と現状
	第2回	山田	牛（乳用牛）の飼育・管理 （1）生体機能の特徴と繁殖・育成法
	第3回	山田	牛（乳用牛）の飼育・管理 （2）泌乳に必要な栄養管理と搾乳
	第4回	山田	牛（乳用牛）の飼育・管理 （3）行動特性と飼育環境および施設
	第5回	山田	牛（肉用牛）の飼育・管理 （1）生体機能の特徴と繁殖・育成法
	第6回	山田	牛（肉用牛）の飼育・管理 （2）肥育に必要な栄養管理と飼育環境
	第7回	左向	馬（競走馬・乗用馬）の飼育・管理 （1）生体機能の特徴と繁殖法および育成法
	第8回	左向	馬（競走馬・乗用馬）の飼育・管理 （2）馴致調教・栄養管理および飼育環境
	第9回	片岡	豚の飼育・管理 生体機能の特徴と繁殖・育成・栄養管理および飼育環境
	第10回	左向	綿羊・綿羊の飼育・管理 生体機能の特徴と繁殖・育成法および栄養管理と飼育環境
	第11回	左向	鶏（産卵鶏と肉用鶏）の飼育・管理 生体機能の特徴と繁殖・育成法および栄養管理
	第12回	山田	産業動物（家畜）の感染・疾病予防(1)
	第13回	山田	産業動物（家畜）の感染・疾病予防(2)
	第14回	山田	産業動物（家畜）の衛生環境（悪臭防止と糞尿処理）
	第15回	向山	産業動物の飼育上の倫理・福祉（アニマルウエルフェア）
授業期間を通して課される課題	産業動物（家畜）の飼育上における保健衛生管理と食の安全・安心について（レポート提出）		

科目No.	310070R1	科目区分	必修
科目名	動物飼育学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	(予習) 前期の動物品種論において学んだ各家畜の品種の特徴に関する資料や教科書(日本の家畜・家禽)および富士アニマルファームでの実習体験記を事前に再読しておくこと(90分) (復習) 毎回のテーマについてまとめておくこと(90分)		
テキスト・参考文献他	動物看護学教育カリキュラム準拠・動物飼養管理学interzoo) (参考書) 新編畜産ハンドブック 扇本敬司・他編 講談社サイエンティック (参考書) 日本の家畜・家禽 秋篠宮文仁・小宮輝之著 学研		
授業形態	配布プリント、スライド等を使用して講義を行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	70	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	10	学期の後半にレポート提出を課す
平常点評価	20	毎回、出席を確認して出席率を評価に加える

オフィスアワー	左向 獣医保健看護学臨床部門 (E棟4階) t-sako@nvl.u.ac.jp 向山 客員教授室 (A棟2階) ymuko@nvl.u.ac.jp 山田 特任教授室 (C棟4階) yutaka_y@nvl.u.ac.jp (講義終了後、またはEメールにて面接を予約すること)
その他	

科目No.	310080R1	科目区分	必修
科目名	動物機能学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	袴田 陽二, 藤澤 正彦		

授業のねらい	本講座は臨床動物看護学への橋渡しとなる科目であり、動物体内で繰り広げられる様々なメカニズムについて理解する必要がある。また、動物の病気の原因を理解する上でも動物の「ホメオスタシス」を常に念頭に置くことが求められる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1、動物の体を構成する細胞の基本構造とその仕組みについて理解する。 2、動物の体を構成する各臓器の構造と機能について理解する。 3、神経系や内分泌系などホメオスタシスの維持に関連する仕組みについて理解する。 		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	基礎生物学、基礎化学等の関連科目を理解してから履修に臨むこと。		
履修上の留意点	授業中の発言・質疑など、主体的に授業に参加すること。		
概要・スケジュール	第1回	袴田陽二	細胞の基本機能：細胞内小器官の役割
	第2回	袴田陽二	血液と生体防御（1）：血液成分の構成とその機能
	第3回	袴田陽二	血液と生体防御（2）：免疫応答、炎症、アレルギーなど
	第4回	藤澤正彦	内分泌・代謝（消化、生殖、神経系以外）：概念と各種ホルモン調節
	第5回	袴田陽二	心臓の動きと循環（1）：心臓の構造、体循環、肺循環など
	第6回	袴田陽二	心臓の動きと循環（2）：心電図、心臓の神経調節、血圧調節など
	第7回	袴田陽二	呼吸運動（1）：肺の構造と機能など
	第8回	袴田陽二	呼吸運動（2）：呼吸調節（神経系、反射など）
	第9回	袴田陽二	尿の生成と排泄（1）：腎機能（尿生成・排泄、血圧調節、Ca代謝など）と検査
	第10回	袴田陽二	尿の生成と排泄（2）：体液調節機構、pH調節機構
	第11回	藤澤正彦	神経系（1）：ニューロンと興奮伝導
	第12回	藤澤正彦	神経系（2）：中枢神経系と末梢神経系、反射
	第13回	藤澤正彦	神経系（3）：脳の機能、感覚系
	第14回	藤澤正彦	消化と吸収（1）：消化のメカニズム、消化管運動
	第15回	藤澤正彦	消化と吸収（2）：膵臓、肝臓機能など
授業期間を通して課される課題			

科目No.	310080R1	科目区分	必修
科目名	動物機能学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるため次回の講義で取扱う参考図書等を事前に読むこと（30分） 復習として、毎回のテーマについてまとめておく（60分） など		
テキスト・参考文献他	各講義ごとにプリントを配布する。 貴邑富久子 「シンプル生理学」（南江堂）、東條英昭「図説基礎動物生理学」（アドスリー） 動物形態機能学（全国動物保健看護系大学協会 カリキュラム検討委員会編、インターズー）他		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	80%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	特になし
平常点評価	20%	出席、質疑応答等積極的な参加を総合的に評価する。

オフィスアワー	袴田：生体機能学分野（E棟4階）：yhakama@nvlu.ac.jp 藤澤：生体機能学分野（E棟4階）：masfuji@nvlu.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約（火曜16:00～17:00）。
その他	

科目No.	310090R1	科目区分	必修
科目名	動物機能学実習	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	袴田 陽二, 藤澤 正彦, 金田 剛治, 田島 剛		

授業のねらい	前期 動物機能学講義で学習した内容を踏まえ、実際に動物（マウス、ラット、ウサギ）を用いて再現性の高い、様々な動物機能について考察し、理解を深めることを目標とする。
到達目標	1、動物の取扱い（保定、麻酔、投与方法など）や血液検査（塗抹、溶血試験）を実施、その意義を理解する。 2、ホルモン、神経伝達物質や生理活性物質の役割について考察、理解する。 3、解剖実習（ラット、マウス）を通じ、主要臓器の形や位置について理解する。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	前期動物機能学講義の内容を理解、確認してから履修に臨むこと。
履修上の留意点	実習中の発言・質疑など、主体的に実習に参加すること。
概要・スケジュール	第1回 袴田・藤澤 ガイダンス及び小テスト 第2回 袴田・藤澤 実験動物の基本的な取扱い：動物（ラット）の生体検査、保定、麻酔、投与（経口、注射、吸入など） 第3回 袴田・藤澤 実験器具の基本的な取り扱い及び溶血反応試験 第4回 袴田・藤澤 内分泌学：ラットの糖負荷試験 第5回 袴田・藤澤 組織学：血液塗抹観察（ラット、犬、ウサギ、鳥など）、顕微鏡の取扱 第6回 袴田・藤澤 解剖実習：主要臓器の位置と形（マウス・ラットの解剖） 第7回 袴田・金田・藤澤・田島 神経（1）：神経伝達物質の平滑筋に対する薬理作用 第8回 袴田・金田・藤澤・田島 神経（2）：神経伝達物質の循環器ならびに呼吸運動に対する薬理作用 第9回 袴田・藤澤 実習試験（筆記）
授業期間を通して課される課題	

科目No.	310090R1	科目区分	必修
科目名	動物機能学実習	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実習内容の理解を深めるために実習書ならびに関連参考図書で事前に確認し、予習しておくこと。		
テキスト・参考文献他	第1回ガイダンス時に実習書を配布する。 貴邑富久子「シンプル生理学」(南江堂)、東條英昭「図説基礎動物生理学」(アドスリー) 動物形態機能学(全国動物保健看護系大学協会 カリキュラム検討委員会編、インターズー)他		
授業形態	講義、デモンストレーション、実際の手技、観察、スケッチ等		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	30%	筆記試験、スライド問題にて評価する。
レポート試験	60%	全実施項目に関するレポート作成、提出を義務付ける。
平常点評価	10%	各実施項目は単項目であり、全出席が望ましい。

オフィスアワー	袴田：生体機能学分野 (E棟4階) yhakama@nvl.u.ac.jp 藤澤：生体機能学分野 (E棟4階) masfuji@nvl.u.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約 (火曜16:00~17:00)。
その他	

科目No.	310100R1	科目区分	必修
科目名	野生動物学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	羽山 伸一		
授業のねらい	野生動物学は、野生動物と人間との間にあるさまざまな問題を解決するための科学である。本講義では、そのための基礎科学である、生態学、個体群動態学、保全生物学、野生動物管理学、人と動物の関係学などを概説し、問題解決の考え方や必要な研究および技術について学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 野生動物の保全と獣医学の関わりを理解できる 2. 絶滅のメカニズムと対策について説明できる 3. 野生動物の生息地と保全方法について説明できる 		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	高校・生物の十分な理解を確認してから履修に臨むこと。		
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回 野生動物学とは何か 第2回 生物多様性とは何か 第3回 絶滅のメカニズムとMVP（最小維持可能個体数） 第4回 絶滅危惧種とレッドリスト 第5回 野生動物調査法 第6回 野生動物の生息地とその現状 第7回 ワイルドライフマネジメントと順応的管理 第8回 エコロジカルネットワークと野生動物保護区 第9回 自然再生とその手法 第10回 外来生物とは何か 第11回 外来生物対策と飼育動物の適正飼育 第12回 生息域外保全 第13回 野生復帰 第14回 トピックス 第15回 まとめ		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	310100R1	科目区分	必修
科目名	野生動物学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習（90分）、復習（90分）		
テキスト・参考文献他	テキストとして「野生動物学」村田浩一、坪田敏男 編、（文永堂出版）を使用する。 そのほか、講義内に最新のものを指示する		
授業形態	おもにスライドを使用した講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	70	論述試験を実施する
レポート試験	0	実施しない
平常点評価	30	出席と疑応答等積極的な参加を総合的に評価する。

オフィスアワー	①羽山伸一 野生動物学教室 ②hayama×nvl.u.ac.jp ③Eメールにて受け付け、日時を調整する
その他	

科目No.	310110R2	科目区分	必修
科目名	野生動物学実習	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	2
担当教員	梶ヶ谷 博, 山本 俊昭		

授業のねらい	ロードキルの実例を通して、動物の解剖学的特徴と負傷との関係を学習する。また同時に動物の生息環境と行動特性を理解し、最終的に人間と野外に生きる動物との共存の在り方について自分なりの意見を整理する。
到達目標	1. 動物のからだの構造を理解する。 2. 環境と野生動物の関係を正しく認識する。 3. 交通事故による負傷動物の獣医学的な特徴を理解する。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	1 梶ヶ谷 野生動物の死体検査（講義） 2 梶ヶ谷 野生動物の交通事故発生原因（講義） 3 梶ヶ谷 野生動物の交通事故死体解剖（病理解剖実習） 4 梶ヶ谷 餌、生息環境、繁殖、天敵等の生態学的要素と交通事故（講義） 5 梶ヶ谷 環境要素の構成調査（野外調査実習） 6 梶ヶ谷 事故発生の要因に主眼をおいた環境調査（野外調査実習） 7 梶ヶ谷 調査結果から事故原因と防止対策を考える総合討論 8 梶ヶ谷 予備日
授業期間を通して課される課題	

科目No.	310110R2	科目区分	必修
科目名	野生動物学実習	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	事前資料をその都度予習しておくこと。		
テキスト・参考文献他	学内LAN配布資料		
授業形態	教室での講義・演習、解剖室での実習、野外調査実習		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	実施しない
レポート試験	50%	実習での学習内容以外、自ら調べ考察した内容も評価
平常点評価	50%	授業に対する前向きな姿勢、出席状況

オフィスアワー	梶ヶ谷：通常は毎日午前11時～午後1時 確約の要があるときは事前予約 (kaji@nvlu.ac.jp)
その他	

科目No.	310120R1	科目区分	必修
科目名	動物形態学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	神谷 新司, 山本 昌美, 石崎 正通		

授業のねらい	動物形態学では動物の体を構成する組織や器官の形態、位置および構成細胞について、さらに構造と機能との関係についても理解することを目的とする。系統的に、運動器系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿生殖器系、内分泌器系、神経系および感覚器系について講義する。
到達目標	1. 動物体を構成する臓器・器官について、その形態と構成組織を説明できる 2. 各種組織を構成する細胞の構造とその機能を説明できる 3. 動物看護師に必要な形態学的基礎知識を習得する
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	<p>第1回 神谷 動物形態学の基礎 (1)細胞の構造と機能(2)組織の構造と機能(3)器官の構成</p> <p>第2回 神谷 体の支持と運動(運動器系) [1] (1)各種骨格の構成(2)骨の構造と発生(3)軟骨(4)関節の構造と分類</p> <p>第3回 神谷 体の支持と運動 [2] (1)筋肉の分類、構造と機能(2)体各部位の筋群(3)鳥類の運動器系</p> <p>第4回 神谷 循環器系の構造と機能 [1] (1)体循環と小循環(2)血管(3)心臓(4)刺激伝導系(5)血液</p> <p>第5回 神谷 循環器系の構造と機能 [2] (1)リンパ管系(2)免疫について(3)リンパ性器官(4)鳥類の循環器系</p> <p>第6回 山本 呼吸器系の構造と機能 (1)気道(2)呼吸部(3)胸郭と胸膜(4)鳥類の呼吸器系</p> <p>第7回 山本 消化器系の構造と機能 [1] (1)口腔(2)歯(3)唾液腺(3)咽頭(4)食道</p> <p>第8回 山本 消化器系の構造と機能 [2] (1)胃(単胃、複胃)(2)小腸(十二指腸、空腸、回腸)(3)大腸(盲腸、結腸、直腸)(4)肛門</p> <p>第9回 山本 消化器系の構造と機能 [3] (1)肝臓(2)胆嚢(3)膵臓(4)鳥類の消化器系</p> <p>第10回 石崎 泌尿器系の構造と機能 (1)腎臓(2)ネフロン(3)糸球体傍装置(4)集合管(5)膀胱などの尿路系(6)鳥類の泌尿器系</p> <p>第11回 神谷 生殖器系の構造と機能 (1)雄性生殖器系(2)雌性生殖器系(3)鳥類の生殖器系</p> <p>第12回 神谷 内分泌器官の構造とホルモン (1)視床下部・下垂体系(2)松果体(3)甲状腺(4)上皮小体(5)睪島(6)副腎(7)消化管ホルモン</p> <p>第13回 神谷 神経系の構造と機能 [1] (1)神経組織(2)中枢神経系(大脳、脳幹、小脳、脊髄)(3)髄膜(4)脳室系</p> <p>第14回 神谷 神経系の構造と機能 [2] (1)動物性(体性、脳脊髄)神経系(2)植物性(内臓性、自律)神経系(3)脳神経</p> <p>第15回 神谷 感覚器系の構造と機能 (1)外皮系(2)眼球と付属器(3)耳と付属器(4)受容器と伝導路</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	310120R1	科目区分	必修
科目名	動物形態学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	復習として、毎回のテーマについて配付したプリントを読み返す、あるいは参考書に眼を通す。(30分)		
テキスト・参考文献他	特に指定しないが、図書館などで関連する参考資料を検索して欲しい		
授業形態	講義室における講義		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	90%	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	0%	レポート試験等は実施しない
平常点評価	10%	出席、授業態度などを総合的に評価する

オフィスアワー	神谷：獣医保健看護学科応用部門（E棟4階）s.kamiya@nvl.u.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約（月～金曜 12:00～18:00）
その他	

科目No.	310130R2	科目区分	必修
科目名	動物形態学実習	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	2
担当教員	神谷 新司, 山本 昌美		

授業のねらい	動物形態学の講義で習得した動物の臓器や組織の構造について、光学顕微鏡を用いて観察し、諸臓器の細胞構成とその機能について理解することを目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 光学顕微鏡を正しく取扱い、組織標本の観察をおこなうことができる 2. 組織が、核と細胞質からなる細胞の集まりであることを理解できる 3. 各組織の形態学的特徴を理解し、機能も含めて説明できる
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	動物形態学の講義で学んだ基礎知識を確認してから実習に臨むことが望ましい
履修上の留意点	動物形態学の講義の資料を携帯することが望ましい。 疑問に思ったことは積極的に質問し、実習に参加すること。
概要・スケジュール	<p>第1回 筋組織と循環器系 筋組織：1. 骨格筋、2. 心筋 循環器系：1. 心臓、2. 動脈、3. 静脈</p> <p>第2回 呼吸器系と消化器系（1） 呼吸器系：1. 気管、2. 気管支、3. 肺 消化器系（1）：1. 唾液腺、2. 食道、3. 胃、4. 小腸、5. 大腸</p> <p>第3回 消化器系（2） 1. 肝臓、2. 膵臓</p> <p>第4回 泌尿器系と生殖器系 泌尿器系：1. 腎臓、2. 膀胱 雄性生殖器系：1. 精巣、2. 精巣上体、3. 精嚢、4. 前立腺 雌性生殖器系：1. 卵巣、2. 子宮、3. 膣</p> <p>第5回 免疫系 1. 胸腺、2. リンパ節、3. 脾臓</p> <p>第6回 内分泌器系 1. 下垂体、2. 甲状腺、3. 副腎、4. 膵島</p> <p>第7回 中枢神経系 1. 大脳、2. 小脳</p> <p>第8回 外皮 1. 皮膚、2. 皮膚腺</p> <p>第9回 血液と造血器 1. 末梢血液、2. 骨髄</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	310130R2	科目区分	必修
科目名	動物形態学実習	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実習における理解を深めるために、実習前に扱う項目に関する講義資料を読んでおくことが望ましい。(15分)		
テキスト・参考文献他	テキストは指定せず、毎回資料を配布する		
授業形態	実習室にて標本の概説をおこなったのち、各人1台ずつ準備した顕微鏡を用いて標本を観察、スケッチを行い理解を深める。		
成績評価基準			
種別	評価割合(%)	評価方法	
定期試験	70%	実習終了後、標本を観察しての試験を実施する	
レポート試験	20%	毎回のスケッチについて、確認をおこなう	
平常点評価	10%	出席、質問など実習への積極的な参加を総合的に評価する	
オフィスアワー	山本昌美：病態病理学分野（E棟4階） masamixnvl.u.ac.jp（xを@に変えて使用すること） Eメールにて受付、または実習期間以外は昼休みに(12:00-1300)		
その他			

科目No.	310140S1	科目区分	必修
科目名	動物遺伝学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	近江 俊徳, 落合 和彦		

授業のねらい	動物遺伝学では、各種動物を対象に、表現型として認識可能な生物の特性である形質および形質が親から子あるいはそれ以後の子孫（世代）に伝わる「遺伝」について、遺伝情報の伝達、法則、遺伝的多様性の生成・維持機構、遺伝子解析手法、遺伝病の発現様式などを学習する。
到達目標	1. DNAおよび染色体の構造、遺伝情報の伝達のしくみについて説明できる。 2. 遺伝の法則、遺伝的多様性、単一遺伝、多因子遺伝について説明できる。 3. 動物の血液型、気質（行動）や体質、遺伝病などの遺伝的素因を理解できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	特になし
履修上の留意点	特になし
概要・スケジュール	第1回 基礎遺伝学の歴史 近江 第2回 質的形質・量的形質とその遺伝 近江 第3回 メンデル遺伝学とその拡張 近江 第4回 遺伝子の本体と遺伝情報の流れの基礎 落合 第5回 遺伝子を担う染色体(基本構造とその異常) 落合 第6回 集団の遺伝学と遺伝的多様性 近江 第7回 DNAの複製、組換え、突然変異、修復 落合 第8回 遺伝情報の転写とタンパク質の合成 近江 第9回 遺伝子型と表現型 近江 第10回 遺伝と血液型およびDNA型と血統登録・親子識別 近江 第11回 遺伝と体質・気質（行動） 近江 第12回 遺伝と病気（単一遺伝子病と多因子遺伝病） 落合 第13回 ミトコンドリア遺伝子と変異 近江 第14回 組換えDNA技術と遺伝子工学 落合 第15回 遺伝子解析で考慮する規則と倫理 近江
授業期間を通して課される課題	小テストを行うことがある。

科目No.	310140S1	科目区分	必修
科目名	動物遺伝学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるため教科書および次回の講義で取扱う資料を事前に読むこと（30分） 復習として、毎回のテーマについてまとめておく（60分）		
テキスト・参考文献他	（参考図書）獣医遺伝学入門 鈴木勝士訳 学窓社（1999）、動物看護学教育標準カリキュラム準拠・動物形態機能学（Interzoo）、遺伝学 中村千春編 化学同人（2008）、動物応用遺伝学 佐々木義之編 朝倉書店（2005）		
授業形態	配布プリント、スライド、参考書等を使用して、講義を行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	80%	学期末に定期試験を実施
レポート試験	-	該当なし
平常点評価	20%	毎回出席を確認して出席率を評価に加える

オフィスアワー	近江：獣医保健看護基礎部門比較遺伝学研究分野（E棟4階） t.omi(a)nvl.u.ac.jp 落合：獣医保健看護基礎部門比較遺伝学研究分野（E棟4階） kochiai(a)nvl.u.ac.jp 講義終了後またはEメールにて面接を予約。 ※(a)を@にすること。
その他	

科目No.	310150R2	科目区分	必修
科目名	動物生化学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	2
担当教員	近江 俊徳, 落合 和彦		

授業のねらい	動物生化学は、動物の体がどのような化合物から成り立っているか、また日々行っている生命活動において、それらの化合物がどのようにつくられ、壊され、生体の恒常性が保たれているかなど、分子レベル理解することを目標とする。
到達目標	1) 生体を構成する物質を理解する。 2) 生体内の物質代謝を理解する。 3) 生体における情報の伝達および遺伝情報を理解する。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	特になし
履修上の留意点	特になし
概要・スケジュール	第1回 生化学を学ぶための基礎知識 近江 第2回 糖質 近江 第3回 脂質 近江 第4回 タンパク質 近江 第5回 核酸 落合 第6回 水と無機質 近江 第7回 血液と尿 落合 第8回 ホルモンと生理活性物質 近江 第9回 代謝のあらまし 近江 第10回 酵素・ビタミンと補酵素 近江 第11回 糖質代謝とその異常 落合 第12回 脂質代謝とその異常 近江 第13回 タンパク質代謝とその異常 近江 第14回 核酸・ポルフィリン代謝とその異常 落合 第15回 遺伝情報の伝達と制御機構 近江
授業期間を通して課される課題	小テストを行うことがある。

科目No.	310150R2	科目区分	必修
科目名	動物生化学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるため教科書および次回の講義で取扱う資料を事前に読むこと（30分） 復習として、毎回のテーマについてまとめておく（60分）		
テキスト・参考文献他	教科書：系統看護学講座 専門基礎 生化学（医学書院） 参考図書：獣医生化学（朝倉書店）、生化学（東京化学同人）、動物看護学教育標準カリキュラム準拠・動物形態機能学（Interzoo）		
授業形態	配布プリント，スライド，参考書等を使用して，講義を行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	80%	学期末に定期試験を実施
レポート試験	-	該当なし
平常点評価	20%	毎回出席を確認して出席率を評価に加える

オフィスアワー	近江：獣医保健看護基礎部門比較遺伝学研究分野（E棟4階） t.omi(a)nvl.u.ac.jp 落合：獣医保健看護基礎部門比較遺伝学研究分野（E棟4階） kochiai(a)nvl.u.ac.jp 講義終了後またはEメールにて面接を予約。 ※(a)を@にすること。
その他	

科目No.	310160R2	科目区分	必修
科目名	動物生化学実習	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	2
担当教員	近江 俊徳, 落合 和彦		

授業のねらい	動物生化学実習では、実験を体験することによって生命現象を化学的に捉え、分子レベルで理解する事を目的とする。本実習では生化学実験の基本操作、タンパク質の抽出と解析、核酸の抽出と解析、酵素反応実験などを実施し、動物生化学の考え方、理論の根拠を習得する。
到達目標	1) 生化学的な専門用語を実践的に理解する。 2) 酵素、タンパク質、核酸の実験を通して生命現象を分子レベルで理解する。 3) 分析機器の操作法、実験結果のまとめ方、論理的な考察力を身につける。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	1年次後期必修科目の動物遺伝学講義および2年次前期必修科目の動物生化学講義内容を復習して実習に臨むこと。
履修上の留意点	4~5人編成の班で実習を行う。実習参加に際しては白衣着用とし、レポート作成用のA4版実験ノートを持参すること（ルーズリーフは不可）。
概要・スケジュール	<p>第1回 生化学実験で使用する一般的な器具および機器の基本操作の習得 ・実習概要と注意事項の説明 ・ピペット類、ビーカー・フラスコ類、秤量計、pH測定機器、遠心器等の基本操作 ・電気泳動、試薬調整のための緩衝液の理論説明および作製 (近江・落合)</p> <p>第2回 タンパク質に関する実験(1) ・赤血球膜の単離と精製。SDS-PAGE用ゲル作製 (近江・落合)</p> <p>第3回 タンパク質に関する実験(2) ・SDS-PAGEによるタンパク質の電気泳動 (近江・落合)</p> <p>第4回 タンパク質に関する実験(3) ・SDS-PAGE結果に基づくタンパク質分子量の測定 ・Lowry法を用いたタンパク質量の定量解析 (近江・落合)</p> <p>第5回 核酸に関する実験(1) ・遺伝子解析に関するインフォームドコンセント ・細胞からの核酸抽出と核酸の定量 (近江・落合)</p> <p>第6回 核酸に関する実験(2) ・PCR法を用いた遺伝子増幅 ・PCR増幅産物の制限酵素切断 (近江・落合)</p> <p>第7回 核酸に関する実験(3) ・アガロースゲルの作製 ・PCR産物の電気泳動とPCR産物の検出 ・遺伝子型の判定 (近江・落合)</p>
授業期間を通して課される課題	実習で用いた手技・手法および分析機器の使用法、実験結果について項目ごとに実験ノート形式でレポートをまとめ、実習終了後に提出し評価資料とする。

科目No.	310160R2	科目区分	必修
科目名	動物生化学実習	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるため事前配布する実験手順を熟読する（60分） 復習として、毎回の実験方法および結果・考察についてまとめる（60分）		
テキスト・参考文献他	動物生化学実習書（教員作成資料）を配布する		
授業形態	実習書に記載されている手順で教員の指示にしたがい4～5人で編成する班ごとに実習を行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	-	該当なし
レポート試験	50%	実習内容と結果、考察および実習の感想等を提出
平常点評価	50%	毎回出席を確認して出席率を評価に加える

オフィスアワー	近江 獣医保健看護基礎部門比較遺伝学研究分野（E棟4階） t.omi(a)nvl.u.ac.jp 落合 獣医保健看護基礎部門比較遺伝学研究分野（E棟4階） kochiai(a)nvl.u.ac.jp 実習期間中またはEメールにて面接を予約すること（応相談） ※(a)を@にすること。
その他	

科目No.	310170R2	科目区分	必修
科目名	動物病態学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	2
担当教員	山本 昌美, 石崎 正通		

授業のねらい	動物病態学では動物形態学、動物機能学で習得した知識をもとに、疾病の成り立ちと体に生じる病的変化について学習する。生体の正常範囲を超えた変動の表現である各種疾病の原因、発症のしくみ、進展の様相、経過、転帰について、諸臓器、組織、細胞に生じる形態的、機能的変化を理解することを目的とする。
到達目標	1. 病的変化について、その特徴を発生機序と経過、形態的变化について理解できる。 2. 病態学実習までに必要な基礎的知識を習得する。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	動物形態学および動物機能学で学んだ、組織や細胞の構造および機能についての基礎知識が必要である。
履修上の留意点	
概要・スケジュール	<p>第1回 序論および病態論 (山本) 疾病は生体の正常範囲の変動を超えた変化で、病態病理学ではこの変化を形態学・機能学的に学ぶ。さまざまな病因とそれに対する生体反応と疾病の機序、ホメオスタシスを含めた生体の回復力について知り 疾病のなりたちについて理解する。</p> <p>第2回 退行性病変1 (山本) 組織や細胞はさまざまな物質代謝を営み動的平衡状態を保っているが、この障害が代謝障害である。このうちの変性や物質沈着について学ぶ。</p> <p>第3回 退行性病変2 (山本) 萎縮について、また受動的細胞死の壊死と、能動的細胞死のアポトーシスについて理解する。</p> <p>第4回 進行性病変 (山本) 生体の病的刺激に対する肥大・過形成など積極的な適応と、損傷といった障害組織とその治癒・修復について理解する。</p> <p>第5・6・7回 循環障害 (山本) 循環器系は血液循環系とリンパ(組織液を含む)循環系よりなり、この障害が循環障害である。血液とリンパ(組織液)の循環障害によりおこる病態と、脱水・ショックからおこる病態について学ぶ。</p> <p>第8回 生体防御機構 (石崎) 免疫は生体防御機構の重要な担い手である。その成り立ちと反応について理解する。</p> <p>第9回 アレルギーと自己免疫 (石崎) 免疫は生体にとって不利益な反応をも生じる。その現象として生じるアレルギー反応・免疫異常などについて理解する。</p> <p>第10回 炎症 (石崎) 生体に加わる刺激に対する反応で、局所防御反応である炎症について理解する。</p> <p>第11回 炎症の分類と疾病 (石崎) 炎症の形態的特徴による分類と、それぞれの特徴と代表的疾患について理解する。</p> <p>第12・13・14回 腫瘍 (山本) 腫瘍とは生体に由来する細胞が自律的に過剰に増殖した状態である。腫瘍の定義・分類と特徴を理解し、 腫瘍の原因と発癌機序、進行と生体への影響について学ぶ。</p> <p>第15回 先天異常と奇形 (石崎)</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	310170R2	科目区分	必修
科目名	動物病態学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	復習として、毎回のテーマについてプリントを読み返す、あるいは自分なりにまとめてみる。(30分)		
テキスト・参考文献他	テキストは使用せず、項目ごとに資料を配布する。		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	90%	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	0%	レポート試験等は実施しない
平常点評価	10%	出席、授業態度などを総合的に評価する

オフィスアワー	山本昌美：応用部門・病態病理学分野（E棟4階） masamixnvl.u.ac.jp（xを@に変えて使用すること） Eメールにて受付、または実習期間以外は昼休みに(12:00-1300)
その他	

科目No.	310180R2	科目区分	必修
科目名	動物病態学実習	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	2
担当教員	神谷 新司, 山本 昌美		

授業のねらい	動物病態学実習では、動物形態学および動物病態学で習得した知識に基づき、顕微鏡を用いて病理組織標本を観察し、疾病の形態的变化と生体の応答についての理解をさらに深めることを目標とする。
到達目標	1. 取り扱う標本についてその病理学的特徴と正常組織との違いを説明できる 2. 疾病によって細胞や組織に生じる形態的变化とそのなりたちについて理解できる
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	動物形態学実習と動物病態学の講義で学んだ基礎知識を確認してから実習に臨むことが望ましい
履修上の留意点	動物病態学の講義の資料を携帯することが望ましい。 疑問に思ったことは積極的に質問し、実習に参加すること。
概要・スケジュール	<p>第1～3回 実習説明 テーマ：代謝障害 1. 蛋白質変性 2. 脂肪変性 3. 色素沈着 4. 石灰沈着</p> <p>第4～5回 テーマ：壊死と循環障害 1. 壊死 2. 循環障害</p> <p>第6・7回 テーマ：炎症と異物処理 1. 炎症 2. 異物処理と肉芽腫</p> <p>第8～10回 テーマ：増殖性病変 1. 過形成 2. 腫瘍</p> <p>第11回 病理標本の作製</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	310180R2	科目区分	必修
科目名	動物病態学実習	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実習における理解を深めるために、実習前に扱う項目に関する講義資料を読んでおくことが望ましい。(15分)		
テキスト・参考文献他	テキストは指定せず、毎回資料を配布する。		
授業形態	実習室にて標本の概説をおこなったのち、各人1台ずつ準備した顕微鏡を用いて標本を観察、スケッチを行い理解を深める。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	70%	実習終了後、標本を観察しての試験を実施する
レポート試験	20%	毎回のスケッチについて、確認をおこなう
平常点評価	10%	出席、質問など実習への積極的な参加を総合的に評価する

オフィスアワー	山本昌美：応用部門・病態病理学分野（E棟4階） masamixn@vlu.ac.jp（xを@に変えて使用すること） Eメールにて受付、または実習期間以外は昼休みに（12:00-1300）
その他	

科目No.	310200R2	科目区分	必修
科目名	動物トレーニング理論	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	2
担当教員	水越 美奈, 矢崎 潤		

授業のねらい	問題を未然に防ぎ、社会に迷惑をかけずに動物と楽しく暮らすには適切なしつけが必要となる。この講義では犬と猫をとりあげて、家庭で飼育するために必要なしつけと行動の基本的知識を取り上げる。
到達目標	1. 基本的な学習理論について理解する。 2. 犬のボディランゲージについて理解する。 3. 犬や猫の飼育に必要な基本的な知識について理解する。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回 水越 なぜしつけが必要か？＜動物福祉とトレーニング＞ 第2回 水越 古典的条件づけ 第3回 水越 オペラント条件づけ 第4回 水越 報酬と嫌悪刺激 第5回 水越 学習の方法（反応形成） 第6回 水越 学習に影響を与える因子 第7回 水越 犬のボディランゲージ（1） 第8回 水越 犬のボディランゲージ（2） 第9回 水越 行動の発達 第10回 矢崎 犬の飼育と環境エンリッチメント 第11回 矢崎 社会化とパピートレーニング 第12回 矢崎 社会化とパピートレーニング 第13回 矢崎 ささまざまなトレーニング方法の比較 第14回 水越 猫のボディランゲージとコミュニケーション 第15回 水越 猫の飼育と環境エンリッチメント
授業期間を通して課される課題	

科目No.	310200R2	科目区分	必修
科目名	動物トレーニング理論	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容を深めるために講義内容に関する資料や本を事前に読むこと(30分) 復習として毎回のテーマについてまとめておく(60分)		
テキスト・参考文献他	授業ごとにプリントを配布する。 テキスト：専門基礎分野「動物行動学」全国動物看護学系大学協会編 インターズー。参考書として； 「DVDでわかる！犬のしつけ&トレーニング」水越美奈監修 西東社、 その他、随時授業時間中に指示する。		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	80%	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	0%	実施しない
平常点評価	20%	出席、小レポート、出席態度などを総合的に評価する

オフィスアワー	水越：獣医保健看護学科臨床部門（E棟4階） mmizukoshi * nvl.u. ac. jp（*を@に変えて使用すること） Eメールにて受付または面接を予約 矢崎：水越宛にEメールにて受付あるいは教務 kyomu * nvl.u. ac. jp（*を@に変えて使用すること）		
その他			

科目No.	310230R2	科目区分	必修
科目名	動物トレーニング理論実習 a	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	2
担当教員	水越 美奈		
授業のねらい	動物トレーニング理論の講義に基づいて実習を行う。対象は犬で、家庭犬にトレーニングを行うだけでなく、家庭犬が社会でうまく生活できるようにさまざまなものに慣らすテクニックや保定、口輪などに慣らすなど診療補助に役立つ技術の習得を目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動物に優しい扱い方を学ぶ 2. 基本的なしつけのテクニックを習得する 3. さまざまなものに慣らすときのテクニックを習得する 		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	動物トレーニング理論（講義）と連動した実習であるので、講義の内容をしっかりと理解して実習に臨むこと		
履修上の留意点	看護衣、看護シューズ着用のこと。トリーツポーチを用意すること。名札を必ず装着する。		
概要・スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 リードの持ち方、長さ、安全管理 第3回 ボディランゲージの観察、全身を触る、グルーミングに慣らす 第4回 マグネット（手について動く）、おすわり、ふせ 第5回 おすわり、ふせ、たて 第6回 アテンション、まて、解除の合図 第7回 おいで</p> <p>到達程度により、内容が前後したり、重なることがあるので注意 実習内容は毎回完結ではなく、1年を通じて進行するので、できるだけ欠席しないこと</p>		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	310230R2	科目区分	必修
科目名	動物トレーニング理論実習 a	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実習内容は進行するので、その場その場で理解していくことが大切		
テキスト・参考文献他	特に指定しないが、参考資料として、「DVDでわかる犬のしつけ&トレーニング」水越美奈監修、矢崎潤出演 西東社、「家庭犬のしつけDVD」水越美奈監修、矢崎潤出演 日本動物病院福祉協会（JAHA）		
授業形態	犬を使った少人数でのグループワーク		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	実施しない
レポート試験	30%	学期の初回と終了回にレポートを課す
平常点評価	70%	出席、積極性、服装、犬への接し方など総合的に評価

オフィスアワー	水越：臨床部門（E棟4階） mmizukoshi * nvlu. ac. jp（*を@に変えて使用） Eメールにて受付または面接を予約
その他	

科目No.	310240R2	科目区分	必修
科目名	動物トレーニング理論実習 b	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	2
担当教員	水越 美奈		

授業のねらい	動物トレーニング理論の講義に基づいて実習を行う。対象は犬で、家庭犬にトレーニングを行うだけでなく、家庭犬が社会でうまく生活できるようにさまざまなものに慣らすテクニックや保定、口輪に慣らすなど、診療補助に役立つ技術の習得を目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動物に優しい扱い方を学ぶ 2. 基本的なしつけのテクニックを習得する 3. さまざまなものに慣らすときのテクニックを習得する
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	動物トレーニング理論(講義)と連動した実習であるので、講義の内容をしっかりと理解した上で実習に臨むこと
履修上の留意点	看護衣、看護シューズ着用のこと。トリーツポーチを用意すること。名札を必ず装着する。
概要・スケジュール	<p>第8回 引っ張らずに歩く 第9回 報酬の与え方を変化させていく 第10回 診察台の上で落ち着かせる、保定、移動のハンドリングテクニック 第11回 担当犬を変えてやってみる 第12回 口輪など、見知らぬものや嫌なものに対する慣らし方 第13回 トリックを教える(1) 第14回 トリックを教える(2) 第15回 まとめ</p> <p>到達程度により、内容が前後したり、重なることがあるので注意 実習内容は毎回完結ではなく、1年を通じて進行するので、できるだけ欠席しないこと</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	310240R2	科目区分	必修
科目名	動物トレーニング理論実習 b	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実習内容は進行するので、その場その場で理解していくことが大切		
テキスト・参考文献他	特に指定しないが、参考資料として、「DVDでわかる犬のしつけ&トレーニング」水越美奈監修、矢崎潤出演 西東社、「家庭犬のしつけDVD」水越美奈監修、矢崎潤出演 日本動物病院福祉協会（JAHA）		
授業形態	犬を使った少人数でのグループワーク		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	実施しない
レポート試験	30%	学期の初回と終了回にレポートを課す
平常点評価	70%	出席、積極性、服装、犬への接し方など総合的に評価

オフィスアワー	水越：臨床部門（E棟4階） mmizukoshi *nvl.u.ac.jp（*を@に変えて使用） Eメールにて受付または面接を予約
その他	

科目No.	310250R2	科目区分	必修
科目名	動物微生物学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	2
担当教員	青木 博史, 福所 秋雄, 塩川 舞		

授業のねらい	動物微生物学では、陸生動物の病原微生物とそれによる感染症の特徴を学び、獣医療における動物看護や動物保健衛生に欠かすことができない動物保健衛生管理技術の基盤知識の習得を目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 陸生動物にかかわる病原微生物の種類と生物学的特徴について理解する。 2. 病原微生物の培養法、検査法または診断法、ならびに予防法について説明できる。 3. 動物の感染症の特徴を踏まえた診断法や感染制御法を整理し、予防対策について議論できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	動物遺伝学（1N）および動物生化学（2N）で学ぶ生物・細胞生物学的基礎知識を確認しながら履修に臨むこと。
履修上の留意点	
概要・スケジュール	<p>第1回 青木博史 微生物学の歴史、感染症論、家畜伝染病予防法等</p> <p>第2回 青木博史 細菌（リケッチア及びクラミジアを含む。以下同じ。）・真菌の分類と構造、一般性状</p> <p>第3回 青木博史 細菌・真菌の増殖、物質代謝、遺伝と変異</p> <p>第4回 青木博史 細菌の感染と発症（病原性）</p> <p>第5回 青木博史 細菌検査法（染色法及び培養法を含む）</p> <p>第6回 青木博史 化学療法と薬剤耐性</p> <p>第7回 青木博史 細菌性疾病各論</p> <p>第8回 塩川 舞 ウイルス（プリオンを含む。以下同じ。）の分類と構造および機能</p> <p>第9回 塩川 舞 ウイルスの増殖と培養</p> <p>第10回 塩川 舞 ウイルスの変異と遺伝、感染と発症</p> <p>第11回 青木博史 ウイルス検査法、安全対策（バイオハザード、バイオセーフティを含む）</p> <p>第12回 外部講師 病原微生物の予防技術（ワクチンを含む）</p> <p>第13回 福所秋雄 消毒と滅菌</p> <p>第14回 福所秋雄 ウイルス性疾病各論 1（産業動物）</p> <p>第15回 塩川 舞 ウイルス性疾病各論 2（家庭動物）</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	310250R2	科目区分	必修
科目名	動物微生物学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるため、次回の講義の内容に合致する教科書内の項目を事前に読んでおくこと。(20分) 復習として、講義で取り扱うプリントを参考に、毎回のテーマについてまとめておくこと。(60分)		
テキスト・参考文献他	教科書：動物微生物検査学（近代出版） 参考書：動物の感染症 第3版（近代出版）、獣医微生物学 第3版（文英堂出版） その他：適宜、プリントを配布する。		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	80%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	レポート試験は実施しない。
平常点評価	20%	出席、質疑応答等積極的な参加を総合的に評価する。

オフィスアワー	青木博史：獣医保健看護学科基礎部門（微生物・感染症）、月・水・木の12:00～12:30又は17時以降。 塩川舞：獣医保健看護学科基礎部門（微生物・感染症）、月・水・金の12:00～12:30又は17時以降。 福所秋雄：質問および面会希望予約について、青木博史が受け付ける。
その他	

科目No.	310260R2	科目区分	必修
科目名	動物微生物学実習	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	2
担当教員	青木 博史, 塩川 舞		

授業のねらい	動物微生物学（2N前期）で学んだ知識に基づき、病原微生物の検出法や制御法の理論と技術を習得することを目的とする。これら技術を学んだ上で、動物の感染症の制御や衛生管理のあり方を理解することを目指す。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病原微生物（検体）の取扱い、無菌操作、消毒・滅菌について理解する。 2. 病原検査と抗体検査を理解し、動物の感染症の診断技術について説明できる。 3. 微生物の培養や検出を意識して、感染症の診断薬や予防薬（ワクチンを含む）について議論できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	動物微生物学で学んだ基礎知識を確認してから実習に臨むこと。 また、生物学や動物生化学などで学ぶ「代謝」についての基礎知識が必要である。
履修上の留意点	実習中の発言・質疑など、積極的に参加すること。 病原微生物を取り扱うので、実習上の注意点（初回に説明）を厳守すること。
概要・スケジュール	第1回 微生物検査の心得 : 環境中の微生物、消毒・滅菌、生物災害対策など 第2回 細菌学実習1 : 微生物材料の取り扱いと細菌培養 第3回 細菌学実習2 : 集落の観察、細菌染色法、純培養法 第4回 細菌学実習3 : 薬剤感受性試験、生物学的性状検査 第5回 細菌学実習4 : 薬剤感受性と耐性菌、細菌の同定法 第6回 ウイルス学実習1 : 組織培養細胞の取扱い 第7回 ウイルス学実習2 : ウイルス培養法（培養細胞・発育鶏卵） 第8回 ウイルス学実習3 : 病原検査1（赤血球凝集反応） 第9回 ウイルス学実習4 : 病原検査2（感染価の測定） 第10回 ウイルス学実習5 : 血清学的検査1（赤血球凝集阻止反応） 第11回 ウイルス学実習6 : 血清学的検査2（標識抗体法）
授業期間を通して課される課題	第5回および第11回終了後に小テストを実施する。 第11回終了以降に実習ノートの提出を課す。

科目No.	310260R2	科目区分	必修
科目名	動物微生物学実習	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	理解を深めるため、実習で取り扱う内容を、動物微生物学で用いた教科書や配布資料で予め確認しておくこと。(20分) 復習として、毎回のテーマをまとめるとともに、実習で得た検査結果に対する考察等を実習ノートにまとめておくこと。(60分)		
テキスト・参考文献他	テキスト：実習プリントを配布する。 参考書：動物微生物検査学（近代出版）		
授業形態	実習室（BSL2）で実施		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	0%	定期試験は実施しない。
レポート試験	0%	レポート試験は実施しない。
平常点評価	100%	出席、小テスト、提出ノート、質疑応答を総合的に評価する。

オフィスアワー	青木博史：獣医保健看護学科基礎部門（微生物・感染症）、火～木曜の12:00～12:30または実習終了後。 塩川舞：獣医保健看護学科基礎部門（微生物・感染症）、火～木曜の12:00～12:30または実習終了後。
その他	

科目No.	310270R2	科目区分	必修
科目名	動物心理学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	2
担当教員	柿沼 美紀, 野瀬 出		
授業のねらい	様々な動物種を比較することで、動物の行動メカニズムを探る。また動物園の飼育動物の行動傾向や、飼育環境が行動にもたらす影響について検討する。さらに、イヌ、ネコなど人の生活に密着している動物の行動特性について理解し、人との関係について考える。		
到達目標	動物に共通するメカニズムを理解するとともに、その種に特有の行動を適切に説明する。動物の行動観察を実施し、データの収集・分析をする。種の特性、生後の環境、経験から、ペットの問題行動を議論する。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点	授業時間内に多摩動物公園を2回訪問する。交通費は自己負担となる。		
概要・スケジュール	第1回 動物心理学とは（柿沼） 第2回 行動観察の基礎1（柿沼・野瀬） 第3回 行動観察の基礎2（柿沼・野瀬） 第4回 行動観察の基礎3（柿沼・野瀬） 第5回 行動観察の基礎4（柿沼・野瀬） 第6回 環境エンリッチメントと動物の行動1（柿沼・野瀬） 第7回 環境エンリッチメントと動物の行動2（柿沼・野瀬） 第8回 脳の進化（柿沼・野瀬） 第9回 動物の知性（野瀬） 第10回 攻撃と和解／カーミングシグナル（柿沼） 第11回 社会的知能の進化／社会的認知の起源（柿沼） 第12回 チンパンジーの社会（柿沼） 第13回 母子相互作用と社会性の発達（柿沼） 第14回 ペットの問題行動／動物虐待（柿沼） 第15回 ペットのストレス（柿沼）		
授業期間を通して課される課題	行動観察と環境エンリッチメントに関する計2本のレポート課題を課す。また授業内で小レポートを提出する。		

科目No.	310270R2	科目区分	必修
科目名	動物心理学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習として、授業内で指定された資料を読んでおく（60分）。 復習として、その日の授業内容を整理してまとめる（60分）。		
テキスト・参考文献他	岡野恒也 監修 社会性の比較発達心理学 プレイン社		
授業形態	講義を中心とする。視聴覚教材も使用する。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	70	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	20	授業内で小レポートを課す。
平常点評価	10	出席状況、質疑応答など積極的な授業参加を評価する。

オフィスアワー	月曜日12:00-13:00、D棟4階 比較発達心理学研究室 Eメールで予約をすること。送信の際はメールアドレスの◎を@にする。 柿沼美紀 (kakinuma-miki@nvl.u.ac.jp)、野瀬出 (inose@nvl.u.ac.jp)
その他	

科目No.	310280R2	科目区分	必修
科目名	動物保健看護関連法規	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	2
担当教員	牧野 ゆき		

授業のねらい	動物や動物に関する業務と関連する法について、動物を取り巻く社会情勢の変化や、社会的な問題を取り上げながら考える。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 獣医療や動物に関連する各種法規の概要を理解し、説明できる。 ・ 動物看護師や生命科学にかかわる者の社会的責任や、果たすべき役割について理解し、説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	「法」という、獣医看護学を専門とする学生にはあまりなじみのない分野ではあるが、自分自身の問題として興味を持ち、積極的に取り組んで欲しい。
概要・スケジュール	第 1 回 オリエンテーション（法の基礎知識） 第 2 回 家畜衛生行政の仕組み、公衆衛生行政の仕組み、国際機関との連携 第 3 回 獣医事関連法規（獣医師法、獣医療法） 第 4 回 家畜衛生行政関連法規（家畜伝染病予防法、BSE 法、牛肉トレーサビリティ法、飼料安全法、ペットフード安全法） 第 5 回 公衆衛生行政関連法規（1）（感染症法、狂犬病予防法） 第 6 回 公衆衛生行政関連法規（2）（食品衛生法、食品安全基本法、と畜場法、食鳥処理法、身体障害者補助犬法） 第 7 回 動物の輸入に関する法規 第 8 回 薬事関連法規（医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律、毒物及び劇物取締法、麻薬及び向精神薬取締法、覚醒剤取締法） 第 9 回 環境行政関連法規（1）（動物の愛護及び管理に関する法律、動物の飼養及び保管に関する諸基準）第 10 回 環境行政関連法規（2）（外来生物法、種の保存法） 第 11 回 環境行政関連法規（3）（鳥獣保護法、ワシントン条約、ラムサール条約） 第 12 回 動物の飼育と法（1）（動物と社会） 第 13 回 動物の飼育と法（2）（動物と法） 第 14 回 動物の飼育と法（3）（動物による事故と飼育者の責任） 第 15 回 動物の飼育と法（4）（動物に関するトラブル）
授業期間を通して課される課題	

科目No.	310280R2	科目区分	必修
科目名	動物保健看護関連法規	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習として、次回講義で取り上げる内容について、資料の該当箇所を読んでおく（90分） 復習として、講義内容についてまとめ、関連する事項について新聞等を確認する（90分）		
テキスト・参考文献他	配布プリントを使用		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	80%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	実施しない。
平常点評価	20%	出席状況や質問等、積極的な参加や問題意識の持ち方を考慮。

オフィスアワー	牧野ゆき：獣医保健看護学科臨床部門（D棟1階） y-makino@nvl.u.ac.jp（××を@にすること） 事前にメールで在室を確認のこと。
その他	

科目No.	310290R2	科目区分	必修
科目名	動物寄生虫学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	2
担当教員	池 和憲		

授業のねらい	動物寄生虫学では獣医学に関連した寄生虫のなかで、主にコンパニオンアニマルに感染する寄生虫を中心に講述し、動物に感染する寄生虫について大きくとらえる事に重点をおく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 寄生虫学の用語をマスターすること。 2. 寄生虫学の分類を理解すること。 3. 寄生虫の発育環を理解すること。 		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	高等学校・生物の「生物の分類と系統」の節を復習しておくこと。		
履修上の留意点	講義に臨むに当たっての一般的な注意事項を再確認すること。		
概要・スケジュール	<p>第1回 池 和憲 寄生虫学総論 (1) 歴史、寄生虫症と動物寄生虫学の重要性、寄生虫-宿主との相互関係、動物寄生虫の分類、寄生虫の生活環と生殖法</p> <p>第2回 池 和憲 寄生虫学総論 (2) 感染経路と伝播形式、寄生虫-衛生動物の病害と宿主の反応、人獣共通感染症、寄生虫病の治療と予防</p> <p>第3回 池 和憲 原虫学総論/原虫学各論 (1) 赤痢アメーバ、ジアルジア類、トリパノソーマ類</p> <p>第4回 池 和憲 原虫学各論 (2) リーシュマニア類、アピコンプレックス類、ヘパトゾーン類</p> <p>第5回 池 和憲 原虫学各論 (3) ヘパトゾーン類、ピロプラズマ類</p> <p>第6回 池 和憲 蠕虫学総論/吸虫類総論/吸虫類各論 (1) 肝蛭、横川吸虫</p> <p>第7回 池 和憲 吸虫類各論 (2) 肝吸虫、壺形吸虫、肺吸虫類、浅田棘口吸虫、住血吸虫類</p> <p>第8回 池 和憲 条虫類総論/条虫類各論 (1) 日本海裂頭条虫、マンソン裂頭条虫</p> <p>第9回 池 和憲 条虫類各論 (2) 犬、猫の条虫類、ウマの条虫類、齧歯類の条虫類、ヒトの条虫類</p> <p>第10回 池 和憲 線虫類総論/線虫類各論 (1) 回虫類、蟯虫類、アニサキス類</p> <p>第11回 池 和憲 線虫類各論 (2) 鉤虫類、糞線虫類、広東住血線虫、ウマの円虫類、胃虫・顎口虫類</p> <p>第12回 池 和憲 線虫類各論 (3) 犬糸状虫、東洋眼虫、鞭虫類、施毛虫</p> <p>第13回 池 和憲 衛生動物学総論/衛生動物学各論 (1) ダニ類</p> <p>第14回 池 和憲 衛生動物学各論 (2) シラミ・ハジラミ類、ノミ類、双翅類</p> <p>第15回 池 和憲 寄生虫の診断と検査</p>		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	310290R2	科目区分	必修
科目名	動物寄生虫学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習として、各寄生虫の分類学的位置の把握に努めること（30分）。 復習として、専門用語および各寄生虫の生活環の整理と理解に努めること（60分）。		
テキスト・参考文献他	<テキスト> 犬・猫・エキゾチックの寄生虫ビジュアルガイド インターズー		
授業形態	上記テキストの内容を基本に、スライドを用いて講述する。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	100%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	必要に応じて実施する可能性あり
平常点評価	0%	必要に応じて実施する可能性あり。

オフィスアワー	池 和憲（担当教員）：獣医寄生虫学教室（D棟4階）ike-k×nvl.u.ac.jp（×を@に変えて使用すること） Eメールにて受付または面談を予約（日時は応談）
その他	

科目No.	310300R3	科目区分	必修
科目名	動物寄生虫学実習	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	池 和憲, 森田 達志		

授業のねらい	2年次後期に開講された「動物寄生虫学」で学んだ獣医看護領域で扱うべき寄生虫類について、その形態、生態および病態発生をより深く理解するとともに、獣医保健看護師として責任をもって寄生虫性疾患の検査が行えるように理論と技術を身につける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動物寄生虫学分野で一般に行われる検査方法を理解する。 2. 責任を持って動物の寄生虫性疾患の検査ができる。 3. 動物寄生虫学で学んだ内容をより深く理解する。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	動物寄生虫学について復習し、知識を確認しておく。
履修上の留意点	感染性材料を扱うことも多いので緊張感を持って実習に参加すること。
概要・スケジュール	第1回：イントロダクション 第2回：原虫染色標本の観察 第3回：実験動物の寄生虫検査 第4回：犬糸状虫の検査 第5回：糞便検査（1）肉眼検査および直接法 第6回：糞便検査（2）浮遊法および遠心沈澱法 第7回：反芻動物の糞便検査 第8回：衛生動物の観察
授業期間を通して課される課題	毎回の実習終了時には、班単位でその日に描いたスケッチのチェックを行う。また実習日程とは別に、実習で供覧した標本および実習用機器を対象としたスライド試験と筆記試験を行う。

科目No.	310300R3	科目区分	必修
科目名	動物寄生虫学実習	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実習のため授業外学修は強制ではないが、各実習日ごとに修得した知識と技術について復習し定着に努めること。		
テキスト・参考文献他	適宜プリントを配付する。 教科書：犬・猫・エキゾチックペットの寄生虫ビジュアルガイド（佐伯英治著・インターズー） 参考書：獣医寄生虫検査マニュアル（文永堂）、動物寄生虫学講義プリント。		
授業形態	実習室における実習		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	60%	スライド試験と筆記試験（実習日程終了後）
レポート試験	20%	実習日程終了後にスケッチブック提出
平常点評価	20%	出席および積極的参加

オフィスアワー	獣医寄生虫学研究室（D棟4階） 池 和憲 ike-k【at】nvl.u.ac.jp（【at】を@に置き換えてメールして下さい） 月～金の午後。但し実習・会議等で不在の可能性があるので、上記メールで面接を予約すること。 森田達志 t-morita【at】nvl.u.ac.jp（【at】を@に置き換えてメールして下さい） 日～金の午後。但し実習・会議等で不在の可能性があるので、上記メールで面接を予約すること
その他	

科目No.	310310R2	科目区分	必修
科目名	動物医療検査学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	2
担当教員	皆上 大吾		

授業のねらい	本講義では血液検査、血液化学検査、尿検査、細胞診検査など、動物医療現場で頻繁に行われる検体検査を中心にその原理、方法、結果の解釈について理解することを目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各検体検査の目的を理解する。 2. 各検体検査の原理および方法を理解する。 3. 検体検査結果に基づき、患者動物の状態を正確にアセスメントできる。 		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	「動物生化学」 生化学の知識および実験手法を理解して講義に臨むこと 「動物病態学」 各疾患の病態を理解して講義に臨むこと		
履修上の留意点	テキストや参考文献を利用し、予習・復習を実施すること。		
概要・スケジュール	第1回	皆上大吾	小動物診療の流れと臨床検査
	第2回	皆上大吾	サンプルの取り扱い
	第3回	皆上大吾	完全血球計算 (Complete Blood Count; CBC) とは
	第4回	皆上大吾	血小板の評価法
	第5回	皆上大吾	赤血球の評価法
	第6回	皆上大吾	白血球の評価法
	第7回	皆上大吾	血液化学検査概論
	第8回	皆上大吾	肝胆道系の検査とその評価法1
	第9回	皆上大吾	肝胆道系の検査とその評価法2
	第10回	皆上大吾	腎臓の検査と評価法
	第11回	皆上大吾	尿検査とその評価法1
	第12回	皆上大吾	尿検査とその評価法2
	第13回	皆上大吾	血液型と輸血検査
	第14回	皆上大吾	血液凝固検査
	第15回	皆上大吾	細胞診検査
授業期間を通して課される課題	適宜、授業内容に関する小テストを授業時間内に実施する		

科目No.	310310R2	科目区分	必修
科目名	動物医療検査学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	参考文献などで次回の講義内容に関する資料を読む(60分) 授業内容の理解を深めるために配布したプリントを復習し、関連資料をまとめる(60分) など		
テキスト・参考文献他	(テキスト) 授業で配布するスライド資料 (参考文献) 犬と猫の臨床検査マスターブック(インターズー) 動物看護のための小動物臨床検査学上・下巻(ファームプレス)		
授業形態	スライドを用いた授業。一部板書あり。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	70%	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	0%	原則的にレポートによる評価は実施しない
平常点評価	30%	授業への定時出席や質問等積極的な参加を総合的に評価する

オフィスアワー	担当教員 皆上大吾 獣医保健看護学臨床部門研究室(E棟4階) azakami@nvl.u.ac.jp 金曜日16:00~17:00(ただし、授業、実習、会議、診療等で不在の場合はメールにて質問を受付)
その他	

科目No.	310320R3	科目区分	必修
科目名	動物医療検査学実習	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	皆上 大吾		
授業のねらい	本実習では血液検査、血液化学検査、尿検査、細胞診検査など、動物医療現場で頻繁に行われる検体検査の原理を理解し、正確に実施、解釈することを目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各検体検査の目的を理解する。 2. 各検体検査の原理および方法を理解する。 3. 各検体検査を正確に実施できる。 		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	「動物医療検査学」 各検体検査の目的、原理、結果の解釈を理解して実習に臨むこと。		
履修上の留意点	動物医療検査学講義で配布したプリントを使用し、十分に予習すること。 テキストや参考文献を利用し、復習を実施すること。		
概要・スケジュール	第1回 院内検査機器の使用法 第2回 完全血球計算 (Complete Blood Count: CBC) の実施と塗抹標本の作製法 第3回 正常な動物の血液塗抹標本の観察 第4回 血液塗抹の異常所見1 第5回 血液塗抹の異常所見2 第6回 輸血検査の実施法 第7回 血液凝固検査の実施法 第8回 尿・糞便検査 第9回 細胞診標本の作製と観察 第10回 実地試験		
授業期間を通して課される課題	適宜、実習内容に関する小テストを実習時間内に実施する。		

科目No.	310320R3	科目区分	必修
科目名	動物医療検査学実習	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	参考文献などで次回の実習内容に関する資料を読む(60分) 授業内容の理解を深めるために配布したプリントを復習し、関連資料をまとめる(60分) など		
テキスト・参考文献他	(テキスト) 授業で配布するスライド資料 (参考文献) 犬と猫の臨床検査マスターブック(インターズー) 動物看護のための小動物臨床検査学上・下巻(ファームプレス)		
授業形態	毎回、実習内容に関する事前説明を1時間程度実施したのちに実技実習を実施する。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	50%	第10回においてスライドで問題を図示する形式で試験を行う。
レポート試験	0%	原則的にレポートによる評価は実施しない。
平常点評価	50%	定時出席、質疑、積極性などを総合的に評価する

オフィスアワー	担当教員 皆上大吾 獣医保健看護学臨床部門研究室(E棟4階) azakami@nvl.u.ac.jp 金曜日16:00~17:00(ただし、授業、実習、会議、診療等で不在の場合はメールにて質問を受付)
その他	

科目No.	310330R2	科目区分	必修
科目名	動物栄養学概論	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	2
担当教員	左向 敏紀, 石岡 克己, 森 昭博		

授業のねらい	栄養に役立つ化学成分を栄養素という。栄養素はタンパク質、脂質、炭水化物、無機物およびビタミン（五大栄養素）に大別される。本科目は、動物に必要な各栄養素やエネルギーの役割、利用と代謝、飼料の概要について解説する。
到達目標	炭水化物、脂質、タンパク質（アミノ酸）の消化吸收、生体内移動および代謝経路を説明できる。ビタミンおよびミネラルの機能、欠乏症、過剰症を説明できる。ライフステージの違いによる要求の違いを説明できる。肥満状態の違いを説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、炭水化物と糖代謝 担当：左向 2. 炭水化物2、疾病との関係 担当：左向 3. 脂肪と脂質 担当：左向 4. 脂肪と脂質2、疾病との関係 担当：左向 5. タンパク質 担当：左向 6. ビタミンと関連疾病、カルシウム代謝、ミネラル 担当：左向 7. 食べさせてはいけないもの 担当：左向 8. 水、エネルギー計算 担当：森 9. ペットフードの種類、製造、材料、療法食について 担当：森 10. 動物の食性と比較生理学 担当：石岡 11. ライフステージと栄養1(幼齢期、成長期、維持期、老齢期) 担当：石岡 12. ライフステージと栄養2 担当：石岡 13. 動物の食性と比較生理 担当：石岡 14. 肥満と栄養指導1 担当：石岡 15. 肥満と栄養指導2 担当：石岡
授業期間を通して課される課題	

科目No.	310330R2	科目区分	必修
科目名	動物栄養学概論	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業内容の事前配布による予習（30分） 授業内容のレポートまたは内容の確認テスト（70分）		
テキスト・参考文献他	動物看護学教育標準カリキュラム準拠・動物栄養管理学（inter zoo）		
授業形態	授業での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	80%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	10%	授業内容のレポート
平常点評価	10%	小テスト

オフィスアワー	左向敏紀：獣医保健看護学科臨床部門（D棟1階） t-sako××nvl.u.ac.jp（××を@にすること） メールにて受付または面接を予約
その他	

科目No.	310350R2	科目区分	必修
科目名	動物グルーミング理論	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	2
担当教員	水越 美奈, 松原 孝子		

授業のねらい	動物看護技術の概念を理解し、様々な看護援助を実践するための基礎的な能力を修得する。特に、動物看護に共通する基本技術、日常生活の援助技術、診療に伴う技術を理解する。さらに、実践的な看護を学ぶ上で、健康レベルに応じた具体的な看護援助と動物看護過程を展開できる能力を習得する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動物を対象とする動物看護援助の特徴を理解する 2. 動物看護に共通する技術を理解する 3. 日常生活の援助技術、診療に伴う技術を理解する 4. 経過に基づく動物看護を理解する 5. 事例をもとに、動物看護過程を理解する
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	動物グルーミング実習aを復習しておく
履修上の留意点	主体的に授業に参加すること
概要・スケジュール	第1回 動物看護技術とは 第2回 動物看護における倫理的な問題 第3回 共通する動物看護技術「対人関係の技術・コミュニケーション」 第4回 共通する動物看護技術「対動物関係の技術」 第5回 安全確保（事故防止）の動物看護技術 第6回 感染予防（環境整備を含む）の動物看護技術 第7回 苦痛の緩和・安楽の確保（罨法） 第8回 動作における援助 第9回 清潔を保つための援助、排泄の援助方法 第10回 食事援助における技術 第11回 薬物療法における援助 第12回 経過に基づく動物看護とは 第13回 動物看護過程の展開 第14回 動物看護過程の展開 第15回 動物看護過程の展開
授業期間を通して課される課題	各單元ごとに小テスト、必要時レポートを課す

科目No.	310350R2	科目区分	必修
科目名	動物グルーミング理論	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容を深めるため次回の講義で扱う資料や教本を事前に読むこと（30分） 復習として必要時レポート課題を求める（60分）		
テキスト・参考文献他	テキスト：動物看護技術トレーニングブック 「今からはじめる動物看護過程」 参考書：動物看護学教育標準カリキュラム準拠「専門分野 基礎動物看護学」 動物看護学教育標準カリキュラム準拠「専門分野 基礎動物看護技術」 動物看護学教育標準カリキュラム準拠「専門分野 臨床動物看護学総論」 「イラストでやさしく動物看護者の倫理」		
授業形態	教室内での講義、少人数のグループワーク		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	70	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	15	レポート内容を評価する
平常点評価	15	出席、小テスト、グループワーク参加姿勢を評価する

オフィスアワー	松原（担当教員）：研究室にて takako1961@nvl.u.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約すること
その他	遅刻扱いは15分未満まで 出席が2/3に満たないものは、定期試験が受けることはできない

科目No.	310380R2	科目区分	必修
科目名	動物グルーミング理論実習 a	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	2
担当教員	松原 孝子, 百田 豊		

授業のねらい	動物看護技術の概念を理解し、様々な看護援助を実践するための基礎的な能力を修得する。学内演習により動物看護技術の構成要素を理解し、動物看護師としての知識・技術・態度を身につける
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動物看護技術に必要な構成要素を理解する 2. 援助場面による基本的な態度を習得できる 3. 動物看護の原理・原則の個々へのケースへの適用の仕方を学ぶ
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	テキスト・資料など事前学習を必ず行い、参加すること
履修上の留意点	動物看護師としての規定の服装や態度に満たないものは演習に参加することはできない。実習目標を理解し、主体的に参加すること。
概要・スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・受付・診察における援助 ・入院受け入れ時の援助 ・環境整備（入院室、ケージ内など） ・被毛の手入れの援助 （退院時の手入れ、シャンプーカウンセリングなど） ・犬への口腔内の清潔（口腔内のアセスメント、歯ブラシの使用など） ・死における援助（危篤時、エンゼルケアなど） <p>などの動物看護技術を組み合わせた演習テーマについて、グループごとに、ローテーションでおこなう。 最終回時に、グループ確認テストあり。</p>
授業期間を通して課される課題	<p>演習テーマごとの記録物の提出 自己の演習の参加態度や姿勢の評価表 全体を通してのレポートの提出</p>

科目No.	310380R2	科目区分	必修
科目名	動物グルーミング理論実習 a	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるため、次回の演習資料を事前に読むこと（30分）		
テキスト・参考文献他	テキスト：「動物看護技術トレーニングブック」 演習導入時に「学内演習の進め方」の資料を学内LANにアップ		
授業形態	実習室内による少人数グループでの演習とする		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	行わない
レポート試験	50	各演習ごとの記録物、評価表、全体のレポート
平常点評価	50	出席、実習態度、確認テスト結果

オフィスアワー	<p>松原（担当教員）：研究室にて takako1961@nvl.u.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約すること</p> <p>百田：獣医保健看護学臨床部門（E棟4F）momota@nvl.u.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約。</p>
その他	遅刻は30分未満とする

科目No.	310390R3	科目区分	必修
科目名	動物グルーミング理論実習 b	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	松原 孝子, 百田 豊		

授業のねらい	動物看護技術の概念を理解し、様々な看護援助を実践するための基礎的な能力を修得する。学内演習により動物看護技術の構成要素を理解し、動物看護師としての知識・技術・態度を身につける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動物看護技術に必要な構成要素を理解する 2. 援助場面による基本的な態度を習得できる 3. 動物看護の原理・原則の個々へのケースへの適用の仕方を学ぶ
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	動物グルーミング理論, 動物グルーミング理論実習aを復習すること
履修上の留意点	今までの教科における学習内容を集約した形となるように心がける
概要・スケジュール	<p>課題テーマの中から、模擬看護動物の状況にあった動物看護技術の援助内容の展開を考える</p> <p>課題テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犬のブラッシング、爪切り ・シャンプーカウンセリング ・犬の口腔内ケア ・長期臥床の大型犬への清拭、陰部洗浄、おむつ交換 ・死亡時の看護援助 <p>など</p>
授業期間を通して課される課題	レポートの提出

科目No.	310390R3	科目区分	必修
科目名	動物グルーミング理論実習 b	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	模擬看護動物の状況を理解するために、その内容を自薦に学習する (60分)		
テキスト・参考文献他	模擬看護動物の設定に適した内容の参考文献を各自検索し用いる。 参考文献：「動物看護技術トレーニングブック」 動物看護学教育標準カリキュラム準拠「専門分野 基礎動物看護技術」		
授業形態	実習室ないによる少人数グループでの演習とする		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	行わない
レポート試験	100	レポート内容を評価する
平常点評価	0	含めない

オフィスアワー	松原 (担当教員) : 研究室にて takako1961@nvl.u.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約すること
その他	

科目No.	310400R2	科目区分	必修
科目名	動物医療看護学I	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	2
担当教員	石岡 克己, 百田 豊		

授業のねらい	犬と猫の内科疾患のうち、消化器および泌尿器疾患、感染症に焦点を当てて学習する。症状や看護方法について知識と考え方を習得し、併せて動物医療看護学I実習の目的も理解する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 消化器疾患の主な症状や看護方法について理解する。 2. 泌尿器疾患の主な症状や看護方法について理解する。 3. 犬と猫の代表的な感染症について臨床的側面から理解する。 			
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能				
履修上の留意点				
概要・スケジュール	第1回 石岡 第2回 石岡 第3回 石岡 第4回 石岡 第5回 石岡 第6回 石岡 第7回 石岡 第8回 石岡 第9回 石岡 第10回 百田 第11回 百田 第12回 百田 第13回 百田 第14回 百田 第15回 百田	消化器疾患（総論）1；疾患学総論、嘔吐、吐出 消化器疾患（総論）2；下痢、血便 消化器疾患（各論）1；栄養摂取・代謝機能障害を持つ動物の看護 消化器疾患（各論）2；栄養摂取・代謝機能障害を持つ動物の看護 消化器疾患（各論）3；栄養摂取・代謝機能障害を持つ動物の看護 消化器疾患（各論）4；排泄機能障害を持つ動物の看護 消化器疾患（各論）5；排泄機能障害を持つ動物の看護 肝疾患1；肝疾患総論、黄疸、腹水 肝疾患2；肝疾患各論、治療と看護 泌尿器疾患1；排泄機能障害を持つ動物の看護 泌尿器疾患2；排泄機能障害を持つ動物の看護 泌尿器疾患3、犬の感染症1(ウイルス疾患) 犬の感染症2(原虫疾患、ウイルス疾患) 猫の感染症1(原虫疾患、ウイルス疾患) 猫の感染症2(ウイルス疾患)		
授業期間を通して課される課題				

科目No.	310400R2	科目区分	必修
科目名	動物医療看護学I	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	復習として、毎回の講義内容についてまとめておく（30分）。 図書館等を利用して、授業内容の関連事項について自習する（60分）。		
テキスト・参考文献他			
授業形態	講義室での講義。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	100%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	実施しない。
平常点評価	0%	出席が不十分な場合は定期試験を受験できないことがある。

オフィスアワー	石岡：獣医保健看護学臨床部門（E棟4F）katsumi@nvlu.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約。 百田：獣医保健看護学臨床部門（E棟4F）momota@nvlu.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約。
その他	

科目No.	310410R2	科目区分	必修
科目名	動物医療看護学I実習	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	2
担当教員	石岡 克己, 百田 豊, 森 昭博, 小田 民美		
授業のねらい	この実習では、内科的処置を行う際に動物看護師が必要とする手技について実践する。保定や身体検査、採血、投薬法について学び、問診の技術についても体験する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内科診療において動物看護師が必要とする技術を習得する。 2. 内科診療で使用する器具の使用法を習得する。 		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点			
概要・スケジュール	<p>第1回 保定法（石岡、森） 基本保定、ネックロックホールド他</p> <p>第2回 一般身体検査（石岡、森） TPR、指針、触診、聴診、体表リンパ節、毛細血管再充満時間（CRT）、股動脈圧、体重測定</p> <p>第3回 採血法（石岡、百田） 注射器の扱い方と採血法、採尿法</p> <p>第4回 投薬法（石岡、百田） 経口投与、各種注射法</p> <p>第5回 輸液療法（石岡、百田、森） 留置針の設置法、輸液ポンプおよびシリンジポンプの使用法</p> <p>第6回 病院業務（石岡、小田） 問診、カルテの取り扱い</p> <p>第7回 実施試験（石岡、百田、森）</p>		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	310410R2	科目区分	必修
科目名	動物医療看護学I実習	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	復習として、毎回の実習内容を整理しておく（60分）。		
テキスト・参考文献他			
授業形態	いくつかの班に分かれての実習。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	90%	実施試験3問の合計点。
レポート試験	10%	実習後に内容について感想文を提出。
平常点評価	0%	実習中の態度、学習意欲を成績に反映させる場合もある。

オフィスアワー	石岡：獣医保健看護学臨床部門（E棟4F）katsumi@nvl.u.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約。
その他	

科目No.	310420R2	科目区分	必修
科目名	動物薬理学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	2
担当教員	金田 剛治, 田島 剛		

授業のねらい	動物の疾病の治療や診断に用いる薬が作用する過程を理解するために、対象疾患の病態、代表的な治療薬の薬理作用、機序、臨床応用および副作用を学ぶ。また、薬物の体内動態、代謝、排泄に関する基礎知識を、動物種差を含めて修得する。		
到達目標	動物医療に用いられる薬の作用やその使用法等についてクライアント（飼い主）に対して、薬の適切かつ安全な使用を説明できるようになる。また、麻酔薬など院内で使用する薬について使用理由が説明できるようになる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	薬理学の理解を深めるためには、機能学、生化学、病態学、免疫学の知識も重要である。1年生で学んだ授業や2年生で並行して実施されている講義の内容と薬理学との関連について考えてほしい。		
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回 動物看護師における薬の利用 第2回 神経に作用する薬物 第3回 神経に作用する薬物 第4回 循環器・泌尿器に作用する薬物 第5回 循環器・泌尿器に作用する薬物 第6回 呼吸器に作用する薬物 第7回 血液に作用する薬物 第8回 代謝・内分泌系の薬物 第9回 中間試験 第10回 消化器に作用する薬物 第11回 消化器に作用する薬物 第12回 免疫系に作用する薬物、抗炎症薬 第13回 化学療法薬 第14回 化学療法薬 第15回 ワクチン	担当：金田 担当：金田 担当：金田 担当：金田 担当：金田 担当：金田 担当：金田 担当：金田 担当：田島 担当：田島 担当：田島 担当：金田 担当：金田 担当：金田	
授業期間を通して課される課題			

科目No.	310420R2	科目区分	必修
科目名	動物薬理学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	復習として、関連する項目は他の授業も項目などもまとめておくことが大切である（10-20分程度）		
テキスト・参考文献他	教科書：動物薬理学（インターズー） 参考図書：小動物の薬物治療学 尾崎・浅井・辻本著（オーム社）		
授業形態	授業形式を基本として時にはスライドおよびプリントによって学習する。		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	80%を予定	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	20%を予定	学期の中間に中間試験（筆記試験）を実施する
平常点評価	0%	授業中に小テストを実施した場合は評価に加えることも。

オフィスアワー	金田剛治：獣医薬理学教室（D棟4階） t-kaneda×nvl.u.ac.jp （原則 火曜16：00-17：30）Eメールあるいは授業直後に受付または面談を予約 田島 剛：t-tajima×nvl.u.ac.jp （アドレスは×を@に変えて使用すること）
その他	

科目No.	310430R3	科目区分	必修
科目名	動物薬理学実習	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	金田 剛治, 田島 剛		
授業のねらい	臨床における治療の基礎となる薬について、調剤、処方、投与方法など、動物看護師として薬剤を取り扱う上で必要な知識と技術を習得する。さらに講義で学んだ知識がいかなる実証によってなされているかについて実験を通じて理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物動態と薬物の投与方法を理解する。 2. 獣医師の処方に基づき薬物の調剤を適切に行うことができる。 3. 薬の標的分子と用量反応関係について説明できる。 		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	実習は解剖生理学、動物薬理学の履修内容を理解している前提で進める。		
履修上の留意点	動物アレルギーがある学生は事前に教員に相談すること。実習時には白衣、解剖セット、レポート作成用ノート（A4）が必要。薬理学や生理学の資料を持参することを推奨。		
概要・スケジュール	第1回 実習オリエンテーション、実験動物の取り扱いと薬物投与方法 第2回 薬物動態 第3回 薬物の調剤(1) 錠剤の調剤 第4回 薬物の調剤(2) 粉剤の調剤 第5回 薬物の調剤(3) 液剤・注射剤の調剤 第6回 中間試験（調剤実技） 第7回 中間試験（筆記） 第8回 中枢神経系に作用する薬物 第9回 薬の標的分子と用量反応関係 第10回 血管平滑筋に作用する薬物		
授業期間を通して課される課題	全実習終了後にレポートを提出する。詳細は実習中に指示。		

科目No.	310430R3	科目区分	必修
科目名	動物薬理学実習	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実験によっては待ち時間が生じるものもあるので、時間を効率よく使って学習すること。		
テキスト・参考文献他	テキスト：実習時にプリントを配布する。 参考文献：薬理学・毒性学実験（文永堂出版）		
授業形態	実習講義後、各班に分かれ実験・実技を行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	60	実習の中間で記述試験および調剤実技試験を行う。
レポート試験	30	全実習終了後、各項目についてレポートを提出する。
平常点評価	10	小テスト、質疑応答、参加態度などを総合して評価する。

オフィスアワー	金田：獣医薬理学（D棟4階）t-kaneda@nvl.u.ac.jp 田島：獣医薬理学（D棟4階）t-tajima@nvl.u.ac.jp 原則として火曜16:00～17:30。授業後またはEメールにて面接を予約。 （アドレスは×を@に変えて使用すること）
その他	

科目No.	310440R2	科目区分	必修
科目名	公衆衛生学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	2
担当教員	小林 真理子, 青木 博史, 小林 淳		

授業のねらい	人獣共通感染症、食品衛生に関して学ぶ		
到達目標	動物看護における人獣共通感染症の重要性を理解できる。基礎的な食品衛生の知識を持つことができる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	公衆衛生の重要な課題の一つである環境衛生に関しては、時間の都合上、1Nの環境生物学で講義を行うので、そちらも合わせて履修することで公衆衛生の知識を深めていただきたい。 人獣共通感染症：動物微生物学（2N前期・必須）で学ぶ内容を復習しておくのが望ましい。		
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回	青木博史	人獣共通感染症の定義、疫学及び関連法規など
	第2回	青木博史	人獣共通感染症の分類（主に伝播様式による分類）、予防と対策など
	第3回	青木博史	各論（我が国で注視すべき主な人獣共通感染症1）
	第4回	青木博史	各論（我が国で注視すべき主な人獣共通感染症2）
	第5回	青木博史	各論（我が国で注視すべき主な人獣共通感染症3）
	第6回	小林真理子	獣医保健看護における公衆衛生、食品衛生にはたす役割とは？
	第7回	小林真理子	ミクロフローラと変敗
	第8回	小林真理子	各種食中毒
	第9回	小林真理子	各種食中毒
	第10回	小林真理子	その他、食品が原因となり発生する健康被害（アレルギーなど）
	第11回	小林真理子	食品の衛生管理：一般食品衛生管理とHACCP
	第12回	小林淳	その他、環境と食品衛生（食品の放射能汚染を例として）
	第13回	小林淳	公衆衛生行政
	第14回	学外講師	国民衛生の動向
	第15回	小林真理子	動物看護師試験における公衆衛生関連問題
授業期間を通して課される課題			

科目No.	310440R2	科目区分	必修
科目名	公衆衛生学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるため次回の講義で取り扱う資料を読むこと（20分）。		
テキスト・参考文献他	授業ごとにプリントを配布する。 参考書は、都度配布プリントの最後に提示する。		
授業形態	教室内での講義。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	90%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	無し
平常点評価	10%	出席など

オフィスアワー	小林真理子 : 獣医保健看護学科応用部門教室、基本的に火曜から金曜の12:00~12:30 青木博史 : 獣医保健看護学科基礎部門、月・水・木の12:00~12:30または17:00以降 小林淳 : 獣医保健看護学科応用部門（E棟4階）junkoba×nvl.u.ac.jp（×を@に変えて使用すること）、随時受け付けますが、Eメールでの事前問い合わせが望ましい
その他	

科目No.	310450R3	科目区分	必修
科目名	公衆衛生学実習	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	小林 真理子, 小林 淳, 松原 孝子		

授業のねらい	食品衛生、環境衛生における機器分析の手法や簡易検査の方法を理解する。また、食中毒原因食品解明における統計疫学的手法を理解する。		
到達目標	食品衛生、環境衛生における様々な分析方法、動物看護における公衆衛生の重要性を理解できる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	環境生物学、微生物学および同実習、公衆衛生学。		
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回 小林真理子・小林淳 第2回 小林真理子 第3回 小林真理子 第4回 小林真理子 第5回 小林真理子・落合由嗣 第6回 小林真理子・小林淳 第7回 小林淳 第8回 小林淳 第9回 小林淳 第10回 小河孝 第11回 松原孝子	実習の概要 乳の衛生（乾燥物重量、酸度、比重、PLテスト、アルコールテスト） 乳の衛生（抗生物質の検出方法） 変異原性試験（Recアッセイ）、元素分析 大腸菌群、食品および環境の簡易検査（フードスタンプなど） 演習と装置見学：GC-MSによる分析方法 環境に関する各種測定（二酸化炭素、騒音、温度、湿度など） 分光光度法による水道水中の残留塩素の検出方法 HPLCによる飲料水中のカフェインの検出方法 演習：統計学的手法による食中毒原因食品の解析方法 演習：動物病院における公衆衛生学	
授業期間を通して課される課題			

科目No.	310450R3	科目区分	必修
科目名	公衆衛生学実習	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	各実習終了後に、まとめを行うこと。		
テキスト・参考文献他	プリントを配布する。		
授業形態	実習および教室内での講義と演習		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	定期試験は行わない。
レポート試験	70%	実習終了後にレポートを提出すること。
平常点評価	30%	出席および演習問題には、時間内に別途課題が提示される。

オフィスアワー	小林真理子：獣医保健看護学科応用部門（E棟4階）、基本的に火曜から金曜の12:00から12:30。 小林 淳：応用部門（E棟4階）junkoba@nvl.u.ac.jp（×を@に変えて使用すること） 随時受け付けますが、Eメールでの事前問い合わせが望ましい。 松原孝子：takako1961@nvl.u.ac.jp 小河孝：kyomu@nvl.u.ac.jp（×を@に変えて使用すること）
その他	

科目No.	310460R3	科目区分	必修
科目名	動物医療看護学II	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	左向 敏紀, 松原 孝子, 小暮 一雄, 森 昭博		

授業のねらい	代謝内分泌疾患、口腔内疾患、循環器疾患の病態を理解し、診断治療管理看護を学習する。
到達目標	ホルモン分泌機構、および関連疾患時の検査方法、治療法を説明できる。糖・Ca代謝を理解し異常の診断・治療法を説明できる。循環器疾患の病態、検査法、治療法、看護方法を説明できる。口腔内疾患の病態生理、症状および管理法を説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第 1 回： 左向敏紀 内分泌疾患の基礎、診断のための検査方法、サンプルの取り扱い 第 2 回： 左向敏紀 甲状腺疾患：甲状腺疾患の診断方法・検査方法、治療・看護 第 3 回： 森 昭博 副腎とストレス 副腎皮質機能低下症の症状・診断・治療・看護 第 4 回： 森 昭博 副腎皮質機能亢進症の症状・診断・治療・看護 第 5 回： 左向敏紀 糖尿病とは、猫と犬の糖尿病の違い、症状と診断方法 第 6 回： 左向敏紀 犬猫糖尿病の治療と管理・看護 第 7 回： 松原 孝子 内分泌疾患をもつ動物の看護 第 8 回： 歯科基礎 第 9 回： 口腔内疾患の病態 第 10 回： 口腔内疾患の治療と管理 第 11 回： 松原 孝子 口腔内疾患をもつ動物の看護 第 12 回： 小暮一雄 心臓機能と心不全 第 13 回： 小暮一雄 心臓弁膜症 第 14 回： 小暮一雄 肺水腫・フィラリア症 第 15 回 松原 孝子 循環器疾患をもつ動物の看護
授業期間を通して課される課題	

科目No.	310460R3	科目区分	必修
科目名	動物医療看護学II	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業内容の事前配布による予習（30分） 授業内容のレポートまたは内容の確認テスト（70分）		
テキスト・参考文献他	コンパニオンアニマルの内科疾患学入門（Inter Zoo） 動物看護学教育標準カリキュラム準拠教科書（Inter Zoo）		
授業形態	教室における講義。		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	80%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	10%	授業内容のレポート
平常点評価	10%	出席と小テスト

オフィスアワー	左向敏紀：獣医保健看護学科臨床部門（E棟4階） t-sako@nvlu.ac.jp（××を@にすること） メールにて受付または面接を予約
その他	

科目No.	310470R3	科目区分	必修
科目名	動物医療看護学II実習	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	石岡 克己, 百田 豊, 森 昭博, 小田 民美		

授業のねらい	この実習では、外科的処置や生体検査を行う際に、動物看護師として必要な手技について学ぶ。滅菌・消毒法や手術準備、麻酔、手術助手の役割、蘇生処置について、また心電図やX線撮影について理解する。
到達目標	1. 外科診療および生体検査において動物看護師として必要な技術を習得する。 2. 外科診療および生体検査に使用する器具について理解する。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	<p>第1回 消毒、包帯法（石岡、百田、小田） 自着性包帯、接着性包帯、硬化包帯、各種消毒液など</p> <p>第2回 心電図、X線、超音波（石岡、百田、小田） 記録式心電図、テレメータ、カセットの扱い方、X線撮影時の保定、超音波検査の保定</p> <p>第3回 麻酔と歯科処置（石岡、森、小田） 挿管法、麻酔維持、歯科器具、スケーリング</p> <p>第4回 手術器具と手術の準備（石岡、森、小田） 各種手術器具の説明、ガウンの着方など</p> <p>第5回 手術の助手（石岡、百田、小田） 縫合法、止血法</p> <p>第6回 術後のケアとエマージェンシー（石岡、森、小田） 救命救急、心肺蘇生など</p> <p>第7回 模擬手術（石岡、百田、森） ぬいぐるみを使った模擬手術によるこれまでの総合実習、X線写真の読影法</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	310470R3	科目区分	必修
科目名	動物医療看護学II実習	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	復習として、毎回の実習内容を整理しておく（60分）。		
テキスト・参考文献他			
授業形態	いくつかの班に分かれての実習。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	100%	試験期間中に、スライドを用いた筆記試験を実施する。
レポート試験	0%	感想分の得点を加味する場合もある。
平常点評価	0%	実習中の態度、学習意欲を成績に反映させる場合もある。

オフィスアワー	石岡：獣医保健看護学臨床部門（E棟4F） katsumi@nvl.u.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約。
その他	

科目No.	310480R3	科目区分	必修
科目名	動物介在療法論	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	小林 真理子, 水越 美奈, 的場 美芳子		

授業のねらい	基礎的な動物介在療法・活動・教育に関するの習得を目指す。特にこれらの動物介在介入に使用される動物に関するの知識を習得することを目標とする。		
到達目標	動物介在療法・活動・教育の基礎が理解でき、そこで使用される動物に関するの知識を有することができる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	可能であれば、2N動物人間関係論の授業を選択していただいてから、履修に臨んでいただきたい。		
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第 1回 小林真理子 第 2回 水越美奈 第 3回 水越美奈	動物介在療法論概論 歴史と経過（日本・海外）：小動物に関することのみ 人の健全な生活に関わるペットの役割 動物介在療法の種類と用語：AAT、AAA、AAE、その他ふれあい	
	活動 第 4回 水越美奈	訪問型／施設型 受動型／能動型、 適応となる動物（動物種、身体的、行動的、施設）	
	第 5回 水越美奈 第 6回 水越美奈 第 7回 水越美奈	使用する動物の評価について 訪問する施設の評価について 動物介在療法に関わる人の教育とアニマルセラピーコーディネーターの役割 訪問する際の適切な装具、実際に訪問するには？実際の活動の紹介	
	第 8回 的場美芳子 第 9回 的場美芳子	動物介在教育の定義と概要 動物介在教育の周辺分野	
	第10回 的場美芳子 第11回 小林真理子	動物介在教育の授業計画 乗馬に関する基礎知識（用具・馬装・歩様・手入れ）	
	第12回 小林真理子 第13回 小林真理子 第14回 小林真理子 第15回 小林真理子	適性のあるウマ1 適正のあるウマ2 心理面への効果（精神衛生・ウマの社会） 介在動物療法・活動の問題点	
授業期間を通して課される課題			

科目No.	310480R3	科目区分	必修
科目名	動物介在療法論	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	復習として、毎回のテーマについてまとめておく（60分）。		
テキスト・参考文献他	テキスト：授業ごとにプリントを配布する。 参考書：プリントの最後に授業毎に提示する。		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（％）	評価方法
定期試験	90%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	レポートは課さない。
平常点評価	10%	出席、質疑応答などを総合的に評価する。

オフィスアワー	小林真理子：獣医保健看護学科応用部門（E棟4階）、基本的に火曜から金曜の12:00から12:30. 水越美奈：獣医保健看護学科臨床部門（E棟4階） Eメールで受け付けまたは面接を予約 mmizukoshi ×nvl.u.ac.jp（×を@に変えて使用すること） 的場美芳子：kyomu×nvl.u.ac.jp（×を@に変えて使用すること）
その他	

科目No.	310490Q3	科目区分	選択必修
科目名	動物医療看護学III	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	皆上 大吾, 松原 孝子, 藤田 道郎, 青木 忍		

授業のねらい	本講義では、様々な疾患に対する動物看護を実施するために必要な臨床的知識を幅広く学ぶことを目的とする。
到達目標	1. 周手術期看護の対象となる疾患を知り、術前、術中、術後の各時期における適切な看護援助を理解する。 2. 犬と猫の腫瘍性疾患および呼吸器疾患を知り、各疾患に対する看護援助を理解する。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	「動物医療看護学I」および「動物医療看護学II」と併せ、幅広い疾患に対する知識を深める必要がある。
履修上の留意点	適切な参考書を利用し、十分な予習・復習によって理解を深めること。
概要・スケジュール	第1回 動物の呼吸器疾患（藤田） 第2回 動物の呼吸器疾患（藤田） 第3回 動物の呼吸器疾患（藤田） 第4回 呼吸器疾患をもつ動物の看護（松原） 第5回 動物の腫瘍性疾患（皆上） 第6回 動物の腫瘍性疾患（皆上） 第7回 動物の腫瘍性疾患（皆上） 第8回 動物の腫瘍性疾患（皆上） 第9回 外科看護学：麻酔法（青木） 第10回 外科看護学：滅菌操作（青木） 第11回 外科看護学：手術準備（青木） 第12回 外科看護学：創傷管理（青木） 第13回 外科看護学：鎮痛管理（青木） 第14回 外科看護学：犬の椎間板ヘルニア（青木） 第15回 周術期の動物看護（松原）
授業期間を通して課される課題	適宜、内容に関する小テストを実施する。

科目No.	31049003	科目区分	選択必修
科目名	動物医療看護学III	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	参考文献などで次回の講義内容に関する資料を読む(60分) 授業内容の理解を深めるために配布したプリントを復習し、関連資料をまとめる(60分) など		
テキスト・参考文献他	テキスト：授業ごとにプリントを配布する。		
授業形態	通常はスライドを用いた授業。一部板書あり。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	70%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	原則的にレポートによる評価は実施しない。
平常点評価	30%	授業への定時出席や質問等積極的な参加を総合的に評価

オフィスアワー	担当教員 皆上大吾 獣医保健看護学臨床部門研究室(E棟4階) azakami@nvl.u.ac.jp 金曜日16:00~17:00(ただし、授業、実習、会議、診療等で不在の場合はメールにて質問を受付)
その他	本講義は複数の教員によって実施するため、授業内容あるいは順序を変更する場合がありますので注意すること。変更がある場合には、掲示もしくは口頭にて連絡する。

科目No.	310500Q3	科目区分	選択必修
科目名	動物医療看護学III実習	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	左向 敏紀, 石岡 克己, 牧野 ゆき, 水越 美奈, 松原 孝子, 皆上 大吾, 百田 豊, 森 昭博, 小田 民美		
授業のねらい	本学付属医療センターでの診療や検査および手術に立ち会い、動物医療における診療業務を見学もしくは実習し、動物看護師に必要な基礎知識および実践できる能力を養う。		
到達目標	1. 動物医療において必要な動物看護師としての基礎知識および実践できる能力の習得 2. 動物看護師としての態度を養う		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	本実習を履修するためには動物医療看護学Ⅲおよび動物病院管理学の単位取得が必要となる。また、医療センターで行われる一連の実習（動物医療センター実習Ⅰ、動物医療看護学Ⅲ実習、動物病院管理学実習）は同時に履修すること。		
履修上の留意点	実習にふさわしい身だしなみ出ない場合は、実習に参加することはできない。 姿勢や態度で、相手に対して不快感を与える場合も実習を継続することはできない。		
概要・スケジュール	<p>付属の動物医療センターにおいて、日常の診療に立ち会い、動物医療における診療の流れ、診療業務の実際を見学する。また、動物看護師の業務、役割を知り、実習する。実際には、診療受付、問診聴取、身体検査、採血・採尿、一般血液検査、尿検査、糞便検査、調剤、X線撮影、超音波検査、留置針設置などの方法を見学もしくは実習する。またコンピュータ断層撮影法（CT）や磁気共鳴画像法（MRI）など一般的な動物病院では扱わない高度医療検査についても学び、実際の症例に対して行われる検査を見学する。さらに外科診療科の実習見学において、主に午後に手術の見学を行い麻酔前の動物の管理、麻酔導入、麻酔および手術中の動物看護師としての役割について学習する。</p> <p>実習1日め 午前 内科系診療科での診療補助、検査補助 午後 血液、尿、糞便検査の復習、動物の保定法の復習など</p> <p>実習2日め 午前 内科系診療科での診療補助、検査補助 午後 CT検査の見学、内視鏡検査の見学など</p> <p>実習3日め 午前 内科系診療科での診療補助、検査補助 午後 MRI検査の見学、耳鏡内視鏡検査の見学など</p> <p>実習4日め 午前 内科系診療科での診療補助、検査補助 午後 放射線療法の見学など</p> <p>実習5日め 午前 外科系診療科での診療補助、検査補助 午後 手術の見学、器械出しの実践実習など</p> <p>実習6日め 午前 外科系診療科での診療補助、検査補助 午後 手術の見学、器械出しの実践実習など</p> <p>実習7日め 午前 外科系診療科での診療補助、検査補助 午後 手術の見学、器械出しの実践実習など</p> <p>実習8日め 午前 外科系診療科での診療補助、検査補助 午後 手術の見学、器械出しの実践実習など</p>		
授業期間を通して課される課題	レポート提出 内科系診療科および外科系診療科で一つずつ		

科目No.	310500Q3	科目区分	選択必修
科目名	動物医療看護学III実習	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	これまでの授業や動物医療看護学実習、動物医療検査学実習の知識が必要となるため、十分に復習をしてから臨むこと。		
テキスト・参考文献他			
授業形態	本学動物医療センターでの臨床実習		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	定期試験は行わない。
レポート試験	40	内科系診療科、外科系診療科でそれぞれ一つずつ提出する。
平常点評価	60	出席および実習態度などを総合的に評価する。

オフィスアワー	担当教員が多岐にわたるため、毎朝の朝礼時に担当教員ごとに確認すること。
その他	

科目No.	31052003	科目区分	選択必修
科目名	動物栄養学各論	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	左向 敏紀, 森 昭博, 坂根 弘, 徳本 一義, 藤井 立哉		

授業のねらい	人のみならず、動物においても栄養素は生命を維持するために欠くことのできない重要なものである。特に動物看護師はオーナーに対する食事指導など、ペットの栄養に関して重要な立場にある。本講義では、動物栄養学の基礎知識および臨床的知識の習得を目指す。
到達目標	動物看護師として必要な栄養に関する基礎知識および臨床現場においてに必要な知識の習得
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	動物栄養学概論の単位を取得すること。
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第 1 回：臨床栄養学概論 第 2 回：ライフステージと栄養 1 第 3 回：ライフステージと栄養 2 第 4 回：脂肪酸の臨床応用 第 5 回：消化器疾患の食事管理 第 6 回：腎臓病の食事管理 第 7 回：糖尿病の食事管理 第 8 回：肥満の食事管理 第 9 回：犬の尿路結石症 第 10 回：猫の下部尿路疾患 第 11 回：食物有害反応 第 12 回：がん／重症医療の食事管理 第 13 回：高齢動物の栄養管理 1 第 14 回：高齢動物の栄養管理 2 第 15 回：ペットフード概論
授業期間を通して課される課題	

科目No.	31052003	科目区分	選択必修
科目名	動物栄養学各論	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	毎回の授業後に復習をすること。(30分ほど)		
テキスト・参考文献他	動物看護学教育標準カリキュラム準拠・動物栄養管理学 (interzoo) 動物看護のための小動物栄養学 (ファームプレス)		
授業形態	教室における講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	80	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0	レポートの提出はない。
平常点評価	20	出席および授業態度を総合的に評価する。

オフィスアワー	左向敏紀：獣医保健看護学科臨床部門 (D棟 1階) t-sako × × nvl.u.ac.jp (× × を@にすること) メールにて受付または面接を予約
その他	

科目No.	310540Q3	科目区分	選択必修
科目名	動物栄養学各論実習 a	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	左向 敏紀, 森 昭博, 小林 淳, 小田 民美		

授業のねらい	人のみならず、動物においても栄養素は生命を維持するために欠くことのできない重要なものである。特に愛玩動物(ペット)においては、その栄養管理は飼い主の給餌によるところが非常に大きい。本実習では、動物に必要な栄養素測定の基礎及び応用技術の習得を目指す。
到達目標	本実習においては、実際の人の食品と化学分析手法を用いた栄養素の測定方法について学ぶとともに、それに付随する計算・データ処理方法などを習得する。試薬の調製や破棄なども学生自身が行うことにより、薬品の保管や取り扱い、有害性を考慮した廃棄物の分別なども身に着ける。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	4年前期に開講される動物栄養学各論実習bも合わせて受講すること
概要・スケジュール	第1回 実習ガイダンス、試薬調製 第2回 飲料水中の硬度の測定(キレート滴定法) 第3回 食品中の色素の測定(薄層クロマトグラフィー) 第4回 食肉加工品中の亜硝酸の測定(分光光度法) 第5回 飲料中のビタミンCの測定(パックテスト) 第6回 飲料のpHの測定(pHメーター、試験紙法) 第7回 一般細菌・大腸菌群の測定(試験紙法)
授業期間を通して課される課題	

科目No.	310540Q3	科目区分	選択必修
科目名	動物栄養学各論実習 a	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	初回時に実習書（プリント）を配布するので、2回目以降はその日必要な部分を事前に読んで理解しておくこと（15分）		
テキスト・参考文献他	初回時にプリント資料（実習書）を配布する参考書は、実習講義時に指示する		
授業形態	実習室での実験		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	—
レポート試験	100	実験および演習ごとにレポートを提出。
平常点評価	0	出席割合による評価は行わないが、2/3以上の出席は必須

オフィスアワー	左向敏紀：獣医保健看護学科臨床部門（E棟4階） Eメールにて受付または面接を予約。t-sako@nvl.u.ac.jp 森昭博：同上記 amor i@nvl.u.ac.jp 小田民美：同上記 hoda@nvl.u.ac.jp 小林淳：獣医保健看護学科応用部門（E棟4階） junkoba×nvl.u.ac.jp（×を@に変えて使用すること） 主な質問は、随時小林が受け付けますので、来室して下さい。
その他	

科目No.	31055004	科目区分	選択必修
科目名	動物栄養学各論実習b	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	4
担当教員	左向 敏紀, 森 昭博, 小林 淳, 小田 民美		

授業のねらい	人のみならず、動物においても栄養素は生命を維持するために欠くことのできない重要なものである。特に動物看護師はオーナーに対する食事指導など、ペットの栄養に関して重要な立場にある。本講義では、動物栄養学の基礎知識および臨床的知識の習得を目指す。
到達目標	本実習においては、実際のペットフードを範例とし、人とは異なるその動物固有の栄養バランスや糖尿病などの罹患動物の食事についても学習する。また栄養学・商品流通の面からペットフードの種類、表示内容についても学習する。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	3年後期に開講される動物栄養学各論実習aも合わせて受講すること
概要・スケジュール	第1回 ペットフードラベルの読み方 第2回 手作りフード 第3回 ポスター作製法 (POP) 第4回 肥満の食事管理 第5回 重症医療・がんの食事管理 第6回 肝・腎・心疾患の栄養管理 第7回 猫の栄養学&高齢期の食事管理 第8回 総合演習(ウェットラボ)
授業期間を通して課される課題	

科目No.	31055004	科目区分	選択必修
科目名	動物栄養学各論実習 b	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	復習として毎回のテーマをまとめる (30分)		
テキスト・参考文献他			
授業形態	講義室での演習		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	定期試験は実施しない。
レポート試験	40	学期の中間および期末にレポートを課す。
平常点評価	60	出席、実習に対する姿勢などを総合的に評価する。

オフィスアワー	左向敏紀：獣医保健看護学科臨床部門（E棟4階） Eメールにて受付または面接を予約。t-sako@nvl.u.ac.jp 森昭博：同上記 amori@nvl.u.ac.jp 小田民美：同上記 hoda@nvl.u.ac.jp 小林淳：獣医保健看護学科応用部門（E棟4階） junkoba@nvl.u.ac.jp（xを@に変えて使用すること）、 随時受け付けますが、Eメールでの事前問い合わせが望ましい
その他	

科目No.	310560Q3	科目区分	選択必修
科目名	動物病院管理学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	松原 孝子		

授業のねらい	獣医療における専門性を発揮した動物看護の提供のために、動物病院における動物看護師の業務内容を経営の視点・動物看護管理の視点で学ぶ。身体の機能障害を持つ動物看護実践に関する基礎知識と具体的な援助を学び、アセスメント能力を身につけ、動物看護過程を転嫁する能力を習得する。
到達目標	1. 動物看護実践の基準を理解する 2. 動物看護管理の基準を理解する 3. 動物病院における動物看護師の視点を学ぶ 4. 紙面上模擬看護動物を通して、動物看護過程の展開方法を学ぶ 5. 動物病院管理学実習に必要な技術と知識を理解する
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	2年次の動物グルーミング理論と実習の内容について復習をしておくこと
履修上の留意点	主体的に授業に参加すること。
概要・スケジュール	第1回 動物病院における動物看護師の業務 第2回 動物看護管理とは 第3回 動物病院経営（1） 第4回 動物病院経営（2） 第5回 動物病院経営（3） 第6回 動物看護過程・アセスメント（1） 第7回 動物看護過程・アセスメント（2） 第8回 動物看護過程・アセスメント（3） 第9回 動物看護過程・アセスメント（4） 第10回 動物看護過程・アセスメント（5） 第11回 動物看護過程・外来看護記録（6） 第12回 動物看護過程・入院看護記録（7） 第13回 動物病院管理学実習に向けて（概要・姿勢） 第14回 動物病院管理学実習に向けて（食事援助など） 第15回 動物病院管理学実習に向けて（記録物・自己評価など）
授業期間を通して課される課題	それぞれの単元において、小テストおよびレポート課題がある。

科目No.	310560Q3	科目区分	選択必修
科目名	動物病院管理学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるために、次回の講義で取り扱う資料を事前に学習してくること（30分） 復習として、課題に取り組む（60分）		
テキスト・参考文献他	継続使用「今からはじめる動物看護過程」、「イラストでやさしく動物看護者の倫理」、「動物看護技術トレーニングブック」、動物看護者の業務指針（一般社団法人日本動物看護職協会） ・入院動物看護実習ガイド 必要時プリント資料配布予定		
授業形態	教室内での講義、少人数でのグループワークあり		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	70	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	15	課題レポートの内容を評価する
平常点評価	15	出席、小テスト、グループ参加態度を評価する

オフィスアワー	松原（担当教員）：研究室にて takako1961@nvl.u.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約すること
その他	遅刻扱いは15分未満まで 出席が2/3に満たないものは、定期試験が受けることはできない

科目No.	310580Q3	科目区分	選択必修
科目名	動物病院管理学実習 a	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	左向 敏紀, 石岡 克己, 牧野 ゆき, 水越 美奈, 松原 孝子, 皆上 大吾, 百田 豊, 森 昭博, 小田 民美		
授業のねらい	動物看護学の知識・技術を活用し、さまざまな健康レベル・発達段階・動物種にある看護動物に対して、創造的な看護が実践できる基礎的な能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象が療養する環境・療養生活を理解する 2. 動物看護過程の理解と動物看護援助の実践を理解する 3. 動物看護師としての態度を養う 		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	本実習を履修するためには動物医療看護学Ⅲおよび動物病院管理学の単位取得が必要となる。また、医療センターで行われる一連の実習（動物医療センター実習Ⅰ、動物医療看護学Ⅲ実習、動物病院管理学実習b）は同時に履修すること。		
履修上の留意点	実習にふさわしい身だしなみ出ない場合は、実習に参加することはできない。姿勢や態度で、相手に対して不快感を与える場合も実習を継続することはできない。		
概要・スケジュール	<p>実習1日め 受持ち動物へ援助を行う 受持ち看護動物の情報収集をする アセスメント用紙・関連図作成 をする</p> <p>実習2日め 受持ち動物へ援助を行う 経過看護記録を記入する 関連図の発表を行う</p> <p>実習3日め 受持ち動物へ援助を行う 経過看護記録を記入する 自己評価表をもとに各自振り返りを行う</p> <p>実習4日め 受持ち動物へ援助を行う 経過看護記録を記入する 今回行った看護と学びの個人発表をする</p> <p>その他、入院舎・猫舎・供血犬舎の全体業務を学ぶ</p>		
授業期間を通して課される課題	日々の行動計画表と振り返り、関連図、アセスメント用紙、担当動物経過記録、自己評価表、全体の学びのレポート		

科目No.	310580Q3	科目区分	選択必修
科目名	動物病院管理学実習 a	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	基本実習時間内に記録物の整理の時間を設ける。 その時間内で足りない方は、授業外の学習となる。		
テキスト・参考文献他	テキスト：入院動物 看護実習ガイド 実習の進め方や記録物については学内LANにアップする		
授業形態	付属医療センターにて臨地実習となる。複数名の学生で1事例の看護動物を受け持ちチームナーシングで指導講師および教員のもとで実習を行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	実施しない
レポート試験	50	各種記録物、レポートの内容を評価する
平常点評価	50	出席、実習中の態度、発表時の内容を評価する

オフィスアワー	松原（担当教員）：研究室にて takako1961@nvl.u.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約すること
その他	遅刻は30分未満とする 看護動物の安全を第一とするため、実習内容に変更があること承知すること。

科目No.	31059004	科目区分	選択必修
科目名	動物病院管理学実習 b	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	4
担当教員	左向 敏紀, 石岡 克己, 牧野 ゆき, 水越 美奈, 松原 孝子, 皆上 大吾, 百田 豊, 森 昭博, 小田 民美		
授業のねらい	動物看護学の知識・技術を活用し、さまざまな健康レベル・発達段階・動物種にある看護動物に対して、創造的な看護が実践できる基礎的な能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象が療養する環境・療養生活を理解する 2. 動物看護過程の理解と動物看護援助の実践を理解する 3. 動物看護師としての態度を養う 		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	実習を履修するためには動物医療看護学Ⅲおよび動物病院管理学の単位取得が必要となる。また、医療センターで行われる一連の実習（動物医療センター実習Ⅰ、動物医療看護学Ⅲ実習、動物病院管理学実習a）は同時に履修すること。		
履修上の留意点	実習にふさわしい身だしなみ出ない場合は、実習に参加することはできない。姿勢や態度で、相手に対して不快感を与える場合も実習を継続することはできない。		
概要・スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・受持ち動物へ援助を行う ・受持ち看護動物の情報収集をする ・アセスメント用紙・関連図作成 をする ・経過看護記録を記入する ・関連図の発表を行う ・経過看護記録を記入する ・自己評価表をもとに各自振り返りを行う ・今回行った看護と学びの個人発表をする その他、入院舎・猫舎・供血犬舎の全体業務を学ぶ		
授業期間を通して課される課題	日々の行動計画表と振り返り、関連図、アセスメント用紙、担当動物経過記録、自己評価表、全体の学びのレポート		

科目No.	31059004	科目区分	選択必修
科目名	動物病院管理学実習b	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実習時間内に記録物の整理の時間を設ける。 その時間内で足りない方は、授業外の学習となる。		
テキスト・参考文献他	テキスト：入院動物 看護実習ガイド 実習の進め方や記録物については学内LANにアップする		
授業形態	付属医療センターにて臨地実習となる。複数名の学生で1事例の看護動物を受け持ちチームナーシングで指導講師および教員のもとで実習を行う。		
成績評価基準			
種別	評価割合 (%)	評価方法	
定期試験	0	実施しない	
レポート試験	50	各種記録物、レポートの内容を評価する	
平常点評価	50	出席、実習中の態度、発表時の内容を評価する	
オフィスアワー	松原（担当教員）：研究室にて takako1961@nvl.u.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約すること		
その他	遅刻は30分未満とする 看護動物の安全を第一とするため、実習内容に変更があること承知すること。		

科目No.	310610Q3	科目区分	選択必修
科目名	動物病院実習 a	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	石岡 克己		
授業のねらい	実際の患者動物が来院する動物病院で動物看護師の役割を体験的に実習し、業務の流れについて知見を得る。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動物病院の業務の流れについて理解する。 2. 動物看護師の役割について理解する。 		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	3年前期までの講義・実習を履修していること。 実習に行く前にこれまでのノートやプリントを見直し、臨床現場に必要な予備知識を確認すること。		
履修上の留意点	動物病院は教育施設ではなく医療施設であり、実際の患者動物や飼い主が来院する場所である事に留意する。		
概要・スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習先病院の選定 原則として自分で見つけること。 ただし、実習先として明確な病院像がある場合は実習先を紹介できる場合もあるので、要相談。 実習先の許可が下りたら実習日程を決める（原則として3年次夏休み分から認定対象）。 2. 石岡の所へ来て、「学外実習依頼書発行願」と「誓約書」を受け取る。 3. 「学外実習依頼書発行願」と「誓約書」を記入し、実習に行く1週間前までに石岡に提出。 誓約書の保証人は原則として保護者（遠方などで困難な場合は石岡に相談）。 4. 実習期間中のスケジュールは、実習先動物病院のスケジュールに従うものとする。 開院から閉院までの業務を1週間体験する。 5. 実習終了後、2週間以内にレポートを提出する。 A4で数枚程度。 表紙に名前と学籍番号、実習先病院名を記載。 実習内容、感想、その病院における動物看護師の業務内容について記述する。 		
授業期間を通して課される課題	実習内容についてレポートを課す。		

科目No.	310610Q3	科目区分	選択必修
科目名	動物病院実習 a	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実習先医療施設の開院時刻から閉院時刻までを1日とし、原則1週間。 (休診日を含む)		
テキスト・参考文献他	使用しない。		
授業形態	動物病院における診療業務の補助。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	実施しない。
レポート試験	100%	実習終了後2週間以内にレポートを提出する。
平常点評価	0%	実習先からの報告内容を評価に反映させる場合もある。

オフィスアワー	石岡：獣医保健看護学臨床部門（E棟4F） katsumi@nvl.u.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約
その他	3年次夏休みの実習から単位認定対象なので、夏休みに実習に行く予定のある学生は前期のうちに石岡の所に相談に来ること。

科目No.	31062004	科目区分	選択必修
科目名	動物病院実習 b	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	4
担当教員	石岡 克己		
授業のねらい	実際の患者動物が来院する動物病院で動物看護師の役割を体験的に実習し、業務の流れについて知見を得る。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動物病院の業務の流れについて理解する。 2. 動物看護師の役割について理解する。 		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	3年前期までの講義・実習を履修していること。 実習に行く前にこれまでのノートやプリントを見直し、臨床現場に必要な予備知識を確認すること。		
履修上の留意点	動物病院は教育施設ではなく医療施設であり、実際の患者動物や飼い主が来院する場所である事に留意する。		
概要・スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習先病院の選定 原則として自分で見つけること。 ただし、実習先として明確な病院像がある場合は実習先を紹介できる場合もあるので、要相談。 実習先の許可が下りたら実習日程を決める（3-4年次間の春休み～4年次夏休みの実習が認定対象）。 2. 石岡の所へ来て、「学外実習依頼書発行願」と「誓約書」を受け取る。 3. 「学外実習依頼書発行願」と「誓約書」を記入し、実習に行く1週間前までに石岡に提出。 誓約書の保証人は原則として保護者（遠方などで困難な場合は石岡に相談）。 4. 実習期間中のスケジュールは、実習先動物病院のスケジュールに従うものとする。 開院から閉院までの業務を1週間体験する。 5. 実習終了後、2週間以内にレポートを提出する。 A4で数枚程度。 表紙に名前と学籍番号、実習先病院名を記載。 実習内容、感想、その病院における動物看護師の業務内容について記述する。 		
授業期間を通して課される課題	実習内容についてレポートを課す。		

科目No.	31062004	科目区分	選択必修
科目名	動物病院実習 b	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実習先医療施設の開院時刻から閉院時刻までを1日とし、原則1週間。 (休診日を含む)		
テキスト・参考文献他	使用しない。		
授業形態	動物病院における診療業務の補助。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	実施しない。
レポート試験	100%	実習終了後2週間以内にレポートを提出する。
平常点評価	0%	実習先からの報告内容を評価に反映させる場合もある。

オフィスアワー	石岡：獣医保健看護学臨床部門（E棟4F） katsumi@nvl.u.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約
その他	3-4年次間の春休み～4年次夏休みの実習が認定対象なので、行く予定のある学生は1週間以上前に石岡の所に相談に来ること。

科目No.	310650Q3	科目区分	選択必修
科目名	動物医療センター実習I a	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	左向 敏紀, 石岡 克己, 牧野 ゆき, 水越 美奈, 松原 孝子, 皆上 大吾, 百田 豊, 森 昭博, 小田 民美		
授業のねらい	本学付属医療センターでの診療や検査および手術に立ち会い、動物医療における診療業務を見学もしくは実習し、動物看護師に必要な基礎知識および実践できる能力を養う。		
到達目標	1. 動物医療において必要な動物看護師としての基礎知識および実践できる能力の習得 2. 動物看護師としての態度を養う		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	本実習を履修するためには動物医療看護学Ⅲおよび動物病院管理学の単位取得が必要となる。また、医療センターで行われる一連の実習（動物医療センター実習Ⅰ、動物医療看護学Ⅲ実習、動物病院管理学実習）は同時に履修すること。		
履修上の留意点	実習にふさわしい身だしなみ出ない場合は、実習に参加することはできない。 姿勢や態度で、相手に対して不快感を与える場合も実習を継続することはできない。		
概要・スケジュール	<p>付属の動物医療センターにおいて、日常の診療に立ち会い、動物医療における診療の流れ、診療業務の実際を見学する。また、動物看護師の業務、役割を知り、実習する。実際には、診療受付、問診聴取、身体検査、採血・採尿、一般血液検査、尿検査、糞便検査、調剤、X線撮影、超音波検査、留置針設置などの方法を見学もしくは実習する。またコンピュータ断層撮影法（CT）や磁気共鳴画像法（MRI）など一般的な動物病院では扱わない高度医療検査についても学び、実際の症例に対して行われる検査を見学する。さらに外科診療科の実習見学において、主に午後に手術の見学を行い麻酔前の動物の管理、麻酔導入、麻酔および手術中の動物看護師としての役割について学習する。</p> <p>実習1日め 午前 内科系診療科での診療補助、検査補助 午後 血液、尿、糞便検査の復習、動物の保定法の復習など</p> <p>実習2日め 午前 内科系診療科での診療補助、検査補助 午後 CT検査の見学、内視鏡検査の見学など</p> <p>実習3日め 午前 内科系診療科での診療補助、検査補助 午後 MRI検査の見学、耳鏡内視鏡検査の見学など</p> <p>実習4日め 午前 内科系診療科での診療補助、検査補助 午後 放射線療法の見学など</p> <p>実習5日め 午前 外科系診療科での診療補助、検査補助 午後 手術の見学、器械出しの実践実習など</p> <p>実習6日め 午前 外科系診療科での診療補助、検査補助 午後 手術の見学、器械出しの実践実習など</p> <p>実習7日め 午前 外科系診療科での診療補助、検査補助 午後 手術の見学、器械出しの実践実習など</p> <p>実習8日め 午前 外科系診療科での診療補助、検査補助 午後 手術の見学、器械出しの実践実習など</p>		
授業期間を通して課される課題	レポート提出 内科系診療科および外科系診療科で一つずつ		

科目No.	310650Q3	科目区分	選択必修
科目名	動物医療センター実習I a	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	これまでの授業や動物医療看護学実習、動物医療検査学実習の知識が必要となるため、十分に復習をしてから臨むこと。		
テキスト・参考文献他			
授業形態	本学動物医療センターでの臨床実習		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	定期試験は行わない。
レポート試験	40	内科系診療科、外科系診療科でそれぞれ一つずつ提出する。
平常点評価	60	出席および実習態度などを総合的に評価する。

オフィスアワー	担当教員が多岐にわたるため、毎朝の朝礼時に担当教員ごとに確認すること。
その他	

科目No.	31066004	科目区分	選択必修
科目名	動物医療センター実習I b	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	4
担当教員	左向 敏紀, 石岡 克己, 牧野 ゆき, 水越 美奈, 松原 孝子, 皆上 大吾, 百田 豊, 森 昭博, 小田 民美		
授業のねらい	本学付属医療センターでの診療や検査および手術に立ち会い、動物医療における診療業務を見学もしくは実習し、動物看護師に必要な基礎知識および実践できる能力を養う。		
到達目標	1. 動物医療において必要な動物看護師としての基礎知識および実践できる能力の習得 2. 動物看護師としての態度を養う		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	本実習を履修するためには動物医療看護学Ⅲおよび動物病院管理学の単位取得が必要となる。また、医療センターで行われる一連の実習（動物医療センター実習Ⅰ、動物医療看護学Ⅲ実習、動物病院管理学実習）は同時に履修すること。		
履修上の留意点	実習にふさわしい身だしなみ出ない場合は、実習に参加することはできない。 姿勢や態度で、相手に対して不快感を与える場合も実習を継続することはできない。		
概要・スケジュール	<p>付属の動物医療センターにおいて、日常の診療に立ち会い、動物医療における診療の流れ、診療業務の実際を見学する。また、動物看護師の業務、役割を知り、実習する。実際には、診療受付、問診聴取、身体検査、採血・採尿、一般血液検査、尿検査、糞便検査、調剤、X線撮影、超音波検査、留置針設置などの方法を見学もしくは実習する。またコンピュータ断層撮影法（CT）や磁気共鳴画像法（MRI）など一般的な動物病院では扱わない高度医療検査についても学び、実際の症例に対して行われる検査を見学する。さらに外科診療科の実習見学において、主に午後に手術の見学を行い麻酔前の動物の管理、麻酔導入、麻酔および手術中の動物看護師としての役割について学習する。</p> <p>実習1日め 午前 内科系診療科での診療補助、検査補助 午後 血液、尿、糞便検査の復習、動物の保定法の復習など</p> <p>実習2日め 午前 内科系診療科での診療補助、検査補助 午後 CT検査の見学、内視鏡検査の見学など</p> <p>実習3日め 午前 内科系診療科での診療補助、検査補助 午後 MRI検査の見学、耳鏡内視鏡検査の見学など</p> <p>実習4日め 午前 内科系診療科での診療補助、検査補助 午後 放射線療法の見学など</p> <p>実習5日め 午前 外科系診療科での診療補助、検査補助 午後 手術の見学、器械出しの実践実習など</p> <p>実習6日め 午前 外科系診療科での診療補助、検査補助 午後 手術の見学、器械出しの実践実習など</p> <p>実習7日め 午前 外科系診療科での診療補助、検査補助 午後 手術の見学、器械出しの実践実習など</p> <p>実習8日め 午前 外科系診療科での診療補助、検査補助 午後 手術の見学、器械出しの実践実習など</p>		
授業期間を通して課される課題	レポート提出 内科系診療科および外科系診療科で一つずつ		

科目No.	31066004	科目区分	選択必修
科目名	動物医療センター実習I b	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	これまでの授業や動物医療看護学実習、動物医療検査学実習の知識が必要となるため、十分に復習をしてから臨むこと。		
テキスト・参考文献他			
授業形態	本学動物医療センターでの臨床実習		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	定期試験は行わない。
レポート試験	40	内科系診療科、外科系診療科でそれぞれ一つずつ提出する。
平常点評価	60	内科系診療科、外科系診療科でそれぞれ一つずつ提出する。

オフィスアワー	担当教員が多岐にわたるため、毎朝の朝礼時に担当教員ごとに確認すること
その他	

科目No.	31067004	科目区分	選択必修
科目名	動物医療センター実習II	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	4
担当教員	左向 敏紀, 石岡 克己, 松原 孝子, 皆上 大吾, 百田 豊, 森 昭博, 小田 民美		

授業のねらい	<p>本学付属医療センターでの診療や検査を通して、動物医療における診療業務を見学もしくは実習する。3年後期の動物医療センター実習を踏まえて、動物看護師に必要な知識の定着と積極的な参加を目指す。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3年生後期で学習した検査事項の復習と定着。 2. 動物看護師としての態度を養い、動物医療において必要な動物看護師としての基礎知識および実践できる能力の習得を目的とする。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	<p>本実習を履修するためには、3年生の後期にて動物医療看護学Ⅲおよび動物病院管理学の単位取得が必要となる。</p>
履修上の留意点	<p>実習にふさわしい身だしなみ出ない場合は、実習に参加することはできない。 姿勢や態度で、相手に対して不快感を与える場合も実習を継続することはできない。</p>
概要・スケジュール	<p>付属の動物医療センターにおいて、診療の見学し、診療業務に参加する。また、動物看護師の業務、役割を知り、実習する。3年生の後期で経験したことを元に、診療受付、問診聴取、身体検査、採血・採尿、一般血液検査、尿検査、糞便検査、調剤、X線撮影、超音波検査、留置針設置などを参加実習の形式で進めていく。またコンピュータ断層撮影法（CT）や磁気共鳴画像法（MRI）など一般的な動物病院では扱わない高度医療検査についても学び、実際の症例に対して行われる検査を見学する。</p> <p>実習1日め 午前 内科系診療科での診療補助、検査補助 実習2日め 午前 内科系診療科での診療補助、検査補助 実習3日め 午前 内科系診療科での診療補助、検査補助 実習4日め 午前 内科系診療科での診療補助、検査補助 実習5日め 午前 外科系診療科での診療補助、検査補助 実習6日め 午前 外科系診療科での診療補助、検査補助 実習7日め 午前 外科系診療科での診療補助、検査補助 実習8日め 午前 外科系診療科での診療補助、検査補助</p>
授業期間を通して課される課題	<p>レポート提出 内科系診療科または外科系診療科で一つずつ</p>

科目No.	31067004	科目区分	選択必修
科目名	動物医療センター実習II	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	これまでの授業や動物医療看護学実習、動物医療検査学実習の知識が必要となるため、十分に復習をしてから臨むこと。		
テキスト・参考文献他			
授業形態	本学動物医療センターでの臨床実習		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	定期試験は行わない。
レポート試験	40	内科系診療科、外科系診療科でそれぞれ一つずつ提出する。
平常点評価	60	出席および実習態度などを総合的に評価する。

オフィスアワー	担当教員が多岐にわたるため、毎朝の朝礼時に担当教員ごとに確認すること。
その他	

科目No.	310690Q3	科目区分	選択必修
科目名	臨床動物行動学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	水越 美奈, 矢崎 潤		
授業のねらい	2年次の動物トレーニング理論(講義・実習)で学んだ基礎知識を踏まえ、困った行動を解決するために必要な知識を環境の変容や行動修正法を中心に取り上げる。講義における対象動物は犬・猫とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 問題行動の原因を理解できる 2. 基本的な行動修正法を理解できる 3. 犬と猫でよくみられる問題行動について基本的な知識を習得する 		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	2年前期の動物トレーニング理論の単位が取得済であること。動物トレーニング理論で学ぶ学習理論についての理解が必須であるので、事前にしっかりとまとめておくこと		
履修上の留意点	3, 4年次の臨床動物行動学演習受講の条件になるので、演習受講希望者は必ず履修すること		
概要・スケジュール	第1回 水越 臨床動物行動学と行動診療 第2回 水越 行動診療の手順と動物看護師の役割① 第3回 水越 行動診療の手順と動物看護師の役割② 第4回 水越 行動修正法① 第5回 水越 行動修正法② 第6回 水越 問題行動診療で用いるその他の方法 第7回 水越 犬と猫の攻撃行動 第8回 水越 犬と猫の攻撃行動の治療 第9回 水越 犬と猫の恐怖・不安に起因する問題行動 第10回 水越 猫の排泄に関する問題行動 第11回 矢崎 子犬によくみられる問題行動(甘咬みなど) 第12回 矢崎 問題行動の予防 ①適切な選択と適正飼養 第13回 矢崎 問題行動の予防 ②飼い主に伝えるべきこと 第14回 水越 犬と猫の高齢性認知機能不全 第15回 水越 パピー教室の役割と設計		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	31069003	科目区分	選択必修
科目名	臨床動物行動学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるため、次回の講義で取り扱う関連図書を事前に読むこと（30分） 復習として、毎回のテーマについてまとめる（60分）		
テキスト・参考文献他	授業ごとにプリントを配布する。教科書として「専門基礎分野・動物行動学」全国動物保健看護系大学協会編 インターズー、参考書として「犬と猫の行動学～基礎から臨床へ～」内田佳子／菊水健史著 学窓社。 また随時、授業中に指示する。		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	80%	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	0%	実施しない
平常点評価	20%	出席、授業態度などを総合的に評価する

オフィスアワー	水越：臨床部門（E棟4階） mmizukoshi * nvl.u. ac. jp（*を@に変えて使用） Eメールにて受付または面接を予約 矢崎：水越宛で受付あるいはkyomu * nvl.u. ac. jp（*を@に変えて使用）
その他	実際は、3年前期に開講

科目No.	310730Q3	科目区分	選択必修
科目名	臨床動物行動学演習 a	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	水越 美奈, 小田 民美		
授業のねらい	動物トレーニング理論、動物トレーニング理論実習、臨床動物行動学で学んだ基本的な知識と技術を踏まえて、飼い主への指導技術、問題解決能力を身につけることを目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な臨床動物行動学の知識を応用できる 2. 基本的な犬のトレーニング技術を向上する 		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	動物トレーニング理論、動物トレーニング実習、臨床動物行動学を履修済であること		
履修上の留意点	トレーニング実習時は、看護衣、看護シューズ、トリーツポーチを着用すること		
概要・スケジュール	課題図書を精読し、要約、ディスカッション等を行うことで、今までの授業・実習の総括を行い、臨床動物行動学演習 b の準備を行う		
授業期間を通して課される課題	出席・レポートを重視する		

科目No.	310730Q3	科目区分	選択必修
科目名	臨床動物行動学演習 a	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	各項目について復習・まとめを行う（60分）		
テキスト・参考文献他	課題図書を提示する		
授業形態	教室内での講義、少人数でのグループ演習および実習		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	実施しない
レポート試験	50%	数回実施する
平常点評価	70%	出席状況、授業態度、犬への接し方等の総合評価

オフィスアワー	水越：獣医保健看護学科臨床部門（E棟4階）mmizukoshi * nvl.u.ac.jp（*を@に変えて使用） Eメールで受け付けまたは面接を予約
その他	実際は3年後期に開講する

科目No.	31074004	科目区分	選択必修
科目名	臨床動物行動学演習 b	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	4
担当教員	水越 美奈		
授業のねらい	動物トレーニング理論、動物トレーニング理論実習、臨床動物行動学で学んだ基本的な知識・技術を踏まえて、飼い主への指導技術、問題解決能力を身につけることを目的とする		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な臨床動物行動学の知識を応用できる 2. 基本的な犬のトレーニング技術を向上する 		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	動物トレーニング理論、動物トレーニング実習、臨床動物行動学、臨床動物行動学演習aを履修済であること		
履修上の留意点	トレーニング実習時には、看護衣（あるいはスクラブ）、看護シューズ、トリーツポーチを着用すること		
概要・スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 一般診療の中での臨床動物行動学の応用（講義と演習） 3. コミュニケーション技術（講義と演習） 4. 犬具の使い方（講義と実習） 5. 嗅覚を使ったトレーニング（実習） 6. クリックートレーニング（実習） <p>5. 6のトレーニング実習は複数回（3回程度）実施する 進行により、内容が前後することもある</p>		
授業期間を通して課される課題	出席とレポートを重視する		

科目No.	31074004	科目区分	選択必修
科目名	臨床動物行動学演習 b	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	各項目について復習、まとめを行う (60分)		
テキスト・参考文献他	講義では講義ごとにプリントを配布する。あるいは授業中に指示する。		
授業形態	教室内での講義、少人数でのグループ演習および実習		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	実施しない
レポート試験	30%	数回実施する
平常点評価	70%	出席状況、授業態度、犬への接し方等の総合評価

オフィスアワー	水越：獣医保健看護学科臨床部門 (E棟4階) mmizukoshi * nvl.u. ac. jp (*を@に変えて使用)。Eメールで受け付け、または面接を予約
その他	実際には4年後期 (12~1月) に開講する

科目No.	310750Q3	科目区分	選択必修
科目名	動物医療看護学IV	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	中村 遊香, 百田 豊, 長谷川 大輔, 余戸 拓也		

授業のねらい	犬と猫の疾患のうち、神経障害および皮膚障害、眼障害について病態、診断、治療の概要を俯瞰する。3つの障害に関して、動物看護への実践・応用のために必要な基礎知識の習得を目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経疾患の臨床的側面から理解する。 2. 皮膚疾患の臨床的側面から理解する。 3. 眼疾患について臨床的側面から理解する。 		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回	長谷川	神経障害（神経学）1
	第2回	長谷川	神経障害（神経学）2
	第3回	長谷川	神経障害（神経学）3
	第4回	中村	皮膚障害（皮膚科学）1
	第5回	中村	皮膚障害（皮膚科学）2
	第6回	中村	皮膚障害（皮膚科学）3
	第7回	中村	皮膚障害（皮膚科学）4
	第8回	中村	皮膚障害（皮膚科学）5
	第9回	百田	皮膚障害（皮膚科学）6
	第10回	百田	皮膚障害（皮膚科学）7
	第11回	百田	皮膚障害（皮膚科学）8
	第12回	百田	皮膚障害（皮膚科学）9
	第13回	余戸	眼障害（眼科学）1
	第14回	余戸	眼障害（眼科学）2
	第15回	余戸	眼障害（眼科学）3
授業期間を通して課される課題			

科目No.	310750Q3	科目区分	選択必修
科目名	動物医療看護学IV	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	復習として、毎回の実習内容についてまとめておく(30分)。 図書館等を利用して、授業内容の関連事項について自習する(60分)。		
テキスト・参考文献他	専門分野 臨床動物看護学 各論、インターズー、第1版 動物看護学全集-12 看護動物のための小動物皮膚病学、ファームプレス、第1版 専門分野 動物臨床検査学、インターズー、第1版		
授業形態	講義室での講義。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	100%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	とくに課さない
平常点評価	0%	とくに加味しない。

オフィスアワー	百田、中村：獣医保健看護学臨床部門(E棟4F) momota@nvl.u.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約。 余戸：獣医外科学教室(D棟2F) yogo3@nvl.u.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約。 長谷川：日曜および火曜の午前中、放射線学研究室(D棟2F)にて対応		
その他			

科目No.	310770Q3	科目区分	選択必修
科目名	動物医療看護学IV実習 a	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	百田 豊, 余戸 拓也, 小田 民美		

授業のねらい	この実習では、獣医眼科と皮膚科の診療と検査を行う際に、動物看護師として必要な手技について学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 獣医眼科診療および検査において動物看護師として必要な技術を習得する。 2. 獣医皮膚科診療および検査において動物看護師として必要な技術を習得する。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	<p>1回目：獣医眼科における診療手技（威嚇瞬き反応、綿球落下試験、シルマー試験、眼圧測定、細隙灯顕微鏡検査、フルオレセイン染色、眼底検査、カルテの付け方など）</p> <p>2回目：皮膚科における診療手技1（皮膚搔破試験、スタンプ検査、毛検査、耳垢検査など）</p> <p>3回目：皮膚科における診療手技2（シャンプーに関わる知識と実践）</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	310770Q3	科目区分	選択必修
科目名	動物医療看護学IV実習 a	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	復習として、毎回の実習内容を整理しておく（60分）。		
テキスト・参考文献他	専門分野 動物臨床検査学、インターズー、第1版		
授業形態	いくつかの班に分かれての実習。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	とくに行わない。
レポート試験	50%	眼科および皮膚科実習に関するレポートの提出
平常点評価	50%	出席が重視される。実習への取り組みも評価する。

オフィスアワー	<p>百田：獣医保健看護学臨床部門（E棟4F）momota@nvl.u.ac.jp 小田：同上 hoda@nvl.u.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約。</p> <p>余戸：獣医外科学教室（D棟2F）yogo3@nvl.u.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約。</p>
その他	

科目No.	310790Q3	科目区分	選択必修
科目名	動物繁殖学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	袴田 陽二, 藤澤 正彦, 河上 栄一, 霍野 晋吉		

授業のねらい	動物の繁殖に関わる事項の仕組みを理解するために、繁殖に関する臓器の構造ならびに機能を学ぶ。さらに、獣医臨床で問題になる繁殖障害についてもその概要を説明できるようになる。また、発生工学や遺伝子工学の基礎となる初期発生についても理解することを目標とする。		
到達目標	1. 動物繁殖に関わる事項について理解する。 2. 哺乳動物の雌雄配偶子形成について説明できる。 3. 自然科学のみならず生命倫理を意識して、考え方を整理し、問題点を議論できる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	動物解剖学、動物機能学、動物遺伝学等の関連科目の内容を理解してから履修に臨むこと。		
履修上の留意点	授業中の発言・質疑など、主体的に授業に参加すること。		
概要・スケジュール	第1回 袴田陽二	動物繁殖学概論	
	第2回 袴田陽二	生殖周期とホルモン(1)	
	第3回 袴田陽二	生殖周期とホルモン(2)	
	第4回 袴田陽二	哺乳類の生殖 雌の生殖(1): 卵子形成、性周期、交配	
	第5回 袴田陽二	哺乳類の生殖 雌の生殖(2): 妊娠、胎仔の発達、分娩、帝王切開、産褥期	
	第6回 藤澤正彦	哺乳類の生殖 雄の生殖(1): 精子形成、性成熟	
	第7回 藤澤正彦	哺乳類の生殖 雄の生殖(2): 精巣下降、受精能獲得	
	第8回 藤澤正彦	性決定と性分化(1): 染色体の性、生殖器の性、副生殖器の性	
	第9回 藤澤正彦	性決定と性分化(2): 脳の性分化、性行動	
	第10回 河上栄一	犬の繁殖学	
	第11回 河上栄一	猫の繁殖学	
	第12回 河上栄一	小動物の繁殖機能障害	
	第13回 霍野晋吉	爬虫類の繁殖学	
	第14回 学外講師	鳥類の繁殖学	
	第15回 袴田陽二	生殖工学と動物看護	
授業期間を通して課される課題			

科目No.	31079003	科目区分	選択必修
科目名	動物繁殖学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるため次回の講義で取扱う参考図書等を事前に読むこと（30分） 復習として、毎回のテーマについてまとめておく（60分） など		
テキスト・参考文献他	テキスト：授業ごとにプリントを配布する。 参考書：佐藤英明「動物生殖学」（朝倉書店）、筒井敏彦「動物看護のための小動物繁殖学（動物看護学全集-11）」など		
授業形態	スライド		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	80%	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	0%	特になし
平常点評価	20%	出席、質疑応答等積極的な参加を総合的に評価する

オフィスアワー	袴田：生体機能学分野（E棟4階） yhakama@nvl.u.ac.jp 藤澤：生体機能学分野（E棟4階） masfuji@nvl.u.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約（火曜16:00～17:00）。
その他	動物繁殖学実習の受講を希望するものは必ず本講義を受講すること。

科目No.	310810Q3	科目区分	選択必修
科目名	動物繁殖学実習I	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	袴田 陽二, 藤澤 正彦		

授業のねらい	生きた動物を用いて実習をおこない、動物繁殖学の講義で学習した内容の理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 哺乳動物の配偶子形成ならびに初期胚の発生過程を理解する。 2. 哺乳動物の性周期とホルモンの役割を説明できる。 3. 自然科学のみならず生命倫理を意識して、考え方を整理し、問題点を議論できる。 		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	動物繁殖学の基礎知識への理解を確認してから履修に臨むこと。		
履修上の留意点	実習中は傍観者にならず、積極的に参加すること。		
概要・スケジュール	第1回	袴田陽二	動物の取扱い、個体識別、性周期の観察
	第2回	袴田陽二	各種動物の精子の構造、精子の運動性
	第3回	袴田陽二	ラットの性腺摘出手術とホルモン機能：去勢・避妊手術（麻酔、鎮痛、術後管理）
	第4回	袴田陽二	マウスのホルモン誘起排卵
	第5回	袴田陽二	マウス体外受精
	第6回	袴田陽二	マウス受精卵凍結保存
授業期間を通して課される課題			

科目No.	310810Q3	科目区分	選択必修
科目名	動物繁殖学実習I	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実習内容の理解を深めるために実習書ならびに関連参考図書で事前に確認し、予習しておくこと		
テキスト・参考文献他	<p>テキスト：実習テキストを配布する。</p> <p>参考書：佐藤英明「動物生殖学」（朝倉書店）、筒井敏彦「動物看護のための小動物繁殖学（動物看護学全集-11）」など</p>		
授業形態	講義、デモンストレーション、実際の手技、観察、スケッチ等		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	実施しない
レポート試験	80%	提出されたレポートの内容を評価する。
平常点評価	20%	出席、質疑応答等積極的な参加を総合的に評価する

オフィスアワー	袴田：生体機能学分野（E棟4階） yhakama@nvl.u.ac.jp 藤澤：生体機能学分野（E棟4階） masfuji@nvl.u.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約（火曜16:00～17:00）。
その他	繁殖学実習を受講するものは必ず動物繁殖学を受講すること

科目No.	31085004	科目区分	選択必修
科目名	動物グルーミング理論実習 b	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	4
担当教員	百田 豊, 余戸 拓也		

授業のねらい	この実習では、獣医眼科と皮膚科の診療と検査を行う際に、動物看護師として必要な手技について学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 獣医眼科診療および検査において動物看護師として必要な技術を習得する。 2. 獣医皮膚科診療および検査において動物看護師として必要な技術を習得する
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	<p>1回目：獣医眼科における診療手技（威嚇瞬き反応、綿球落下試験、シルマー試験、眼圧測定、細隙灯顕微鏡検査、フルオレセイン染色、眼底検査、カルテの付け方など）</p> <p>2回目：皮膚科における診療手技1（皮膚搔破試験、スタンプ検査、毛検査、耳垢検査など）</p> <p>3回目：皮膚科における診療手技2（シャンプーに関わる知識と実践）</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	31085004	科目区分	選択必修
科目名	動物グルーミング理論実習 b	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	復習として、毎回の実習内容を整理しておく（60分）。		
テキスト・参考文献他	専門分野 動物臨床検査学、インターズー、第1版		
授業形態	レポート提出		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	行わない。
レポート試験	100%	眼科および皮膚科実習に関するレポートの提出
平常点評価	0%	本評価は含めない

オフィスアワー	百田：獣医保健看護学臨床部門（E棟4F）momota@nvlu.ac.jp
その他	

科目No.	31089004	科目区分	選択必修
科目名	動物繁殖・新生子学実習b	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	4
担当教員	袴田 陽二, 藤澤 正彦, 河上 栄一, 堀 達也, 小林 正典		

授業のねらい	生きた動物を用いて実習をおこない、動物繁殖学の講義で学習した内容の理解を深める。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 哺乳動物の配偶子形成ならびに初期胚の発生過程を理解する。 2. 哺乳動物の性周期とホルモンの役割を説明できる。 3. 自然科学のみならず生命倫理を意識して、考え方を整理し、問題点を議論できる。 	
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	動物繁殖学の基礎知識への理解を確認してから履修に臨むこと。	
履修上の留意点	実習中は傍観者にならず、積極的に参加すること。	
概要・スケジュール	第1回 河上栄一 犬と山羊の精液採取法と精子の運動性の評価 第2回 河上栄一 犬の性周期確認法 第3回 河上栄一 胎児猫の観察 第4回 河上栄一 生殖器系に機能障害を持つ犬、猫の標本を観察 第5回 袴田陽二 マウス凍結胚の融解と移植 第6回 袴田陽二 マウスの帝王切開、性別判定、蘇生法	
授業期間を通して課される課題		

科目No.	31089004	科目区分	選択必修
科目名	動物繁殖・新生子学実習 b	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実習内容の理解を深めるため実習書ならびに関連参考図書で事前に確認し、予習しておくこと(60分)		
テキスト・参考文献他	<p>テキスト：実習毎に資料プリントを配布する。</p> <p>参考書：佐藤英明「動物生殖学」（朝倉書店）、筒井敏彦「動物看護のための小動物繁殖学（動物看護学全集-11）」など</p>		
授業形態	講義、デモンストレーション、実際の手技、観察、スケッチ等		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	実施しない
レポート試験	80%	レポートの内容を評価する。
平常点評価	20%	出席、質疑応答等積極的な参加を総合的に評価する

オフィスアワー	袴田：生体機能学分野（E棟4階） yhakama@nvl.u.ac.jp 藤澤：生体機能学分野（E棟4階） masfuji@nvl.u.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約（火曜16:00～17:00）。
その他	繁殖学実習を受講するものは必ず動物繁殖学を受講すること。

科目No.	31092003	科目区分	選択必修
科目名	動物介在療法実習 a	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	小林 真理子, 水越 美奈, 小林 淳		

授業のねらい	3N動物介在療法論の知識を基礎とし、実際に動物を介在させた実習、および演習を行うことで、動物介在介入の知識を深める。
到達目標	各種動物介在介入における動物の有用性を理解できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	3N動物介在療法論を復習しておくこと。
履修上の留意点	
概要・スケジュール	<p>第1回 小林真理子・水越美奈：実習の概要</p> <p>第2回 水越美奈・平野 恵理子 動物愛護センター等で行われる動物ふれあい活動</p> <p>第3回～</p> <p>第4回 水越美奈・平野 恵理子 なぜ動物なのか？</p> <p>第5回～</p> <p>第6回 水越美奈・平野 恵理子 動物の適性とボランティアの適性</p> <p>第7回～</p> <p>第8回 水越美奈・平野 恵理子 動物介在療法のデモとロールプレイング</p> <p>第9回～</p> <p>第10回 水越美奈・平野 恵理子 動物介在活動や療法に参加する犬に教えておくと役立つトレーニング</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	31092003	科目区分	選択必修
科目名	動物介在療法実習 a	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	各課題終了後に内容をまとめる（30分）。グループでの質疑応答。		
テキスト・参考文献他	プリントを配布する。参考文献は都度提示する。		
授業形態	実習および教室内における講義と演習		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	定期試験は実施しない
レポート試験	70%	レポート
平常点評価	30%	出席状況、参加姿勢

オフィスアワー	小林真理子：獣医保健看護学科応用部門（E棟4階）、基本的に火曜から金曜の12：00から12：30。 水越美奈：獣医保健看護学科臨床部門（E棟4階） Eメールで受け付けまたは面接を予約 mmizukoshi × nvlu. ac. jp（×を@に変えて使用すること） 平野恵理子、的場美芳子：kyomu × nvlu. ac. jp（×を@に変えて使用すること）
その他	

科目No.	31093004	科目区分	選択必修
科目名	動物介在療法実習 b	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	4
担当教員	小林 真理子, 水越 美奈		
授業のねらい	3N動物介在療法論の知識を基礎とし、実際に動物を介在させた実習、および演習を行うことで、動物介在介入の知識を深める。		
到達目標	動物介在教育に関するロールプレイングの体験を通じ、教育現場における動物の介在の意義を知る。人が動物をどのようにとらえているかを知るために、アンケート調査の方法を習得し、動物介在介入、HUBにおける実践を可能とする。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	3N動物介在療法論および2N動物人間関係論を復習しておくこと。		
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第 1回 小林真理子：指定課題の提出 第 2回 的場美芳子：動物介在教育に関して（グループ分けと課題の提示） 第 3回 的場美芳子：動物介在教育の実際 第 4回 的場美芳子：動物介在教育の実際 第 5回 的場美芳子：動物介在教育の実際 第 6回 濱野佐代子：アンケート調査方法 第 7回 濱野佐代子：アンケート調査方法 第 8回 濱野佐代子：アンケート調査方法 第 9回 濱野佐代子：アンケート調査方法 第10回 濱野佐代子：アンケート調査方法 第11回 濱野佐代子・小林真理子：発表会		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	31093004	科目区分	選択必修
科目名	動物介在療法実習 b	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	アンケート調査に関しては調べること、調査時間に費やす時間が多い。グループなどでの討議、まとめなどに時間がかかるが選んだテーマにより異なる。具体的な時間はあげられない。		
テキスト・参考文献他			
授業形態	講義および実習、視聴覚室を利用した実習		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	試験形式による評価は行わない
レポート試験	70	レポートおよび最終発表の内容
平常点評価	30	出席および実習参加への積極性

オフィスアワー	小林真理子：獣医保健看護学科応用部門（E棟4階）、基本的に火曜から金曜の12:00から12:30. 水越美奈：獣医保健看護学科臨床部門（E棟4階） Eメールで受け付けまたは面接を予約 mmizukoshi ×nvl.u.ac.jp（×を@に変えて使用すること） 平野恵理子、的場美芳子：kyomu×nvl.u.ac.jp（×を@に変えて使用すること）
その他	

科目No.	310950Q3	科目区分	選択必修
科目名	水生生物学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	山本 俊昭, 田島 木綿子, 和田 新平		

授業のねらい	本講義における学問領域は広く、生態学、魚病学ならびに病理学である。各分野の講義回数は決して多くなく、対象とする種も魚類および鯨類と様々であるが、あらゆる観点から陸生哺乳類と水生生物間を比較し、そのメカニズムの違いを理解してもらいたい。
到達目標	①魚類の生態学を理解する ②魚病学の基礎を理解する ③海棲哺乳類について理解する
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回 魚類の構造(山本) 第2回 回遊魚の進化(山本) 第3回 魚類の保全遺伝学(山本) 第4回 個体群動態(山本) 第5回 種間競争(山本) 第6回 捕食と被食の関係(山本) 第7回 魚類の分類(和田) 第8回 魚類の健康状態を維持管理する為の基本知識および技術(和田) 第9回 観賞魚の代表的な感染症(和田) 第10回 哺乳類の一般的特徴(田島) 第11回 海棲哺乳類にみる哺乳類の特徴(田島) 第12回 鰭脚類について 総論・各論(田島) 第13回 海牛類について 総論・各論(田島) 第14回 鯨類について 総論(田島) 第15回 鯨類について 各論(田島)
授業期間を通して課される課題	

科目No.	310950Q3	科目区分	選択必修
科目名	水生生物学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	復習として、毎回のテーマについてまとめておく		
テキスト・参考文献他			
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	70	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	0	レポート試験は行わない
平常点評価	30	出席および小テストを総合的に評価する

オフィスアワー	保全生物学研究分野 E棟4階
その他	

科目No.	310970Q3	科目区分	選択必修
科目名	水生生物学実習 a	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	山本 俊昭		

授業のねらい	講義で学んだ学問領域（生態学・魚病学・病理学）について、本実習を通してより深く理解してもらおう。主に、鯨類や魚類の解剖および病気を観察し、陸生哺乳類と水生生物間の構造の違いを理解する。
到達目標	①魚類の構造を理解する ②海棲哺乳類の構造を理解する ③水生生物の基本的な検査方法を理解する
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第 1 回 実習全体の説明 第 2 回 鯨類の解剖 1 第 3 回 鯨類の解剖 2 第 4 回 鯨類の解剖 3 第 5 回 鯨類の解剖 4 第 6 回 魚類の解剖 1 第 7 回 魚類の解剖 2 第 8 回 魚類の解剖 3 第 9 回 魚類の解剖 4
授業期間を通して課される課題	

科目No.	31097003	科目区分	選択必修
科目名	水生生物学実習 a	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	復習として、毎回のテーマについてまとめておく		
テキスト・参考文献他			
授業形態	実習室で主に行うが、数日野外で作業を行う予定である		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	定期試験は行わない
レポート試験	30	実習に関連したレポート課題を提出してもらう
平常点評価	70	出席および積極的な参加を総合的に評価する

オフィスアワー	保全生物学研究分野 E棟4階
その他	

科目No.	31098004	科目区分	選択必修
科目名	水生生物学実習 b	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	4
担当教員	山本 俊昭		

授業のねらい	講義で学んだ学問領域（生態学・魚病学・病理学）について、本実習を通してより深く理解してもらおう。主に、鯨類や魚類の解剖および病気を観察し、陸生哺乳類と水生生物間の構造の違いを理解する。
到達目標	①魚類の構造を理解する ②海棲哺乳類の構造を理解する ③水生生物の基本的な検査方法を理解する
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第 10 回 魚類の病気 1 第 11 回 魚類の病気 2 第 12 回 水生生物の採集および分析 1 第 13 回 水生生物の採集および分析 2 第 14 回 水生生物の採集および分析 3 第 15 回 データの解析方法
授業期間を通して課される課題	

科目No.	31098004	科目区分	選択必修
科目名	水生生物学実習 b	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	復習として、毎回のテーマについてまとめておく		
テキスト・参考文献他			
授業形態	実習室で主に行うが、数日野外で作業を行う予定である		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	定期試験は行わない
レポート試験	30	実習に関連したレポート課題を提出してもらう
平常点評価	70	出席および積極的な参加を総合的に評価する

オフィスアワー	保全生物学研究分野 E棟4階
その他	

科目No.	311000Q3	科目区分	選択必修
科目名	動物園学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	小林 和夫		
授業のねらい	動物園の役割・運営、そして飼育下という特殊な環境にいる動物やその管理などについて学んだ上で、多くの人々に利用されている動物園について理解することを目的とする。		
到達目標	動物園の機能および飼育下の動物について理解を深めることができる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	何れかの動物園を実際に見てから授業に出席することが望ましい。		
履修上の留意点	疑問点等は適宜質問するなど積極的に取り組むこと。		
概要・スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1、現在の日本の動物園 2、動物園の歴史・成立過程など 3、動物の分類 4、個体識別 5、飼育展示動物の収集計画と収集方法 6、動物の展示 7、動物舎の配列方法 8、飼育展示動物の輸送とその事例 9、飼育展示のための施設 10、動物園における事故と安全対策 11、動物の繁殖、特に人工保育・人工育雛 12、飼育動物への給餌飼料 13、飼育環境の多様化 14、動物園の課題ー種保存 15、動物園の課題ー普及教育活動 		
授業期間を通して課される課題	授業中に動物園に関する簡単なレポートを課す事がある。 レポート試験に際して、近隣の動物園の見学が必要。		

科目No.	311000Q3	科目区分	選択必修
科目名	動物園学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	動物園について理解を深めるため、授業中に指示する参考文献に目を通す事。 毎回の講義内容について整理する（60分）		
テキスト・参考文献他	テキスト：授業ごとにプリントを配布 参考文献：授業中に指示		
授業形態	講義室でスライド等を使用した講義を行う （講義の順は前後する可能性がある）		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	0	レポート試験とする
レポート試験	75	学期末にレポートを課す
平常点評価	25	出席、時間内の簡易なレポートにより評価する

オフィスアワー	メールアドレス：kyomu×nvl.u.ac.jp（×を@に変えて使用する こと） 実施方法：教務・学生課を通して調整する
その他	

科目No.	31103003	科目区分	選択必修
科目名	動物園学実習 a	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	梶ヶ谷 博		

授業のねらい	動物園動物学実習は個人ごとに実施する実際の動物園と水族館における飼育体験実習である。実務体験を通じて動物飼育の実状を理解するとともに動物園や水族館の社会的な価値と施設維持の抱える課題について学習する。
到達目標	1. 動物園や水族館の業務を説明できる。 2. 動物園や水族館の社会的役割を説明できる。 3. 動物園や水族館のもつ課題を説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	動物園動物学
履修上の留意点	1年次から履修を認めるが、単位認定は指定の学年において行う。下級年次を含めて実習に際しては必ず学外実習届を提出し、科目担当者と事前相談のこと。
概要・スケジュール	個人別に相談に応じる。全体ガイダンスにおいても説明を行う。
授業期間を通して課される課題	

科目No.	31103003	科目区分	選択必修
科目名	動物園学実習 a	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実習項目ごとに参考書やインターネットを利用して予習を行うこと。		
テキスト・参考文献他			
授業形態	学外施設における実務実習。 実習終了後にレポート提出を課す。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	実施しない。
レポート試験	50%	目的とねらいに応じた内容の水準を評価。
平常点評価	50%	出席状況、積極性

オフィスアワー	梶ヶ谷：通常は毎日午前11時～午後1時 確約の要があるときは事前予約 (kaji@nvlu.ac.jp)
その他	学外実習届を必ず提出すること。

科目No.	31104004	科目区分	選択必修
科目名	動物園学実習 b	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	4
担当教員	梶ヶ谷 博		

授業のねらい	本実習は個人による動物園または水族館における体験型の飼育実習を原則とする。現場における体験を通じて動物への関心だけではなく社会における飼育展示施設の状況も合わせて学ぶ。
到達目標	飼育展示施設の自然科学的な意義、社会的な立場や状況、社会における価値と意義について説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	動物園学講義を履修すること。
履修上の留意点	
概要・スケジュール	別に定める。
授業期間を通して課される課題	

科目No.	31104004	科目区分	選択必修
科目名	動物園学実習 b	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	施設によって異なる。		
テキスト・参考文献他			
授業形態	体験型実習		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	実施しない
レポート試験	50%	実習終了後にレポートを課す。
平常点評価	50%	実習出席日数評価

オフィスアワー	原則として毎日午後0時から午後1時
その他	

科目No.	31106004	科目区分	選択必修
科目名	野生動物保護管理学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	4
担当教員	梶ヶ谷 博		
授業のねらい	動物を取り巻く状況について最初に正しい情報の整理をし、それをもとに人間と動物の関係の在り方について考える機会をもち、そのうえで他の人々の異なった考えに耳を傾けることで、動物の保護管理に対する多様性を学ぶ。		
到達目標	1. 動物と人間の関係の在り方について自分の意見を論理的に説明できる。 2. 他者の意見を理解・尊重しながら討議ができる。 3. 人間社会に囲まれた動物の状況を多面的に理解する。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第 1 回 梶ヶ谷 概論 1 世界と日本における保護活動 第 2 回 梶ヶ谷 概論 2 動物のさまざまな状況・立場 第 3 回 梶ヶ谷 ペットの愛護と保護、救護 第 4 回 梶ヶ谷 ペットの愛護と保護、救護：グループディスカッション (GD)、評論 第 5 回 梶ヶ谷 農作物と野生動物保護管理 第 6 回 梶ヶ谷 農作物と野生動物保護管理：GD、評論 第 7 回 梶ヶ谷 海洋の油汚染と野鳥保護 第 8 回 梶ヶ谷 海洋の油汚染と野鳥保護：GD、評論 第 9 回 梶ヶ谷 都市環境と野生動物 第 10 回 梶ヶ谷 都市環境と野生動物：GD、評論 第 11 回 梶ヶ谷 家畜家禽の保護と愛護 第 12 回 梶ヶ谷 家畜家禽の保護と愛護：GD、評論 第 13 回 梶ヶ谷 動物園と保護活動 第 14 回 梶ヶ谷 動物園と保護活動：GD、評論 第 15 回 梶ヶ谷 まとめ		
授業期間を通して課される課題	GDごとに毎回討議のまとめの提出を課す。		

科目No.	31106004	科目区分	選択必修
科目名	野生動物保護管理学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	次回のテーマに沿った下調べをして、自分の意見をまとめておく。		
テキスト・参考文献他			
授業形態	教室での講義と演習		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	実施しない
レポート試験	50%	GDのまとめレポートについて評価
平常点評価	50%	出席状況と授業への取り組み姿勢を評価

オフィスアワー	梶ヶ谷：通常は毎日午前11時～午後1時 確約の要があるときは事前予約 (kaji@nvlu.ac.jp)
その他	

科目No.	31108004	科目区分	選択必修
科目名	野生動物保護管理学実習	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	4
担当教員	梶ヶ谷 博, 山本 俊昭		

授業のねらい	この実習では動物保護管理を実施している実際の団体や施設において自ら活動体験を行い、そこから野生動物に対する社会的活動の内容と意義を学びとる。
到達目標	野生動物に関連した保護管理の実状と課題を説明できること。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	本実習は海外における個人・団体実習も認定対象とする。 本実習は1年次から履修を認めるが、実習前に担当者に相談のこと。
概要・スケジュール	個別に事前相談に応じる。海外実習については別途説明をする。
授業期間を通して課される課題	施設によって異なる

科目No.	31108004	科目区分	選択必修
科目名	野生動物保護管理学実習	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	実習内容に応じた予備知識を得ておくこと。		
テキスト・参考文献他			
授業形態	施設によって異なる。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	実施しない
レポート試験	30%	内容の充実度、授業以外の情報の整理、全体の作りの丁寧さ
平常点評価	70%	出席状況、実習態度

オフィスアワー	梶ヶ谷：通常は毎日午前11時～午後1時 確約の要があるときは事前予約 (kaji@nvl.u.ac.jp)
その他	学外実習届を必ず提出すること。

科目No.	311100Q3	科目区分	選択必修
科目名	動物生態調査実習 a	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	梶ヶ谷 博, 山本 俊昭		

授業のねらい	野生動物の性別、年齢はどのようにして得ることができるのか、その技術について学ぶ。また、野外での調査方法（テレメトリー法）および得られた情報の解析方法（GIS）についても学ぶ。これらを通して、野生動物の管理および保護を行う上で必要な基礎的技術を理解する。
到達目標	野生動物を保護管理する上で必要な技術・知識を習得してもらうことである。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第 1 回 山本：概論 第 2 回 山本：地図とコンパス，テレメトリー調査 第 3 回 山本：野生動物の年齢査定法1 第 4 回 山本：野生動物の年齢査定法2 第 5 回 山本：野生動物の性判別法1 第 6 回 山本：野生動物の性判別法2 第 7 回 山本：人と野生動物との関係1 第 8 回 山本：人と野生動物との関係2
授業期間を通して課される課題	

科目No.	311100Q3	科目区分	選択必修
科目名	動物生態調査実習 a	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	復習として、毎回のてーまについてまとめておく		
テキスト・参考文献他			
授業形態	主に実習室内で行うが、野外調査を1-2回行う予定である		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	定期試験は行わない
レポート試験	30	実習に関連したレポート課題を提出してもらう
平常点評価	70	出席および積極的な参加を総合的に評価する

オフィスアワー	保全生物学研究分野 E棟4階
その他	

科目No.	31111004	科目区分	選択必修
科目名	動物生態調査実習 b	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	4
担当教員	梶ヶ谷 博, 山本 俊昭		

授業のねらい	野生動物の性別、年齢はどのようにして得ることができるのか、その技術について学ぶ。また、野外での調査方法（テレメトリー法）および得られた情報の解析方法（GIS）についても学ぶ。これらを通して、野生動物の管理および保護を行う上で必要な基礎的技術を理解する。
到達目標	野生動物を保護管理する上で必要な技術・知識を習得してもらうことである。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第 9 回 山本：野生動物の胃内容分析1 第 10 回 山本：野生動物の胃内容分析2 第 11 回 山本：講義と演習 1 地理情報システム (GIS) 1 第 12 回 山本：講義と演習 2 地理情報システム (GIS) 2 第 13 回 山本：講義と演習 3 地理情報システム (GIS) 3 第 14 回 山本：講義と演習 4 地理情報システム (GIS) 4 第 15 回 山本：まとめ
授業期間を通して課される課題	

科目No.	31111004	科目区分	選択必修
科目名	動物生態調査実習 b	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	復習として、毎回のてーまについてまとめておく		
テキスト・参考文献他			
授業形態	主に実習室内で行うが、野外調査を1-2回行う予定である		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	定期試験は行わない
レポート試験	30	実習に関連したレポート課題を提出してもらう
平常点評価	70	出席および積極的な参加を総合的に評価する

オフィスアワー	保全生物学研究分野 E棟4階
その他	

科目No.	31112003	科目区分	選択必修
科目名	野鳥保護活動実習	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	梶ヶ谷 博		

授業のねらい	身近な野鳥の生態と環境との関係を実際の体験を通じて学ぶ。野鳥の生き様を知ることは自然界における人間の社会活動の在り方をみつめなおすことに他ならないという、単純で大切な帰結を自然に抱いてもらう。
到達目標	1. 普通種の野鳥20種類以上を識別できる。 2. 鳥類調査方法と環境調査の手法の基本を説明できる。 3. 自然界と人間の関係について自分の意見を論理的に表現できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回 梶ヶ谷 野鳥と野鳥医学総論 第2回 梶ヶ谷 野鳥の識別訓練（講義・演習） 第3回 梶ヶ谷ほか 野外識別実習（野外実習） 第4回 梶ヶ谷 鳥の羽毛の性質と撥水実験（室内実験） 第5回 梶ヶ谷 調査法講義 第6回 梶ヶ谷ほか ガラス衝突に係る野外調査（野外実習） 第7回 梶ヶ谷ほか 野鳥の実物を用いた標本作製（室内実習） 第8回 梶ヶ谷 データまとめ、レポート作成（演習）
授業期間を通して課される課題	

科目No.	31112003	科目区分	選択必修
科目名	野鳥保護活動実習	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	事前資料を予習のこと。		
テキスト・参考文献他	学内LAN事前配布		
授業形態	教室での講義および演習、野外実習		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	実施しない
レポート試験	50%	実習内での学習内容以外、自ら調べ考察した内容も評価
平常点評価	50%	出席状況と授業への取り組み姿勢を評価

オフィスアワー	梶ヶ谷：通常は毎日午前11時～午後1時 確約の要があるときは事前予約 (kaji@nvlu.ac.jp)
その他	

科目No.	31113004	科目区分	選択必修
科目名	特別講義	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	4
担当教員	N 学科長, 担当教員		

授業のねらい	4年間の授業で十分教育できなかった項目、単一項目であり単位として設定できなかった項目、卒業後に特に必要と考えられる項目について講義を行う。特に各方面の活躍している専門家に講義をお願いする。
到達目標	獣医保健看護学、獣医学の学問領域、職域の広がりを理解する。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	<p>過去の実績を示す。</p> <p>第 1 回 動物の検疫の現状 第 2 回 動物医薬品の適正使用 第 3 回 ペット産業の動向 第 4 回 放射線障害・防護・法規 第 5 回 日本における資料の安全確保について 一家畜からペットまで 第 6 回 動物看護の現状と課題 第 7 回 小動物における内視鏡検査 第 8 回 動物福祉の現状と課題について 第 9 回 動物用医薬品のGLP およびGCP について 第 10 回 輸入食品！検疫所と登録検査機関 第 11 回 看護実践教育の現状、特に老年期領域を中心として 第 12 回 大学教育における動物看護師－看護教育の特殊性と大学教育化 第 13 回 大学教育における動物看護師－大学における動物看護について 第 14 回 経腸栄養の必要な症例との基本的考え方、経腸栄養の実際 第 15 回 動物理学療法の実践</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	31113004	科目区分	選択必修
科目名	特別講義	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	講義内容のレポートを作成（120分）		
テキスト・参考文献他	その都度配布。		
授業形態	スライドを用いた教室における講義。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	実施しない
レポート試験	60%	講義ごとにレポートを課す。
平常点評価	40%	講義ごとに出席を取る。

オフィスアワー	講義ごとに、担当教員と個別に連絡を取ること。
その他	

科目No.	31114004	科目区分	選択必修
科目名	卒業論文	単位数	4.0
学科	獣医保健看護学科	学年	4
担当教員	N 学科長		

授業のねらい	自分で得た科学的内容（実験による結果）や社会科学的な内容（解析した結果）から自ら問題意識を持ち、説明して行く力を会得する。論文形式の論理的文章作成する能力を身につける。
到達目標	物事を論理的に考え分析することで客観的に証明する力を付ける。 研究内容を時間内にまとめプレゼンテーションし、聴衆に誤解無く理解させる能力を付ける。 文献・情報の収集方法を会得する。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	実験を行うために必要な機器の取り扱い手法を会得しておく。データの統計法を習得しておく。
履修上の留意点	
概要・スケジュール	配属された研究室で実験、研究指導を受ける。3年前期から4年後期まで約2年間、実験、研究、論文作成にあたる。4年次後期に卒業論文および論文要旨を提出する。さらに、卒業論文発表会にて発表する。
授業期間を通して課される課題	研究に関連した英語論文を収集し、内容を理解する。時にはゼミにてプレゼンテーションを行う。

科目No.	31114004	科目区分	選択必修
科目名	卒業論文	単位数	4.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	図書館、書籍、インターネット等で情報等を集めて自主学習。		
テキスト・参考文献他	研究課題ごとに指示される。		
授業形態	研究テーマの作成、実験または調査等、情報収集、ゼミ、指導教官との協議		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	実施しない
レポート試験	90%	卒業論文、論文発表会
平常点評価	10%	ゼミ、指導教員との打ち合わせ、実験など

オフィスアワー	各指導教員と相談のこと。その他、学科長も相談を受ける。 左向敏紀 t-sako@nvl.u.ac.jp 獣医保健看護学科臨床部門 (D棟 1階) メールにて予約
その他	

科目No.	311160S1	科目区分	選択
科目名	Reading English (a) N1	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	井上 啓介		
授業のねらい	1) やさしい英語で書かれた小説をたくさん読む。2) 映画を見てそれを読む助けにする。 3) 小説を読むことで話し言葉に多く触れる。Readingの授業であるが、SpeakingやListening Comprehensionの基礎ともなる。		
到達目標	ある程度の分量の英語（前期で50ページ、約1万5千語）を読み切る。 やさしい英語を使って自己表現できるようになる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回 ガイダンス 第2回 映画 (1) 第3回 映画 (2) 第4回 Reading (1) 第5回 Reading (2) 第6回 Reading (3) 第7回 Reading (4) 第8回 Reading (5) 第9回 Reading (6) 第10回 Discussion (1) 第11回 Discussion (2) 第12回 Scenario研究 (1) 第13回 Scenario研究 (2) 第14回 Scenario研究 (3) 第15回 Review		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	311160S1	科目区分	選択
科目名	Reading English (a) N1	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業時間以外の時間を使って読む。授業では読んだことの確認や、読んだものをもとにしたアクティビティを行う。		
テキスト・参考文献他	テキストは最初の授業で指示する。その他プリントを利用する。		
授業形態	講義ではなく演習、英語のトレーニングの授業。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	50%	学期末に試験を行う。
レポート試験	40%	テキストについて5回のQuizを行い、それを評価する。
平常点評価	10%	授業の参加、課題などで評価。

オフィスアワー	授業の前後。それ以外ではメールを使って質問してください。
その他	

科目No.	311160S1	科目区分	選択
科目名	Reading English (a) N2	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	鴫崎 敏彦		

授業のねらい	ここ数年の話題性のある出来事を扱った質の高い英語を読みこなすことで、読解力の向上を目指す。速読と精読の両方をバランスよく取り入れながら、語彙力や文法力の向上も図る。また、資格試験などに役立つようなリスニング力も養成する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 身近な話題を扱った英文を正確に解釈することができる。 速読と精読の両方の技能を身に付ける。 授業で出会った単語・熟語・重要表現を使用することができる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	中学校・高等学校で学習した語彙・文法事項を総復習しておく。
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 授業時に必ず辞書（電子辞書可）を持参すること。 授業の方針などを詳しく説明するので、履修する学生は初回の授業に必ず出席すること。
概要・スケジュール	<p>第1回（鴫崎）：オリエンテーション</p> <p>第2回（鴫崎）：リスニング演習（Photograph 1）＆リーディング演習（その1[前半]）</p> <p>第3回（鴫崎）：リスニング演習（Photograph 2）＆リーディング演習（その1[後半]）</p> <p>第4回（鴫崎）：リスニング演習（Photograph 3）＆リーディング演習（その2）</p> <p>第5回（鴫崎）：リスニング演習（Photograph 4）＆リーディング演習（その3）</p> <p>第6回（鴫崎）：リスニング演習（Photograph 5）＆リーディング演習（その4）</p> <p>第7回（鴫崎）：リスニング演習（Photograph 6）＆リーディング演習（その5）</p> <p>第8回（鴫崎）：前半の復習（リーディング：その1～その5）</p> <p>第9回（鴫崎）：リスニング演習（Photograph 7）＆リーディング演習（その6）</p> <p>第10回（鴫崎）：リスニング演習（Photograph 8）＆リーディング演習（その7）</p> <p>第11回（鴫崎）：リスニング演習（Photograph 9）＆リーディング演習（その8）</p> <p>第12回（鴫崎）：リスニング演習（Photograph 10）＆リーディング演習（その9）</p> <p>第13回（鴫崎）：リスニング演習（Photograph 11）＆リーディング演習（その10）</p> <p>第14回（鴫崎）：リスニング演習（Photograph 12）＆後半の復習（リーディング：その6～その10）</p> <p>第15回（鴫崎）：全体のまとめ</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	311160S1	科目区分	選択
科目名	Reading English (a) N2	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	1. リスニング演習とリーディング演習で扱った英文の復習 (60分) 2. 授業で出会った単語・熟語・重要表現をまとめて、使用できるようにする (60分)		
テキスト・参考文献他	テキスト：『What's the Picture Saying? リスニングと語彙のミニテスト』（朝日出版社） リーディング演習に関してはプリントを配布する。		
授業形態	授業の最初に、ウォーミングアップとしてリスニング演習を行う。リーディング演習に関しては、授業ごとに配布するプリントを読み、語句の意味や構文、日本語訳などを確認していく。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	60%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	-
平常点評価	40%	出席、授業中のタスクに対する積極性などで総合評価する。

オフィスアワー	梶崎 敏彦：英語学教室（E棟1階） tokizaki@nvlu.ac.jp（×を@に変えて使用すること） Eメールにて面接を受付または予約（月曜 12:00～12:40）
その他	遅刻・早退3回で欠席1回とみなし、大幅な遅刻・早退（30分を超えた場合）は欠席扱いとする。欠席が全授業日数の3分の1を超えた場合は単位を認めない。

科目No.	311170S1	科目区分	選択
科目名	Reading English (b) N1	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	井上 啓介		
授業のねらい	1) やさしい英語で書かれた小説をたくさん読む。2) 映画を見てそれを読む助けにする。 3) 小説を読むことで話し言葉に多く触れる。Readingの授業であるが、SpeakingやListening Comprehensionの基礎ともなる。		
到達目標	ある程度の分量の英語（後期で50ページ、約1万5千語）を読み切る。 やさしい英語を使って自己表現できるようになる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回 ガイダンス 第2回 映画 (1) 第3回 映画 (2) 第4回 Reading (1) 第5回 Reading (2) 第6回 Reading (3) 第7回 Reading (4) 第8回 Reading (5) 第9回 Reading (6) 第10回 Discussion (1) 第11回 Discussion (2) 第12回 Scenario研究 (1) 第13回 Scenario研究 (2) 第14回 Scenario研究 (3) 第15回 Review		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	311170S1	科目区分	選択
科目名	Reading English (b) N1	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業時間以外の時間を使って読む。授業では読んだことの確認や、読んだものをもとにしたアクティビティを行う。		
テキスト・参考文献他	テキストは最初の授業で指示する。その他プリントを使用。		
授業形態	講義ではなく演習、英語のトレーニングの授業。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	50%	学期末に定期試験を行う。
レポート試験	40%	テキストの理解を促すQuizを5回。
平常点評価	10%	授業への参加、課題など。

オフィスアワー	授業の前後。それ以外ではメールを使って質問してください。
その他	

科目No.	311170S1	科目区分	選択
科目名	Reading English (b) N2	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	鴫崎 敏彦		

授業のねらい	ここ数年の話題性のある出来事を扱った質の高い英語を読みこなすことで、読解力の向上を目指す。速読と精読の両方をバランスよく取り入れながら、語彙力や文法力の向上も図る。また、資格試験などに役立つようなリスニング力も養成する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 身近な話題を扱った英文を正確に解釈することができる。 速読と精読の両方の技能を身に付ける。 授業で出会った単語・熟語・重要表現を使用することができる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	<ol style="list-style-type: none"> 中学校・高等学校で学習した語彙・文法事項を総復習しておく。 Reading English (a) N2 を履修していることが望ましい。
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 授業時に必ず辞書（電子辞書可）を持参すること。 授業の方針などを詳しく説明するので、履修する学生は初回の授業に必ず出席すること。
概要・スケジュール	第1回（鴫崎）： オリエンテーション 第2回（鴫崎）： リスニング演習（Photograph 13） & リーディング演習（その1） 第3回（鴫崎）： リスニング演習（Photograph 14） & リーディング演習（その2） 第4回（鴫崎）： リスニング演習（Photograph 15） & リーディング演習（その3） 第5回（鴫崎）： リスニング演習（Photograph 16） & リーディング演習（その4） 第6回（鴫崎）： リスニング演習（Photograph 17） & リーディング演習（その5） 第7回（鴫崎）： リスニング演習（Photograph 18） & 前半の復習（リーディング：その1～その5） 第8回（鴫崎）： 資格試験対策 第9回（鴫崎）： リスニング演習（Photograph 19） & リーディング演習（その6） 第10回（鴫崎）： リスニング演習（Photograph 20） & リーディング演習（その7） 第11回（鴫崎）： リスニング演習（Photograph 21） & リーディング演習（その8） 第12回（鴫崎）： リスニング演習（Photograph 22） & リーディング演習（その9） 第13回（鴫崎）： リスニング演習（Photograph 23） & リーディング演習（その10） 第14回（鴫崎）： リスニング演習（Photograph 24） & 後半の復習（リーディング：その6～その10） 第15回（鴫崎）： 全体のまとめ
授業期間を通して課される課題	

科目No.	311170S1	科目区分	選択
科目名	Reading English (b) N2	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	1. リスニング演習とリーディング演習で扱った英文の復習 (60分) 2. 授業で出会った単語・熟語・重要表現をまとめて、使用できるようにする (60分)		
テキスト・参考文献他	テキスト: 『What's the Picture Saying? リスニングと語彙のミニテスト』 (朝日出版社) リーディング演習に関してはプリントを配布する。		
授業形態	授業の最初に、ウォーミングアップとしてリスニング演習を行う。リーディング演習に関しては、授業ごとに配布するプリントを読み、語句の意味や構文、日本語訳などを確認していく。		
成績評価基準			
種別	評価割合 (%)	評価方法	
定期試験	60%	学期末に定期試験を実施する。	
レポート試験	0%	-	
平常点評価	40%	出席、授業中のタスクに対する積極性などで総合評価する。	
オフィスアワー	梶崎 敏彦: 英語学教室 (E棟1階) tokizaki@nvlu.ac.jp (×を@に変えて使用すること) Eメールにて面接を受付または予約 (月曜 12:00~12:40)		
その他	遅刻・早退3回で欠席1回とみなし、大幅な遅刻・早退 (30分を超えた場合) は欠席扱いとする。欠席が全授業日数の3分の1を超えた場合は単位を認めない。		

科目No.	311190S1	科目区分	選択
科目名	Oral English (a) N1	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	松藤 薫子		
授業のねらい	実社会で役立つ英語の基礎力の習得を目標とする。		
到達目標	1. 辞書を活用できる。2. 発音記号を学習し発音できる。3. 動物に関する英語を読んだり聞いたりして要点を捉えることができる。4. 動物、人、生活などに関する英語表現を学び、音読したり、ある話題について主張文と支持文を書いたり話したりすることができる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点	授業開始時に出欠をとる。授業の全回数の2/3以上の出席を必須とする。 必ず辞書を持参すること(授業中は、携帯電話の辞書機能は使用不可とする)。		
概要・スケジュール	第1回オリエンテーション 第2回発音 L. 1 Pet boom 第3回発音 L. 1 Pet boom 第4回発音 L. 2 Endangered Animals 第5回発音 L. 2 Endangered Animals 第6回文法 L. 3 Alien Species 第7回文法 L. 3 Alien Species 第8回文法 L. 4 Popular Breeds of Dogs 第9回音読ペア練習 L. 4 Popular Breeds of Dogs 第10回音読ペア練習 L. 5 The Whaling Debate 第11回音読録音と分析 L. 5 The Whaling Debate 第12回音読発表 L. 6 Pampered Pets 第13回音読発表 L. 6 Pampered Pets 第14回音読発表 L. 7 Artificial Pets 第15回音読発表 L. 7 Artificial Pets		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	311190S1	科目区分	選択
科目名	Oral English (a) N1	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	英語を学習する習慣を身につける。毎週、教科書・単語・多読本・自分の英語力と興味に合うものを2時間以上学習する。学習するための材料・方法はオリエンテーションで説明をする。		
テキスト・参考文献他	Jonathan LYNCH and Kotaro SHITORI. Animal Sense. SANSHUSHA. 黒川裕一 『音読MAX』 NAN' UN-DO.		
授業形態	教室内での演習を中心とする。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	50	学期末の定期試験
レポート試験	0	レポート試験はない。
平常点評価	50	授業外学習の取り組みや発表などを総合的に評価する。

オフィスアワー	英語教員室E棟1階 shigeko×nvl.u.ac.jp(×を@に変えて使用すること) 火曜12:00~12:30, 木曜11:30~12:30
その他	

科目No.	311190S1	科目区分	選択
科目名	O r a l E n g l i s h (a) N 2	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	中江 篤子		

授業のねらい	動物の生産や環境・動物保全を、地球レベルで考える手段のひとつとして、英会話の基礎を身につける。
到達目標	簡単な日常会話の基礎を学び、自分で使えるようにする。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	必ず辞書を持参して出席のこと。 三分の二以上の出席が必須。30分以上の遅刻は認められない。
概要・スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2&3回 Lesson 1 宿泊予約の取り方を学ぶ Lesson 2 写真を撮る Lesson3 レストランでの注文のしかた</p> <p>第4&5回 Lesson 4 健康・体調に関する会話 Lesson5 テレビを見ながらの会話 Lesson6 スポーツに関する会話</p> <p>第6&7回 Lesson7 確認する表現 Lesson8 タクシーに乗る時の表現 Lesson9 飛行機内での表現</p> <p>第8&9回 Lesson10 空港での出迎いの表現 Lesson11 感想を聞く表現 Lesson12 忠告する表現</p> <p>第10&11回 Lesson13 許可を求める表現 Lesson14 招待する表現 Lesson15 ホストファミリーとの会話</p> <p>第12&13回 Lesson16 プレゼントをする時の表現 Lesson17 ボランティアに誘う時の表現 Lesson18 コンピューターの操作に関する表現</p> <p>第14&15回 Lesson19 会議の会話 Lesson20 職場での表現 Lesson21 去り際の表現</p>
授業期間を通して課される課題	単元が終わるごとに、適宜課題を与える。 詳細は授業中に伝達する。

科目No.	311190S1	科目区分	選択
科目名	Oral English (a) N2	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習を行い、復習をする。授業内で指示した課題を行い、毎回提出する。 目安は、事前学習90分、事後学習90分とする。		
テキスト・参考文献他	『コミュニケーションのチェックブック』 金子光茂/リチャード・シンプソン 南雲堂 1200円+税		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	定期試験50%	学期末に行うペーパーテストで評価する。
レポート試験	小テストまたは課題30%	課題提出が必須。内容も無論評価対象となる。
平常点評価	授業内発表20%	事前学習の成果を評価する。

オフィスアワー	木曜日 1. 2限 以外はkyomu×nvl.u.ac.jp (×を@に変えて使用すること)、教務・学生課を通して調整する。
その他	

科目No.	311200S1	科目区分	選択
科目名	Oral English (b) N1	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	松藤 薫子		

授業のねらい	実社会で役立つ英語の基礎力の習得を目標とする。
到達目標	1. 動物に関する英語を読んだり聞いたりして要点を捉えることができる。2. 動物、人、生活などに関する英語表現を学び、その表現を使って短い文章を書いたり、話したりすることができる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	前期で学習した発音記号は、自分で学習し発音できるようにしておくこと 辞書を引く習慣をつけておくこと
履修上の留意点	授業開始時に出欠をとる。授業の全回数の2/3以上の出席を必須とする。 必ず辞書を持参すること(授業中は、携帯電話の辞書機能は使用不可とする)。
概要・スケジュール	第1回オリエンテーション 第2回音読発音L. 8 The Role of Zoos 第3回音読文法L. 8 The Role of Zoos 発表課題 第4回ペア音読練習L. 9 Animal Therapy 原稿提出 第5回音読発表L. 9 Animal Therapy 原稿返却 第6回音読発表L. 10 Animal Phobias発表練習 第7回音読発表L. 10 Animal Phobias発表 第8回音読発表L. 11 Sick Pets 発表 第9回音読録音と分析L. 11 Sick Pets 発表課題 第10回音読録音と分析L. 12 Animal Cartoon 原稿提出 第11回ペア音読L. 12 Animal Cartoon 原稿返却 第12回音読発表L. 13 Cloned Animals 発表練習 第13回音読発表L. 13 Cloned Animals 発表 第14回音読発表L. 14 Animal Heroes 発表 第15回音読発表L. 14 Animal Heroes
授業期間を通して課される課題	

科目No.	311200S1	科目区分	選択
科目名	Oral English (b) N1	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	英語を学習する習慣を身につける。毎週、教科書・単語・多読本・自分の英語力と興味に合うものを2時間以上学習する。学習するための材料・方法はオリエンテーションで説明をする。		
テキスト・参考文献他	Jonathan LYNCH and Kotaro SHITORI. Animal Sense. SANSHUSHA. 黒川裕一 『音読MAX』 NAN' UN-DO.		
授業形態	教室内での演習を中心とする。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	50	学期末の定期試験
レポート試験	0	レポート試験はない。
平常点評価	50	授業外学習の取り組みや発表などを総合的に評価する。

オフィスアワー	英語教員室E棟1階 shigeko×nvl.u.ac.jp(×を@に変えて使用すること) 火曜12:00~12:30, 木曜11:30~12:30
その他	

科目No.	311200S1	科目区分	選択
科目名	Oral English (b) N2	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	中江 篤子		
授業のねらい	動物の生産や環境・動物保全の関心を高めるような教材で、必要な英語力をたかめる。		
到達目標	動物と環境に注目した教材を通して、500語前後の動物に関する英語を読む力、ネイティブの話す英語を聞き取る力を身につける。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点	必ず辞書を持参して出席のこと。 三分の二以上の出席が必須。30分以上の遅刻は認められない。		
概要・スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Unit1 Real Winner Part1</p> <p>第3回 Unit2 Real Winner Part2</p> <p>第4回 Unit3 Zoo Dentists Part1</p> <p>第5回 Unit4 Zoo Dentists Part2</p> <p>第6回 Unit5 Solar Cooking Part1</p> <p>第7回 Unit6 Solar Cooking Part2</p> <p>第8回 Unit7 Bird Girl Part1</p> <p>第9回 Unit8 Bird Girl Part2</p> <p>第10回 Unit9 Beagle Patrol Part1</p> <p>第11回 Unit10 Beagle Patrol Part2</p> <p>第12回 Unit11 Polar Bears in Trouble Part1</p> <p>第13回 Unit12 Polar Bears in Trouble Part2</p> <p>第14回 Unit13 Aquarium on Wheels Part1</p> <p>第15回 Unit14 Aquarium on Wheels Part2</p>		
授業期間を通して課される課題	単元が終わるごとに、適宜課題を与える。 詳細は授業中に伝達する。		

科目No.	311200S1	科目区分	選択
科目名	Oral English (b) N2	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習を行い、復習をする。授業内で指示した課題を行い、毎回提出する。時間の目安は、個人差はあろうが、事前学習90分、事後学習90分とする。		
テキスト・参考文献他	"Snapshots from the Globe National Geographic Multi-media English Course" Gengage Learning, ,Miwako Yamashina, Mitsuru Yokoyama, Yasuko Okino, Kensuke Nanjo		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	定期試験50%	学期末におこなうペーパーテストで評価する。
レポート試験	小テストまたは課題30%	課題の提出が必須。内容も無論評価対象となる。
平常点評価	授業内発表20%	事前学習の成果を評価する。

オフィスアワー	木曜日 1. 2限 以外はkyomu×nvl.u.ac.jp (×を@に変えて使用すること)、教務・学生課を通して調整する。
その他	

科目No.	311210S1	科目区分	選択
科目名	国文学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	西連寺 成子		

授業のねらい	日本近代文学における代表的な作家の作品を読むことを通して、日本人としての教養を身につけ、社会や人間についての考察を深めることをねらいとする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 趣味で本を読む姿勢とは異なる、文学作品のきめ細かい読み方が身につく。 2 作品を読むことを通し、自己の考えを深めていく思考の訓練ができる。 3 作品内に書かれた時代の歴史や社会背景についての知識を持つことができる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	毎回の授業で扱う作品は、必ず事前に読み終わっていること。 授業には必ずテキスト（プリント）を持参すること。
概要・スケジュール	第1回 ガイダンス 第2回 宮沢賢治の短編童話 第3回 宮沢賢治の短編童話 第4回 宮沢賢治の短編童話 第5回 谷崎潤一郎『小さな王国』 第6回 谷崎潤一郎『小さな王国』 第7回 江戸川乱歩『押絵と旅する男』 第8回 江戸川乱歩『押絵と旅する男』 第9回 川端康成『掌の小説』 第10回 川端康成『掌の小説』 第11回 太宰治『お伽草紙』 第12回 太宰治『お伽草紙』 第13回 太宰治『お伽草紙』 第14回 太宰治『お伽草紙』 第15回 補足説明など
授業期間を通して課される課題	学期中に2回程度、授業で扱った作品についての小テスト（記述形式）を実施する。

科目No.	311210S1	科目区分	選択
科目名	国文学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習として、必ず次の時間で扱う作品を読み終えておくこと（90分程度）。 復習として、授業内容の理解のためにノート整理を行うこと（90分程度）。		
テキスト・参考文献他	テキストとしてプリントを事前に配布する。		
授業形態	教室内で講義を行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	50%	学期末に定期試験（記述形式）を実施する。
レポート試験	0%	なし
平常点評価	50%	小テストの総合点及び授業態度で評価する。

オフィスアワー	メールアドレス：kyomu×nvl.u.ac.jp（×を@に変えて使用すること） 実施方法：教務・学生課を通して調整する。
その他	

科目No.	311220S1	科目区分	選択
科目名	哲学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	高村 夏輝		

授業のねらい	西洋哲学の代表的な議論を理解すること
到達目標	哲学的問題とはどのようなものかを理解すること、および合理的思考を身につけること。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第1回 ガイダンス 第2・3回 知覚の問題（デカルト） 第4・5回 観念論とその批判（バークリ） 第6・7回 科学的知識の問題（ヒューム） 第8・9回 アプリオリな知識の問題（カント） 第10・11回 普遍について（プラトン） 第12・13回 真理と正当化 第14・15回 哲学の限界と価値
授業期間を通して課される課題	

科目No.	311220S1	科目区分	選択
科目名	哲学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	講義の前に、テキストの該当箇所を一読してください。時間的な目安としては、予習90分、復習90分です。		
テキスト・参考文献他	バートランド・ラッセル著、高村夏輝訳、『哲学入門』、ちくま学芸文庫、1000円		
授業形態	講義形式で行います。しかし、講義中いつでも質問していただいて構いません。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	50	定期試験を実施します。
レポート試験	0	レポートは課しません。
平常点評価	50	出席回数と講義に対する熱意で評価します。

オフィスアワー	kyomu×nvl.u.ac.jp（×を@に変えて使用すること）、実施方法：教務・学生課を通して調整します。
その他	

科目No.	311230S1	科目区分	選択
科目名	法学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	牧野 ゆき		
授業のねらい	獣医療や生命科学にかかわる諸分野で活躍する専門的職業人であると同時に、責任ある社会人として求められる社会的視野を将来にわたって維持し、発展させていくために必要な、基礎的知識を身につける。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法は社会の秩序を保つために重要な役割を果たすことを理解し、説明できる。 ・ 法は生活と深く関わっており、社会の動きに対応する存在であることを理解し、説明できる。 ・ 法を日常生活や獣医療における具体的問題と結びつけて理解し、実例をあげて説明できる。 		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点	「法」という、獣医保健看護学を専門とする学生にはなじみのない分野ではあるが、自分自身の問題として興味を持ち、積極的に取り組んで欲しい。		
概要・スケジュール	第 1 回 オリエンテーション（法の基礎知識） 第 2 回 民法（1）（不法行為：一般不法行為） 第 3 回 民法（2）（不法行為：特殊の不法行為） 第 4 回 民法（3）（製造物責任法） 第 5 回 民法（4）（契約：契約総論） 第 6 回 民法（5）（契約：契約各論（売買，消費貸借）） 第 7 回 民法（6）（契約：契約各論（賃貸借，委任，請負）） 第 8 回 消費者取引と法（1）（消費者契約法） 第 9 回 消費者取引と法（2）（特定商取引法） 第 10 回 家族生活と法（1）（婚姻） 第 11 回 家族生活と法（2）（夫婦） 第 12 回 家族生活と法（3）（離婚） 第 13 回 家族生活と法（4）（親子） 第 14 回 家族生活と法（5）（扶養） 第 15 回 家族生活と法（6）（相続）		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	311230S1	科目区分	選択
科目名	法学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習として、次回講義で取り上げる内容について、教科書の該当箇所を読んでおく（90分） 復習として、講義で取り上げた事例についてまとめ、類似の事例の有無を新聞等で確認する（90分）		
テキスト・参考文献他			
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	80%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	実施しない。
平常点評価	20%	出席状況や質問等、積極的な参加や問題意識の持ち方を考慮。

オフィスアワー	牧野ゆき：獣医保健看護学科臨床部門（E棟4階） y-makino@vnu.ac.jp （××を@にすること） 事前にメールで在室を確認のこと。
その他	

科目No.	311240S1	科目区分	選択
科目名	心理学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	柿沼 美紀, 野瀬 出		
授業のねらい	心理学は人間の心理や行動を科学的に解明することを目的としている。本授業では「脳」と「こころ」の関係を生物学的に理解することで人に対する認識を深める。		
到達目標	心理学的事象について科学的知見に基づき説明ができる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回 脳と心 (柿沼) 第2回 脳機能の研究手法 (野瀬) 第3回 視覚, 錯覚, 失認 (野瀬) 第4回 記憶, 忘却, 健忘 (野瀬) 第5回 感情, 動機づけ (野瀬) 第6回 言語の獲得, 失語, 分離脳 (野瀬) 第7回 学習, 条件づけ (野瀬) 第8回 睡眠段階, 睡眠障害, 生体リズム (野瀬) 第9回 ストレス (野瀬) 第10回 身近な精神障害 (柿沼) 第11回 PTSD (柿沼) 第12回 バイオフィリア (柿沼) 第13回 子どもの発達: 動物の役割 (柿沼) 第14回 家族とは何か (柿沼) 第15回 まとめ (野瀬)		
授業期間を通して課される課題	授業内で小レポートを課す。		

科目No.	311240S1	科目区分	選択
科目名	心理学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習として、授業内で指定された資料を読んでおく（60分）。 復習として、その日の授業内容を整理してまとめる（60分）。		
テキスト・参考文献他	ピネル バイオサイコロジー 脳ー心と行動の神経科学 西村書店 その他に、適宜プリントを配布する。		
授業形態	講義を中心とする。視聴覚教材も使用する。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	70	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	20	授業内で小レポートを課す。
平常点評価	10	出席状況、質疑応答など積極的な授業参加を評価する。

オフィスアワー	月曜日12:00-13:00、D棟4階 比較発達心理学研究室 Eメールで予約をすること。送信の際はメールアドレスの◎を@にする。 柿沼美紀 (kakinuma-miki@nvl.u.ac.jp)、野瀬出 (inose@nvl.u.ac.jp)
その他	

科目No.	311250S1	科目区分	選択
科目名	経済学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	佐々木 輝雄		

授業のねらい	諸君の人生は経済社会の中で築き上げられていきます。それなら「経済学」を理解し、活用していった方が賢明であります。 経済学は社会の中で、諸君が主体的に堅実に人生を築いていけるよう支援することを目標としている。
到達目標	1. 経済社会の実際を理解することができる。 2. 経済分野を貫く基本原理を理解することができる。 3. 人生の設計、地域の振興、国家のあり方、他国との関係の在り方など具体的なテーマに応えられるようになる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	講義スケジュール表を見て、関連するニュースや記事に目を向けていこう。
履修上の留意点	講義の進行に合わせて、関連する情報を読んで認識を深めよう。
概要・スケジュール	第1回 佐々木輝雄 動物への対応から経済社会の発展度を考える 第2回 佐々木輝雄 流通の発展と生活の変化 第3回 佐々木輝雄 経済水準の決定論理と景気変動 第4回 佐々木輝雄 生活の安全性を維持する法と制度 第5回 佐々木輝雄 食生活の乱れと食育基本法の意義 第6回 佐々木輝雄 企業行動の行動と不祥事発生理由 第7回 佐々木輝雄 食料自給率の意味と世界の食料事情 第8回 佐々木輝雄 農業および漁業の現状とあり方 第9回 佐々木輝雄 少子化の実際とその背景および対策 第10回 佐々木輝雄 高齢化の実際とその背景および政策 第11回 佐々木輝雄 地産地消の進展と地方経済の活性化 第12回 佐々木輝雄 戦後の経済成長・発展と豊かさの意味 第13回 佐々木輝雄 貿易の効果と為替レートの変化の影響 第14回 佐々木輝雄 環境問題の実態と対応 第15回 佐々木輝雄 財政の現状と税金
授業期間を通して課される課題	レポートによって疑問点や調べたことを確認していきます。

科目No.	311250S1	科目区分	選択
科目名	経済学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	1. テキストや配付資料の内容を理解する。(40分) 2. テキストや配付資料の内容をまとめてみて認識を深める。(40分)		
テキスト・参考文献他	テキスト：佐々木輝雄著『「食」から見直す日本』（創森社） 必要に応じて参考資料も配付する。		
授業形態	講義及び映像による実態の確認。質問や意見交換の時間も設ける。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	60%	期末に定期試験を行う。
レポート試験	20%	講義の終了時に課題を案内する。
平常点評価	20%	出席状況を参考にする。

オフィスアワー	講義の後に予約し、随時対応していきます。
その他	

科目No.	311260S1	科目区分	選択
科目名	数学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	大坂 元久		
授業のねらい	統計学では、統計学の中でも使用頻度の高いものについて概説する。手法の理論をイメージとして理解し、実際に使えるようになることを目的とする。毎回、例にそって説明し、その場で理解できることを目指す。そして、実際の計算方法になれることを目指す。		
到達目標	基本的な事項を理解し、将来独学ができる下地を作ること。論文で頻用される統計学的手法を理解し、実際に応用できることを目標とする。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	板書をきちんとノートにとれば、理解できるはずである。		
履修上の留意点	ルートの計算できる簡単な電卓を必ず用意すること。「統計・確率の意味がわかる」野崎昭弘ほか著ベレ出版を可能なら読むことを薦める。		
概要・スケジュール	第1回 統計学の必要性について 第2回 実際に収集したデータのプレゼンの仕方 第3回 分布を特徴づける量について 第4回 2項分布について(1) 第5回 確認テスト 第6回 2項分布について(2) 第7回 正規分布について 第8回 比率の推定(1) 第9回 比率の推定(2) 第10回 確認テスト 第11回 1標本にもとづく母集団平均値の推定(1) 第12回 1標本にもとづく母集団平均値の推定(2) 第13回 独立性の検定 第14回 分散分析 第15回 確認テスト		
授業期間を通して課される課題	3回の確認テストを必ず受けること。		

科目No.	311260S1	科目区分	選択
科目名	数学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	前回のノートを復習すること（30分）		
テキスト・参考文献他	困ったときに開いてください。いま買う必要はありません。生物統計学入門—ハーバード大学講義テキスト 丸善		
授業形態	板書で講義を行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	0	定期試験はない。
レポート試験	0	レポートなどはない。
平常点評価	100	3回の確認テストで判定する。

オフィスアワー	C棟3階数学・生物統計学分野教室にて。面接は osaka×nvl.u.ac.jp（×を@に変えて使用すること）で予約してからのみ受け付ける。面接時間は火曜日15：00から1600。
その他	統計学は本で自学自習するとなかなかやっかいである。講義は一期一会であり私にとって舞台でもある。教えるとは「希望を語ること」という理念のもとたのしく学びましょう。

科目No.	311280S1	科目区分	選択
科目名	生物学I	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	土田 修一		

授業のねらい	生物学は生物および生命現象を研究する科学分野であり、その対象は広い。生物は多様である一方で、共通のしくみを持っている。本科目では生物の構造と機能を学び、生物の多様性と共通性を理解することを目的とする。
到達目標	生物の基本となる細胞の構造、構成物質について理解し説明できる。 生物の機能単位である器官の成り立ちについて学び、個体として秩序ある活動を理解し説明できる。 遺伝法則を理解し説明できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	高校の生物学の基礎知識を理解していることが望まれる。
履修上の留意点	主体的な授業参加が望まれる。
概要・スケジュール	第1回 土田 生物学の歴史と生物の特性 第2回 土田 モデル生物 第3回 土田 細胞の基本構造Ⅰ 第4回 土田 細胞の基本構造Ⅱ 第5回 土田 細胞の構成物質Ⅰ 第6回 土田 細胞の構成物質Ⅱ 第7回 土田 生物の形態と機能 - 生体の構成 第8回 土田 生物の形態と機能 - 消化とガス交換 第9回 土田 生物の形態と機能 - 体内輸送 第10回 土田 生物の形態と機能 - 浸透圧調節と尿排出 第11回 土田 体内環境の恒常性 第12回 土田 生体防御 第13回 土田 メンデルの遺伝法則 第14回 土田 遺伝的多型 第15回 土田 まとめ
授業期間を通して課される課題	講義期間中にレポートを課す。

科目No.	311280S1	科目区分	選択
科目名	生物学I	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	<p>次回の講義内容に関する事前配布資料を読むこと（30分）。 復習として、毎回の講義資料を再読する（60分）。</p>		
テキスト・参考文献他	<p>授業ごとにプリントを配布する。</p>		
授業形態	<p>教室内での講義</p>		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	70%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	20%	学期途中でレポートを課す
平常点評価	10%	出席状況を評価する。

オフィスアワー	<p>土田 修一：比較細胞生物学（D棟2階） tsuchida@nvl.u.ac.jp （12：00～13：00）</p>
その他	

科目No.	311300S1	科目区分	選択
科目名	物理学I	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	八木 昌平		

授業のねらい	科学を理解するためには数学，物理学の理解は必ず必要である。 物理学では，数学と物理学の基礎を理解することを目的とする。 特に物理学の基礎である力学を対象とし，数学の使い方と，物理学の概念の理解を目指す。
到達目標	1. 数学，物理学の基礎（力学）を理解する。 2. 自然や社会の物と現象の理解と予測能力の向上ができる。 3. 抽象的思考能力の向上ができる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	小中高の常識的な算数，数学の理解の確認をしてから履修に臨むこと。 高校数学が修得済みであること。
履修上の留意点	予習復習を必要とする。解らないときは逐次質問すること。
概要・スケジュール	第1回 算数，数学の確認 第2回 基礎数学 1 第3回 基礎数学 2 第4回 単位 第5回 力のつり合い 第6回 運動の表し方 第7回 運動の法則 第8回 仕事 第9回 エネルギー 第10回 エネルギー 第11回 運動量 第12回 いろいろな運動 1 第13回 いろいろな運動 2 第14回 いろいろな運動 3 第15回 大きさのある物体
授業期間を通して課される課題	ほぼ毎回につき課題を課すので，次回までに解いておくこと。

科目No.	311300S1	科目区分	選択
科目名	物理学I	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習として、次回の講義に関して理解に努めること。(60分) 復習として、講義に関し理解を深めること。(20分)		
テキスト・参考文献他	大学新入生のための物理入門 第2版, 廣岡 秀明, 共立出版 大学生のための基礎シリーズ 数学入門, 物理学入門, 東京化学同人 オトナのための算数・数学やりなおしドリル, 桜井 進, 宝島社		
授業形態	教室内での講義.		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	80	学期末に定期試験を実施する.
レポート試験	20	小テスト
平常点評価	0	なし

オフィスアワー	八木昌平 : 物理学教室 (D棟3階) shou*nvlu.ac.jp (@に*を変更する.) メールにて事前に予約すること (水曜日12:30~13:30).
その他	

科目No.	311320S1	科目区分	選択
科目名	化学I	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	片山 欣哉		
授業のねらい	生物の生命維持活動や生物間の相互作用、そして生物が生み出す種々な生理活性物質等について深く理解するために、化学の視点で分子レベルから学ぶことは極めて重要である。そのために必要となる化学の基礎を本科目では幅広く学習する。		
到達目標	基礎的な化学の知識を身につけ、より専門的な科目の理解を助ける。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	特になし。		
履修上の留意点	教職課程においては必修科目である。 食品衛生専門職養成コース（食品衛生監視員および食品衛生管理者）においては必修科目である。		
概要・スケジュール	第1回 オリエンテーション・序論・単位と計測 第2回 物質の構成要素 第3回 化学結合 第4回 化学量論 第5回 物質の状態変化と粒子の運動 第6回 気体 第7回 溶液 第8回 コロイド 第9回 化学反応と熱 第10回 酸と塩基の反応 第11回 酸化還元反応 第12回 化学反応の速さと化学平衡 第13回 単体と無機化合物 第14回 有機化合物 第15回 高分子化合物		
授業期間を通して課される課題	毎回小テストを行う。		

科目No.	311320S1	科目区分	選択
科目名	化学I	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習：教科書を読み、例題を解く。(30分) 復習：小テストの復習と講義ノートの整理。(30~60分)		
テキスト・参考文献他	大学生のための 例題で学ぶ 化学入門 共立出版		
授業形態	講義を中心とする。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	期末試験 100 (~60) %	総合評価は基本的に期末試験の結果による。
レポート試験	0 (%)	なし。
平常点評価	小テスト 0 (~30) % 出席点 0 (~10) %	小テストと出席点を加味する場合がある。

オフィスアワー	片山欣哉 獣医学総合教育部門・獣医学総合教育分野 生体分子化学教室 (D棟5階) 開講期間の毎週月曜日 9:00~10:00 または 木曜日 16:00~17:00
その他	

科目No.	311330S1	科目区分	選択
科目名	健康科学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	武藤 三千代		

授業のねらい	現代社会を豊かに生き抜くためには、心身の健康や体力の維持・増進が求められる。生涯を通し健康で生活することを目標に、健康および体力を科学的に捉え、正しい生活習慣や運動方法を理解し、健康と体力を維持増進する手法を学ぶ。			
到達目標	1. 健康・体力の定義を理解し、発育発達に伴う体力要素の変化や体力測定方法、体力トレーニング方法について理解する。 2. 運動が生体に及ぼす様々な影響や運動時のエネルギー代謝について理解する。			
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能				
履修上の留意点				
概要・スケジュール	第1回 武藤三千代 第2回 武藤三千代 第3回 武藤三千代 第4回 武藤三千代 ADL) 第5回 武藤三千代 第6回 武藤三千代 トレーニングの実 第7回 武藤三千代 第8回 武藤三千代 第9回 武藤三千代 定方法等) 第10回 武藤三千代 組成に 第11回 武藤三千代 第12回 武藤三千代 第13回 武藤三千代 第14回 武藤三千代 後のグリ コーゲンの高め方等) 第15回 武藤三千代 等)	健康の定義 (平均寿命延伸の要因、健康寿命) 体格、身体組成 (体格の測定方法、体格指数、身体組成、肥満) 体力の定義 (体力の構成要素、発育発達に伴う体力要素の変化) 体力測定方法 (各体力要素の測定方法、文科省新体力テスト、評価方法、ADL) 体力トレーニングの原則 (体力トレーニングの目的、原則) 一般人の体力トレーニング (健康・体力の維持増進を目的としたトレーニングの際、ATを指標とする設定方法、RPEによる設定方法等) 筋力トレーニング (筋力発揮の運動様式、ウエイトトレーニング等) その他のトレーニング (サーキットトレーニング、SAQトレーニング等) トレーニングプログラムの作成 (プログラミングのための要素、負荷の設定方法等) 運動と肥満 (肥満の予防・解消、エネルギー消費量、基礎代謝、減量時の体及ぼす運動の影響、リバウンド、有酸素運動) 運動と酸素摂取量 (呼吸運動、肺機能、酸素負債量、酸素需要量等) 運動と心拍数 (運動時の心拍応答、心拍数を基にした運動強度の評価法等) 運動時のエネルギー代謝 (1) (エネルギー産生機構、エネルギー基質等) 運動時のエネルギー代謝 (2) (筋グリコーゲンと運動持久力の関係、運動 コーゲンの回復、エネルギーレベルと運動能力、筋グリ コーゲンの高め方等) 運動と栄養 (鉄の分布と代謝、運動性貧血、食事・栄養面からの貧血対策等)		
授業期間を通して課される課題				

科目No.	311330S1	科目区分	選択
科目名	健康科学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	理解を深めるために次回の講義のテーマに関する資料等を調べる（20分） 毎回の授業内容をまとめておく（60分）		
テキスト・参考文献他	毎回プリントを配布する		
授業形態	教室内での講義、グループワーク等		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	70%	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	0%	なし
平常点評価	30%	出席、授業中の質疑応答等積極的な参加を評価する

オフィスアワー	日本医科大学 スポーツ科学研究室 B（E棟3階） mutom@nms.ac.jp 木・金 17:00～
その他	

科目No.	311340S1	科目区分	選択
科目名	スポーツ野外活動（ウォーキング）	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	濱部 浩一, 野村 誠, 武藤 三千代		
授業のねらい	ウォーキングを通して歩くことの楽しさと、気軽に運動ができることを理解し、健康への意識を高めることを目的とする。腹式呼吸を実践しながらウォーキングを行い、体脂肪を燃焼させることを目標とする。参加者同士がコミュニケーションを養うことを目標とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ウォーキングの運動量について理解する 2. ウォーキングを通じてコミュニケーション能力を養う。 3. ウォーキングをしながら腹式呼吸を実践する方法を習得する。 		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	特になし、全くの初心者でも参加することができる。		
履修上の留意点	配付された資料を携帯すること。 授業中は意欲的に質問し、研究的な態度で授業に参加すること。		
概要・スケジュール	第1回 濱部 オリエンテーション、ウォーキングの手引きと腹式呼吸 第2回 濱部 高尾山 高尾山口～高尾山頂 第3回 濱部 高尾山 1号路 コミュニケーショントレーニング 第4回 濱部 高尾山 高尾山頂～城山 第5回 濱部 高尾山 城山～高尾山口 第6回 濱部 都内 千駄ヶ谷～外苑 コミュニケーショントレーニング 第7回 濱部 都内 日比谷公園～皇居 第8回 濱部 都内 武道館～靖国神社 第9回 濱部 都内 千駄ヶ谷～東京タワー コミュニケーショントレーニング 第10回 濱部 都内 増上寺～竹芝栈橋 第11回 濱部 都内 レインボーブリッジ～お台場 第12回 濱部 高尾山 高尾山口～高尾山山頂 第13回 濱部 高尾山 稲荷山ルートコミュニケーショントレーニング 第14回 濱部 高尾山 高尾山山頂～城山 第15回 濱部 高尾山 城山～高尾山口		
授業期間を通して課される課題	ウォーキングのマナー、コミュニケーション能力のチェック、腹式呼吸達成度について申告する。		

科目No.	311340S1	科目区分	選択
科目名	スポーツ野外活動（ウォーキング）	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるために事前配布テキストおよび資料を事前に読むこと（2時間）		
テキスト・参考文献他	テキスト：専用の手引きを配布する。		
授業形態	学外集中授業 教室内での説明会、講義、在宅学習での事前勉強、小グループ実習		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	0	定期試験は実施しない
レポート試験	20	実習後レポートを課す
平常点評価	80	出席、質疑応答など積極的な参加を総合的に評価する

オフィスアワー	濱部（担当教員） 運動科学教室（E棟5階） hamabeXnvl.u.ac.jp（Xを@に変えて使用すること） Eメールにて受付又は面接を予約（水曜13時から17時）
その他	

科目No.	311340S1	科目区分	選択
科目名	スポーツ野外活動（スキー）	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	濱部 浩一, 野村 誠, 武藤 三千代		
授業のねらい	スキーの基礎技術を学び、スピードコントロールと自由自在なスキー操作の為の理論と技能を修得することを目的とする。スキーを通じて自然の厳しさを学び、フォームの向上、自由自在に滑り降りる爽快感を経験することを目標とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. スキーの基本操作について理解する 2. スキーについて説明できる。 3. 自分の技量にあった斜度、雪質での滑走を経験する。自在にスキー操作をする方法を習得する。 		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	特になし、全くの初心者でも参加することができる。		
履修上の留意点	配付された資料を携帯すること。 授業中は意欲的に質問し、研究的な態度で授業に参加すること。		
概要・スケジュール	第1回 濱部 オリエンテーション、スキー基礎技術 第2回 濱部 スキー場 スキーの制動 基本姿勢 第3回 濱部 スキー場 斜滑降の技能 第4回 濱部 スキー場 外向の技能 第5回 濱部 スキー場 外傾の技能 第6回 濱部 スキー場 外向外傾の技能 第7回 濱部 スキー場 上下動の技能 第8回 濱部 スキー場 抜重の技能 第9回 濱部 スキー場 傾斜に併せたスピードコントロール 第10回 濱部 スキー場 エッジ操作 第11回 濱部 スキー場 スtockワーク 第12回 濱部 スキー場 ターンの前半と後半 第13回 濱部 スキー場 大回り和小回り 第14回 濱部 スキー場 雪質の理解と滑走 第15回 濱部 スキー場 総合滑走 ビデオ撮影		
授業期間を通して課される課題	スキーの安全管理、マナー、技術理論に関して小テストを実施する。技術修得度について実技テストを実施する。		

科目No.	311340S1	科目区分	選択
科目名	スポーツ野外活動（スキー）	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるために事前配布テキストおよび資料を事前に読むこと（2時間）		
テキスト・参考文献他	テキスト：専用テキストを配布する。		
授業形態	学外集中授業、教室内での説明会、講義、在宅学習での事前勉強、スキー場での少人数制での実習		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	0	定期試験は実施しない
レポート試験	20	実習後レポートを課す
平常点評価	80	出席、質疑応答など積極的な参加を総合的に評価する

オフィスアワー	濱部（担当教員） 運動科学教室（E棟5階） hamabe@nvl.u.ac.jp Eメールにて受付又は面接を予約（水曜16時から17時）
その他	

科目No.	311340S1	科目区分	選択
科目名	スポーツ野外活動（ダイビング）	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	濱部 浩一, 野村 誠, 武藤 三千代		
授業のねらい	ダイビング実習では、スクーバーユニットを利用して潜水方法および水中での技能に関する初歩からの理論と技能を修得することを目的とする。潜水に関する安全管理や器材に関する操作方法などを学び安全にダイビングをする方法について理解することを目標とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. スクーバーユニットの操作方法について理解する 2. 水中でのダイビングについて説明できる。 3. ライセンスカードを取得する。オープンウォーターもしくはアドバンスオープンウォーターの資格。 		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	特になし、全くの初心者でも履修することができる。		
履修上の留意点	パディダイビングライセンス取得コースに関するテキスト一式を携帯すること。授業中は意欲的に質問し、研究的な態度で授業に参加すること。		
概要・スケジュール	第1回 濱部 オリエンテーション ダイビングの概要 第2回 濱部 フリーフィンク、陸上でのユニット装着 第3回 濱部 スノーケル呼吸、レギュレーター呼吸、リカバリー／クリア、BCの給気／排気 第4回 濱部 マスククリア、マスク脱着 第5回 濱部 スノーケルレギュ交換、オクトパスブリージング、ロープ潜降 第6回 濱部 レギュリカバー／クリア、マスククリア、マスク脱着 第7回 濱部 中性浮力、スノーケリング、ユニットの解除と洗浄、ロギング 第8回 濱部 終日ポートダイビング、ユニットの組み立て点検、機材の装着 第9回 濱部 エントリー、ロープ潜行、レギュリカバー／クリアマスククリア 第10回 濱部 水中ツアー、ロープ浮上と安全停止、ディブリーフィンク 第11回 濱部 機材の装着、エントリー、ロープ潜降、中性浮力 第12回 濱部 オクトパスブリージング、水中ツアー、マスク脱着 第13回 濱部 ロープを目印とした浮上、安全停止、ユニットの解除 第14回 濱部 終日ポートダイビング、コンパスナビゲーション 第15回 濱部 ホバリング、エキジット、学科筆記試験		
授業期間を通して課される課題	テキストの練習問題を在宅学習にて解く。授業終了後にレポートを課す。		

科目No.	311340S1	科目区分	選択
科目名	スポーツ野外活動（ダイビング）	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるために事前配布テキストおよび資料を事前に読むこと（15時間） 実習中は毎回ロギングにおいて復習する（60分×3日間）		
テキスト・参考文献他	テキスト：パディダイビングライセンス取得コース専用テキストを配布する。		
授業形態	学外集中授業 教室内での説明会、講義、在宅学習での事前勉強、実習先での少人数制での海洋実習、ロギングにおける講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	20	実技習熟度、学科試験
レポート試験	20	実習後レポートを課す
平常点評価	60	出席、質疑応答など積極的な参加を総合的に評価する

オフィスアワー	濱部（担当教員） 運動科学教室（E棟5階） hamabe@nvlu.ac.jp Eメールにて受付又は面接を予約（水曜16時から17時）
その他	

科目No.	311340S1	科目区分	選択
科目名	スポーツ野外活動（ゴルフ）	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	濱部 浩一, 野村 誠, 武藤 三千代		
授業のねらい	ゴルフのルール、マナー、基礎技術を学び、打ちっ放し練習場でのフルスイング、アプローチ、パターを練習してゴルフを総合的に理解することを目的とする。コースへ出てルールとマナーを実践しながらコースでラウンド経験することを目標とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ゴルフのルールとマナーについて理解する 2. ゴルフについて説明できる。 3. コースラウンドを経験する。決められた時間内にラウンドする方法を習得する。 		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	特になし、全くの初心者でも参加することができる。		
履修上の留意点	配付された資料を携帯すること。 授業中は意欲的に質問し、研究的な態度で授業に参加すること。		
概要・スケジュール	第1回 濱部 オリエンテーション、ゴルフの概要 第2回 濱部 ゴルフ練習場 グリップ クラブの知識 第3回 濱部 ゴルフ練習場 セットアップ スイング マナー 第4回 濱部 ゴルフ練習場 ショートスイング フルスイング 第5回 濱部 ゴルフ練習場 ミドルスイング フルスイング 第6回 濱部 ゴルフコース ルール、アプローチ フルスイング 第7回 濱部 ゴルフコース フルスイング、バンカーショット 第8回 濱部 ゴルフコース 傾斜のショット ドライバー 第9回 濱部 ゴルフコース ラフからのショット ラウンド 第10回 濱部 ゴルフコース パッティング ラウンド 第11回 濱部 ゴルフコース ピッチショット ラウンド 第12回 濱部 ゴルフコース ユーティリティ ラウンド 第13回 濱部 ゴルフコース フェアウェーウッド ラウンド 第14回 濱部 ゴルフコース コースマネージメント ラウンド 第15回 濱部 ゴルフコース スコア ルールとマナーの実践		
授業期間を通して課される課題	ゴルフのルール、マナー、技術理論に関して小テストを実施する。技術修得度について実技テストを実施する。		

科目No.	311340S1	科目区分	選択
科目名	スポーツ野外活動（ゴルフ）	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるために事前配布テキストおよび資料を事前に読むこと（2時間）		
テキスト・参考文献他	テキスト：専用テキストを配布する。		
授業形態	学外集中授業 教室内での説明会、講義、在宅学習での事前勉強、実習先での少人数制での練習場実習、コースでのラウンド実習		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	0	定期試験は実施しない
レポート試験	20	実習後レポートを課す
平常点評価	80	出席、質疑応答など積極的な参加を総合的に評価する

オフィスアワー	濱部（担当教員） 運動科学教室（E棟5階） hamabe@nvlu.ac.jp Eメールにて受付又は面接を予約（水曜16時から17時）
その他	

科目No.	311340S1	科目区分	選択
科目名	スポーツ野外活動（濱部）	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	濱部 浩一		

授業のねらい	運動課題に意欲的に取り組み、自らの課題を解決する態度や能力を身につける。また人や物との関わりの中で、協調性を高め、リーダーシップがとれるようにすることを目的とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯に渡って運動に親しみ、運動の効果を日常生活に生かすことができる。 ・豊かな心、健やかな体づくりを通して、たくましく生きていく力を身につけることができる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯に渡って運動に親しみ、運動の効果を日常生活に生かすことができる。 ・豊かな心、健やかな体づくりを通して、たくましく生きていく力を身につけることができる。
履修上の留意点	運動ができる服装、体育館シューズ（内履き）で参加すること。裸足での参加は原則不可。また飲み物、タオルなども熱中症予防のために用意できると望ましい。
概要・スケジュール	第1回 オリエンテーション 体育の授業の受け方、進め方、学外実習の種目説明 第2回 卓球 基礎練習（グリップ、ボール慣れ、ミニラリー） 第3回 卓球 応用練習（サービス、スマッシュ、フットワーク、コース打ち分け） 第4回 卓球 ダブルスゲーム（ダブルスのルール、審判法を学びながら試合を行う） 第5回 卓球 ダブルスゲーム（トーナメント方式で行う） 第6回 バレーボール 基礎練習（パス、サービス&レシーブ、ミニゲームからトス、スパイクにつなげる） 第7回 バレーボール 試合形式（ルール、審判法を学びながら試合を行う） 第8回 バレーボール 試合形式（トーナメント方式で行う） 第9回 卓球 基礎練習（グリップ、ボール慣れ、ミニラリー） 第10回 卓球 応用練習（サービス、スマッシュ、フットワーク、コース打ち分け） 第11回 卓球 ダブルスゲーム（ダブルスのルール、審判法を学びながら試合を行う） 第12回 卓球 ダブルスゲーム（トーナメント方式で行う） 第13回 バレーボール 基礎練習（パス、サービス&レシーブ、ミニゲームからトス、スパイクにつなげる） 第14回 バレーボール 試合形式（ルール、審判法を学びながら試合を行う） 第15回 バレーボール 試合形式（トーナメント方式で行う）
授業期間を通して課される課題	それぞれの種目において技能テストを行う。

科目No.	311340S1	科目区分	選択
科目名	スポーツ野外活動（濱部）	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	普段から足腰を中心に体力を養うためのトレーニングや、怪我防止のためのストレッチなどを1日30分程度することが望ましい。		
テキスト・参考文献他	テキストは特に使用しないが、必要に応じてプリントを配布する場合がある。		
授業形態	アリーナ及びトレーニングルーム		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	0	定期試験は実施しない
レポート試験	40	個人技能テスト、成績発表（チームの成績）など
平常点評価	60	席、参加態度、意欲など

オフィスアワー	<p>オフィスアワー 濱部（担当教員） 運動科学教室（E棟5階） hamabe@nvlu.ac.jp Eメールにて受付又は面接を予約（水曜16時から17時）</p>
その他	

科目No.	311340S1	科目区分	選択
科目名	スポーツ野外活動（野村（誠））	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	野村 誠		

授業のねらい	アリーナで行えるスポーツ（バスケットボールを中心に）を通して、基礎体力の向上、ストレス解消、コミュニケーション力を学ぶ。 また、生涯スポーツとしてのスキルを学ぶ。		
到達目標	身近な生涯スポーツとしてのバスケットボール、バレーボール、卓球のルールを含めた基礎知識、スキルを学ぶ事ができる。 また、学んだ知識、スキルを教える事ができる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	普段から健康管理に気を配り、睡眠時間や疲労をためないように心掛け、体調を万全にして授業に臨むこと。		
履修上の留意点	運動ができる服装、体育館シューズ（内履き）で参加すること。裸足での参加は原則不可。また飲み物、タオルなども熱中症予防のために用意できると望ましい。		
概要・スケジュール	1回	授業に関するオリエンテーション	
	2回	バスケットボール 基礎練習	（ドリブル、シュート、ルール説明）
	3回	バスケットボール 基礎練習	（ドリブル、パス、キャッチ、シュート）
	4回	バスケットボール 応用練習	（オフェンススキルとディフェンススキル）
	5回	バスケットボール 試合形式	（ルールを学びながら試合をする）
	6回	バスケットボール 試合形式	（審判法を学びながら試合をする）
	7回	バスケットボール 試合形式	（チームごとに作戦を立て、コミュニケーションをとる）
	8回	バスケットボール 試合形式	（トーナメント方式で行う）
	9回	バレーボール 基礎練習	（パス、サーブ、レシーブ）
	10回	バレーボール 応用練習	（サーブ、レシーブ、トス、スパイク）
	11回	バレーボール 試合形式	（ルール、審判法を学びながら試合をする）
	12回	バレーボール 試合形式	（トーナメント方式で行う）
	13回	卓球 基礎練習	（グリップ、サービス、スマッシュ、フットワーク）
	14回	卓球 試合形式	（ダブルスで、ルール、審判法を学びながら試合をする）
	15回	卓球 試合形式	（シングルで、トーナメント方式で行う）
授業期間を通して課される課題	それぞれの種目において技能テストを行う。		

科目No.	311340S1	科目区分	選択
科目名	スポーツ野外活動（野村(誠)）	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	普段から足腰を中心に体力を養うためのトレーニングや、怪我防止のためのストレッチなどを1日30分程度することが望ましい。		
テキスト・参考文献他	テキストは特に使用しないが、必要に応じてプリントを配布する場合がある。		
授業形態	アリーナでの活動		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	0%	定期試験は実施しない
レポート試験	40	個人技能テスト、成績発表（チームの成績）など
平常点評価	60	出席、運動能力、積極的な参加や協力を総合的に評価する

オフィスアワー	メールアドレス：kyomu×nvl.u.ac.jp（×を@に変えて使用すること）、実施方法：教務・学生課を通して調整する
その他	

科目No.	311340S1	科目区分	選択
科目名	スポーツ野外活動（フィットネス）	単位数	1.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	武藤 三千代		

授業のねらい	「フィットネス」では、健康・体力の維持増進を目的に運動を行い、理想的な身体づくりを目指す。さまざまな運動を通して運動の楽しさを体得し、コミュニケーション能力や協調性を養い、生涯スポーツへの動機づけとする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 健康・体力の維持増進に対する運動の有効性を理解する 自己の学習到達目標を定め、最終的な到達度を自己評価できる 		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点	運動に適した服装、体育館用シューズを必ず用意すること		
概要・スケジュール	第1回 武藤三千代 第2回 武藤三千代 第3回 武藤三千代 第4回 武藤三千代 第5回 武藤三千代 第6回 武藤三千代 第7回 武藤三千代 第8回 武藤三千代 第9回 武藤三千代 第10回 武藤三千代 第11回 武藤三千代 第12回 武藤三千代 第13回 武藤三千代 第14回 武藤三千代 第15回 武藤三千代	授業に関するオリエンテーション 身体組成・健康・体力測定、各自の到達目標設定 エアロビクスダンス&ストレッチ・リラクゼーション エアロビクスダンス&ストレッチ・リラクゼーション 卓球 卓球 体操&筋力トレーニング エアロビクスダンス&ストレッチ・リラクゼーション エアロビクスダンス&ストレッチ・リラクゼーション エアロビクスダンス&ストレッチ・リラクゼーション 卓球 卓球 体操&筋力トレーニング エアロビクスダンス&ストレッチ・リラクゼーション 身体組成・健康・体力測定、到達度の自己評価	
授業期間を通して課される課題			

科目No.	311340S1	科目区分	選択
科目名	スポーツ野外活動（フィットネス）	単位数	1.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	特になし 0分		
テキスト・参考文献他	資料等は授業中に適宜配布する		
授業形態	E棟地下体育施設において実習する		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	なし
レポート試験	0%	なし
平常点評価	100%	出席、授業態度を中心に評価する

オフィスアワー	日本医科大学 スポーツ科学教室（E棟3階） mutom@nms.ac.jp 木・金 17:00～
その他	

科目No.	311350S1	科目区分	選択
科目名	生物命名法	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	箕輪 多津男		
授業のねらい	本講義では、生物の様々な名前（学名、和名、英名等）に関する成り立ちや意味、あるいは命名する際の視点や手法、そして一定のルール（国際命名規約等）について解説し、それぞれの種について、多少なりとも認識と理解を深めてもらうことを目標にする。		
到達目標	1. 生物命名に関する考察を深めつつ、歴史的背景や具体的手法と共に、その意義を深く認識できるようにする。 2. 「学名」について、それぞれの「国際命名規約」の内容と共に、一定水準の理解を得るようにする。 3. 様々な生物種について、広く興味と関心を持てるようにする。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	生物学関連の科目や、文学関連の科目等を並行して学んでもらうことが望ましい。また、予備知識は必要としないものの、様々な生物種について取り上げていくので、それぞれの生態等について、ある程度事前に学んでおくとう受講しやすいものと考えられる。		
履修上の留意点	生物種の特徴や生態について、広く興味を持って参加してもらいたい。同時に生物の分類に関して、常に意識するよう心掛けて欲しい。何より、積極的な参加態度を求める。		
概要・スケジュール	<p>第1回 生物について考える : 「生物」の特徴を捉え直すと同時に、その現在と未来について考察する。</p> <p>第2回 名前とは何か : 人が言葉を使うことや対象に名前を付けることの意味を考える。</p> <p>第3回 生物の和名について : 生物の和名（標準和名等）の現状と問題点、外国語名との関係について学ぶ。</p> <p>第4回 博物学から分類学へ : 博物学から分類学への変遷を辿り、リンネや様々な学者の功績について学ぶ。</p> <p>第5回 学名について（1） : 「学名」の根拠となるそれぞれの「国際命名規約」について学ぶ。</p> <p>第6回 学名について（2） : 生物分類に対応する形で、国際規約上の規制範囲について確認し、各分類群の命名法について学ぶ。</p> <p>第7回 学名について（3） : 「種」に関する学名、及び様々なレベルの学名の表記法について学ぶ。</p> <p>第8回 学名について（4）・他 : 学名に関する補足事項について確認した後、日本の動植物の分類と命名の基礎を築いた、海外からの渡来学者たちの功績について学ぶ。</p> <p>第9回 生物に名前を付ける際の着眼点（1） : 「外見」に由来する名前を中心に具体的に学ぶ。</p> <p>第10回 生物に名前を付ける際の着眼点（2） : 生物の行動や生態、性質等に由来する名前を具体的に学ぶ。</p> <p>第11回 生物に名前を付ける際の着眼点（3） : 伝説や人命、地名、方角等に由来する名前を具体的に学ぶ。</p> <p>第12回 主な哺乳類と鳥類の名前 : 哺乳類と鳥類の名前と生態について、代表的な種を中心に学ぶ。</p> <p>第13回 主な爬虫類等の名前 : 主な爬虫類等の名前と生態について、代表的な種を中心に学ぶ。</p> <p>第14回 主な古生物の名前・その他 : 代表的な古生物の名前について、時代背景とともに学ぶ。</p> <p>第15回 生物命名法のまとめ : 一連の講義内容のまとめを行い、学習効果を確認する。</p>		
授業期間を通して課される課題	学期中、課題図書に関するレポートを課す。また、中間で模擬試験を実施する。（ただしその場で採点し、成績には加味しない。）		

科目No.	311350S1	科目区分	選択
科目名	生物命名法	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予習としては、それぞれの興味に従った、様々な生物種に纏わる自主的な学習が望まれる。(60分) ・ 学習内容を理解すべく、復習を毎回きちんと行っていくことが望まれる。(60分) 		
テキスト・参考文献他	授業ごとにプリントを配布する。参考書：「生物命名概論」(平嶋義宏著・東京大学出版会) レポート課題図書については、別途指示を行うこととする。		
授業形態	教室内での講義を中心とするが、後半には、学生各位に模擬試験への回答や、実際の命名作業などを行ってもらう。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	90%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	10%	学期中にレポートの提出を求める。(※定期試験の受験条件)
平常点評価	0%	規定の出席率はクリアすること。積極的な参加態度が重要。

オフィスアワー	メールアドレス : tm13249oz@yahoo.co.jp 実施方法 : 教務・学生課を通して調整する
その他	

科目No.	311360S1	科目区分	選択
科目名	環境生物学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	小林 淳		

授業のねらい	生物の環境への適応、様々な環境問題などを講義し、環境とは何か、そして今何が問題となっているのかを理解することを目的とする。		
到達目標	生物の環境への適応や様々な環境汚染、地球環境問題に関して理解できる。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点	本講義の後半では、公衆衛生学分野としての環境衛生の内容を含む。これは時間の都合上、2Nの公衆衛生学の講義では、人獣共通感染症と食品衛生を主に取り上げるためである。従って公衆衛生学の内容全般を理解しようとするのであれば、本講義も履修することを強く勧める。		
概要・スケジュール	第1回	小林淳	環境生物学概論
	第2回	小林淳	生命の誕生
	第3回	小林淳	生態系とは？
	第4回	小林淳	生物多様性
	第5回	小林淳	人和其他生物との違い
	第6回	小林淳	生物モニタリング
	第7回	小林淳	人の健康に有害な環境影響の概要
	第8回	小林淳	環境の衛生-1（空気、放射線、音、住居環境、衣服）
	第9回	小林淳	環境の衛生-2（水）
	第10回	小林淳	環境の衛生-3（廃棄物処理）
	第11回	小林淳	環境汚染と公害-1（有害環境と健康障害）
	第12回	小林淳	環境汚染と公害-2（公害・環境汚染の変遷）
	第13回	小林淳	環境汚染と公害-3（トピックとなっている環境問題）
	第14回	小河孝	地球環境問題
	第15回	小林淳	まとめ
授業期間を通して課される課題			

科目No.	311360S1	科目区分	選択
科目名	環境生物学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	本授業の一部は、今現在ニュースで取り上げられていたり、問題となっている出来事を多く含む。そのため、新聞やテレビなどで取り上げられる環境問題に関連する内容に興味を持ち、理解しようと努めることが、授業の習熟に役立つと考えられる。直接的な予習・復習ではないが、そのようなことを積極的に行動することを推奨する（10分）。		
テキスト・参考文献他	授業ごとにプリントを配布する。		
授業形態	教室内での講義。		
成績評価基準			
種別	評価割合 (%)	評価方法	
定期試験	90%	学期末に定期試験を実施する。	
レポート試験	0%	無し	
平常点評価	10%	出席など。	
オフィスアワー	小林淳 : 獣医保健看護学科応用部門 (E棟 4階) junkoba@nvl.u.ac.jp (×を@に変えて使用すること)、随時受け付けますが、Eメールでの事前問い合わせが望ましい 小河孝 : kyomu@nvl.u.ac.jp (×を@に変えて使用すること)		
その他			

科目No.	311380S1	科目区分	選択
科目名	科学情報機器演習 N1	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	山内 昭		

授業のねらい	大学生活で必要となるコンピュータの基礎知識の習得
到達目標	現代の学生は、日々のレポート提出、実験データの集計・統計処理、論文、発表など、コンピュータ無しではできない時代になってきました。本講座の目標は、受講者全員がコンピュータの基礎を学び、大学生活で必要となるアプリケーションの使用法をマスターすることです。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	なし
履修上の留意点	PC室に全員が入れないため、A班（出席番号前半）、B班（同後半）に分けて3限と4限に授業を行います。
概要・スケジュール	<p>現在、大学で初めてコンピュータに触れるという学生はいないと思いますが、今まで使っていた学生も、単にソフトウェアを使ったことがあるだけで、コンピュータの基礎的なことを知らない場合がほとんどです。また、使ったことはあっても、「コンピュータが苦手」、「嫌い」という学生が多いようです。</p> <p>しかし、学生生活のみならず、これからの社会を生き抜くためにも、コンピュータの基礎知識は必要になってきます。この授業では、ワード、エクセルなど大学では避けて通れないソフトウェアの使用法を学ぶだけでなく、コンピュータの基本単位、コンピュータの歴史など、基礎的な内容に重点を置いています。ソフトウェアの習得も、ファイルの管理方法、変換辞書の学習機能などを最初に学んでからソフトウェアの使い方を練習します。</p> <p>授業はPCルームでの講義と各人1台のパーソナルコンピュータを用いた実習の形式で進めます。コンピュータが苦手な学生でもついて来れるよう、用語の解説から、日本語入力の基礎、レポート作成、データ集計、画像処理、プレゼンテーションと、順を追って習得してもらいます。</p> <p>最後は全員パワーポイントによるプレゼンテーションを行います。データを作成するための資料の集め方、写真の撮り方およびその処理方法、また、それらを分かりやすくまとめて表現するための技術が身につきます。</p> <p>第1回 コンピュータの歴史と動作原理概要 第2回 動作原理概要（ハードウェア編） 第3回 動作原理概要（ソフトウェア編）、メディア 第4回 大学PCの使用法、メディア使用法、ファイルとディレクトリ 第5回 フロントエンドプロセッサとプレーンテキスト 第6回 文字属性とワードプロセッサ 第7回 CSVファイルと表計算ソフト 第8回 デジタルイメージ 第9回 学術写真撮影法 第10回 画像処理 第11回 情報の収集、プロジェクトの準備 第12回 パワーポイント 第13回 発表データ作成 第14回 プレゼンテーション発表会 第15回 プレゼンテーション発表会</p>
授業期間を通して課される課題	パワーポイントを利用したプレゼンテーション

科目No.	311380S1	科目区分	選択
科目名	科学情報機器演習 N1	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習45分、復習45分		
テキスト・参考文献他	必要に応じて資料を配布します。		
授業形態	PCルームでの講義および実習		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	0	なし
レポート試験	50	最終課題（プレゼンテーション）の評価
平常点評価	50	出席率

オフィスアワー	メールアドレス：kyomu×nvl.u.ac.jp（×を@に変えて使用する） 実施方法：教務・学生課を通して調整する
その他	なし

科目No.	311380S1	科目区分	選択
科目名	科学情報機器演習 N2	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	1
担当教員	山内 昭		

授業のねらい	大学生生活で必要となるコンピュータの基礎知識の習得
到達目標	現代の学生は、日々のレポート提出、実験データの集計・統計処理、論文、発表など、コンピュータ無しではできない時代になってきました。本講座の目標は、受講者全員がコンピュータの基礎を学び、大学生生活で必要となるアプリケーションの使用法をマスターすることです。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	なし
履修上の留意点	PC室に全員が入れないため、A班（出席番号前半）、B班（同後半）に分けて3限と4限に授業を行います。
概要・スケジュール	<p>現在、大学で初めてコンピュータに触れるという学生はいないと思いますが、今まで使っていた学生も、単にソフトウェアを使ったことがあるだけで、コンピュータの基礎的なことを知らない場合がほとんどです。また、使ったことはあっても、「コンピュータが苦手」、「嫌い」という学生が多いようです。</p> <p>しかし、学生生活のみならず、これからの社会を生き抜くためにも、コンピュータの基礎知識は必要になってきます。この授業では、ワード、エクセルなど大学では避けて通れないソフトウェアの使用法を学ぶだけでなく、コンピュータの基本単位、コンピュータの歴史など、基礎的な内容に重点を置いています。ソフトウェアの習得も、ファイルの管理方法、変換辞書の学習機能などを最初に学んでからソフトウェアの使い方を練習します。</p> <p>授業はPCルームでの講義と各人1台のパーソナルコンピュータを用いた実習の形式で進めます。コンピュータが苦手な学生でもついて来れるよう、用語の解説から、日本語入力の基礎、レポート作成、データ集計、画像処理、プレゼンテーションと、順を追って習得してもらいます。</p> <p>最後は全員パワーポイントによるプレゼンテーションを行います。データを作成するための資料の集め方、写真の撮り方およびその処理方法、また、それらを分かりやすくまとめて表現するための技術が身につきます。</p> <p>第1回 コンピュータの歴史と動作原理概要 第2回 動作原理概要（ハードウェア編） 第3回 動作原理概要（ソフトウェア編）、メディア 第4回 大学PCの使用法、メディア使用法、ファイルとディレクトリ 第5回 フロントエンドプロセッサとプレーンテキスト 第6回 文字属性とワードプロセッサ 第7回 CSVファイルと表計算ソフト 第8回 デジタルイメージ 第9回 学術写真撮影法 第10回 画像処理 第11回 情報の収集、プロジェクトの準備 第12回 パワーポイント 第13回 発表データ作成 第14回 プレゼンテーション発表会 第15回 プレゼンテーション発表会</p>
授業期間を通して課される課題	パワーポイントを利用したプレゼンテーション

科目No.	311380S1	科目区分	選択
科目名	科学情報機器演習 N2	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	予習45分、復習45分		
テキスト・参考文献他	必要に応じて資料を配布します。		
授業形態	PCルームでの講義および実習		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0	なし
レポート試験	50	最終課題（プレゼンテーション）の評価
平常点評価	50	出席率

オフィスアワー	メールアドレス：kyomu×nvl.u.ac.jp（×を@に変えて使用する） 実施方法：教務・学生課を通して調整する
その他	なし

科目No.	311400S2	科目区分	選択
科目名	動物免疫学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	2
担当教員	青木 博史, 塩川 舞		

授業のねらい	動物免疫学では、動物が生命を維持していくために不可欠な免疫機構を学び、これらの知識を基に、微生物感染に対する予防、健康維持法または抗病性の高い動物の選択技術などを習得することを目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脊椎動物を中心に、自然免疫と獲得免疫、体液性免疫と細胞性免疫について理解する。 2. 自己と非自己の認識反応について説明できる。 3. 免疫とかがわる疾病、治療、応用技術について理解し、議論できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	動物機能学（1N）、動物遺伝学（1N）、動物生化学（2N）、動物微生物学（2N）で学ぶ生物・細胞生物学的基礎知識を確認しながら履修に臨むこと。
履修上の留意点	
概要・スケジュール	<p>第1回 青木博史 免疫学の歴史、免疫機能の定義と特徴</p> <p>第2回 青木博史 自然免疫と獲得免疫</p> <p>第3回 青木博史 体液性免疫反応と抗原</p> <p>第4回 青木博史 抗体（その1）</p> <p>第5回 青木博史 抗体（その2）、補体</p> <p>第6回 青木博史 抗原抗体反応</p> <p>第7回 青木博史 免疫反応に関与する臓器・細胞およびその体内循環</p> <p>第8回 青木博史 免疫担当細胞（その1）：骨髄球系由来細胞</p> <p>第9回 青木博史 免疫担当細胞（その2）：リンパ系由来細胞</p> <p>第10回 青木博史 免疫応答の遺伝子支配（MHC）</p> <p>第11回 塩川 舞 細胞性免疫反応</p> <p>第12回 塩川 舞 免疫反応の調節</p> <p>第13回 塩川 舞 免疫と疾患1：感染防御の免疫反応)</p> <p>第14回 塩川 舞 免疫と疾患2：過敏症)</p> <p>第15回 青木博史 免疫と疾患3：免疫不全、自己免疫</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	311400S2	科目区分	選択
科目名	動物免疫学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容を深めるため、次回の講義の内容に合致する教科書内の項目を事前に読んでおくこと。(20分) 復習として、講義で取り扱うプリントを参考に、毎回のテーマについてまとめておくこと。(60分)		
テキスト・参考文献他	教科書：図解免疫学（オーム社） 参考書：イラストで見る獣医免疫学 第7版（株式会社インターズー） その他：適宜、プリントを配布する。		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	80%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0%	レポート試験は実施しない。
平常点評価	20%	出席、質疑応答等積極的な参加を総合的に評価する。

オフィスアワー	青木博史：獣医保健看護学基礎部門（微生物・感染症）、月・水・木の12:00～12:30又は17時以降。 塩川舞：獣医保健看護学基礎部門（微生物・感染症）、月・水・金の12:00～12:30又は17時以降。
その他	

科目No.	311410S2	科目区分	選択
科目名	動物・人間関係論	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	2
担当教員	小林 真理子, 水越 美奈		

授業のねらい	本講義を、3N以降に開講される動物介在療法論およびその実習の基礎と位置づけ、様々な動物と人間の関係を学ぶ。
到達目標	動物と人間の関係に関して、様々な角度から行われる内容に関して理解できる。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	3年次に、動物介在療法論があることからこの講義では、動物介在介入に関する講義は行わない。授業詳細は第一回目の授業において、授業予定を新に渡す。
概要・スケジュール	第 1回 水越美奈 :動物観について 第 2回 小林真理子 :動物を食べること 第 3回 水越美奈 :西欧における動物愛護運動の歴史 第 4回 水越美奈 :日本における動物愛護運動の歴史 第 5回 水越美奈 :現代における動物愛護運動 第 6回 水越美奈 :ペットロス 第 7回 水越美奈 :災害と動物 第 8回 水越美奈 :動物虐待 第 9回 水越美奈 :飼育の歴史と人とのかかわり (犬と猫) 第10回 小林真理子 :飼育の歴史と人とのかかわり (ウマ) 第11回 小林真理子 :飼育の歴史と人とのかかわり (ウマ) 第12回 小林真理子 :飼育の歴史と人とのかかわり (ウマ) 第13回 水越美奈 :動物に関する話題 1. 殺処分等 第14回 水越美奈 :動物に関する話題 2. マスメディア等 第15回 水越美奈 :動物に関する話題 3. ペット産業の現状
授業期間を通して課される課題	レポートをテーマごとに都度提出

科目No.	311410S2	科目区分	選択
科目名	動物・人間関係論	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	レポートにて評価するので、授業内容に関して授業終了後まとめておく(30分)		
テキスト・参考文献他	適宜プリントを配布する。参考文献は、都度提示する。		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	0%	定期試験は実施しない
レポート試験	90%	レポートを数回提出していただく。
平常点評価	10%	出席状況など。

オフィスアワー	小林真理子：獣医保健看護学科応用部門（E棟4階）、基本的に火曜から金曜の12:00から12:30。 水越美奈：獣医保健看護学科臨床部門（E棟4階）、Eメールで受付あるいは面接を予約 mmizukoshi * nvl.u.ac.jp（*を@に変えて使用）
その他	

科目No.	311420S2	科目区分	選択
科目名	犬学・猫学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	2
担当教員	学科教員, 臼井 玲子		

授業のねらい	基礎科目で身につけた知識を補強しつつ、臨床科目を学ぶ上で橋渡しとなる知見を学ぶ。そのため、基礎・臨床双方の教員による総合講義として構成する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 犬と猫について、基礎科目で学んだ知識を補強する。 2. 犬と猫について、臨床科目を学ぶために必要な予備知識を習得する。 		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点			
概要・スケジュール	第1回 梶ヶ谷 第2回 水越 第3回 水越 第4回 藤澤 第5回 近江 第6回 落合 第7回 石岡 第8回 森 第9回 臼井 第10回 百田 第11回 石岡 第12回 森 第13回 臼井 第14回 皆上 第15回 山本（昌）	野生下に生きる犬と猫の仲間 犬と猫の進化と歴史 犬の構成と歩様 犬と猫の機能学アドバンス 犬と猫の遺伝と育種 犬と猫の遺伝性疾患 臨床現場での犬と猫 犬と猫の糖尿病の違いとその管理 犬の耳科学 皮膚病から見た犬と猫の違い 犬と猫の緊急疾患 米国イリノイ大学での犬と猫の管理 猫の耳科学 犬と猫の投薬法 犬と猫の病態学アドバンス	
授業期間を通して課される課題			

科目No.	311420S2	科目区分	選択
科目名	犬学・猫学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	復習として、毎回の講義内容についてまとめておく（30分）。 図書館等を利用して、授業内容の関連事項について自習する（60分）。		
テキスト・参考文献他			
授業形態	講義室における講義。		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	実施しない。
レポート試験	100%	興味を持った回について、レポートを提出する。
平常点評価	0%	出席が不十分な場合は定期試験を受験できないことがある。

オフィスアワー	取り纏め担当者は石岡：獣医保健看護学臨床部門（E棟4F）katsumi@nvlu.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約。
その他	

科目No.	311430S2	科目区分	選択
科目名	社会活動動物論	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	2
担当教員	水越 美奈		

授業のねらい	この授業では人間社会で活躍するどうぶつを取り上げ、人間に貢献する動物の歴史、役割、福祉、倫理について考える。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体障害者補助犬、身体障害者補助犬法について理解する 2. 人間社会で活躍するさまざまな動物の効果と適性について理解する 3. 使役動物の福祉と倫理について理解する
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	<p>第1回 水越 社会活動動物とは？</p> <p>第2回 向山 乗用馬・競走馬・乗馬療法馬の育成・馴致・調教</p> <p>第3回 向山 警察犬</p> <p>第4回 水越 身体障害者補助犬の効果と我が国の状況</p> <p>第5回 水越 盲導犬の歴史とその有用性</p> <p>第6回 水越 介助犬の歴史とその有用性</p> <p>第7回 水越 聴導犬の歴史とその有用性</p> <p>第8回 水越 身体障害者補助犬法と諸外国における補助犬関連法規、補助犬の今後の課題</p> <p>第9回 水越 麻薬探知犬、検疫探知犬</p> <p>第10回 水越 災害救助犬、山岳・水難救助犬、</p> <p>第11回 水越 軍用犬、爆発物探知犬、地雷探知犬など戦争に関わる動物</p> <p>第12回 水越 作業犬（猟犬、牧羊犬）</p> <p>第13回 水越 そり犬、保全探知犬、裁判所犬など</p> <p>第14回 水越 娯楽に用いられる動物（ドッグレース、闘犬、闘鶏、祭や神事に用いられる動物）＜1＞</p> <p>第15回 水越 娯楽に用いられる動物（タレント犬、サーカス犬など）＜2＞</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	311430S2	科目区分	選択
科目名	社会活動動物論	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるために事前にテーマについて調べておく（30分） 復習として、毎回のテーマについてまとめ、調べる（60分）		
テキスト・参考文献他	参考書として「専門基礎分野・人と動物の関係学」および「動物福祉学」全国動物保健看護系大学協会編 インターズー。また、授業中に随時指示する		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	80%	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	0%	なし
平常点評価	20%	出席、授業態度などを総合的に評価する

オフィスアワー	水越：臨床部門（E棟4階） mmizukoshi * nvl.u. ac. jp （*を@に変えて使用） Eメールにて受付または面接を予約
その他	

科目No.	311440S3	科目区分	選択
科目名	動物防疫学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	青木 博史		

授業のねらい	動物衛生と公衆衛生の過去・現在および将来における諸課題を通じて、獣医疫学の一般概念と方法論を習得する
到達目標	1. 獣医疫学が日常生活に深く関与していることを理解する 2. 獣医疫学の方法論を学び、獣医疫学が関与する様々な事例（例えば、トリインフルエンザの流行、食中毒などの発生）について、説明し、問題点を議論できる
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	動物微生物学（2N前期・必須）および公衆衛生学（2N後期・必須）で学ぶ基礎知識を確認しながら履修に臨むこと。
履修上の留意点	授業中の発言・質疑など、主体的に授業に参加することが望ましい
概要・スケジュール	第1回 青木博史 獣医疫学の概念：疫学の歴史・目的・課題、獣医保健看護領域と疫学の有用性 第2回 青木博史 感染症の疫学1（疫学の3要素、疾病の発生要因） 第3回 青木博史 感染症の疫学2（感染症成立の3要素、感染症疫学の特徴） 第4回 青木博史 疫学で用いられる指標 第5回 外部講師 因果関係（因果関係の推論を哲学的背景までさかのぼって学ぶ） 第6回 外部講師 誤差および因果関係 第7回 青木博史 疫学研究方法1：記述疫学 第8回 青木博史 疫学研究方法2：分析疫学（生態学的研究・横断研究・症例対照研究・コホート研究） 第9回 青木博史 疫学研究方法3：介入研究（臨床試験・野外試験・地域介入研究） 第10回 青木博史 統計的方法 第11回 青木博史 標本抽出 第12回 青木博史 サーベイランスとスクリーニング 第13回 外部講師 家畜防疫の事例1 第14回 外部講師 家畜防疫の事例2 第15回 青木博史 特定分野の疫学
授業期間を通して課される課題	

科目No.	311440S3	科目区分	選択
科目名	動物防疫学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	復習として、講義で取り扱うプリントや教科書を参考に、毎回のテーマについて疑問点を含めてまとめておくこと。(60分)		
テキスト・参考文献他	教科書：獣医疫学－基礎から応用まで－<第二版>（近代出版） その他：必要に応じて、プリント等を配布する。		
授業形態	教室内での講義。必要に応じて練習問題や演習を行う。		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	80%	学期末に定期試験を実施する。
レポート試験	0	レポート試験は実施しない。
平常点評価	20%	出席、質疑応答等積極的な参加を総合的に評価する。

オフィスアワー	獣医保健看護学科基礎部門（微生物・感染症）、月・水・木の12:00~12:30又は17時以降外部講師への質問および面会希望予約は、青木博史が受け付ける。
その他	

科目No.	311460S3	科目区分	選択
科目名	エキゾチックアニマル論	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	霍野 晋吉		
授業のねらい	愛玩目的で飼育される、ウサギ、モルモット、ハムスターなどの哺乳類、インコやオウム、ブンチョウなどの鳥類、カメ、トカゲなどの爬虫類をエキゾチックアニマルと呼ばれる。これらの生態、特徴、飼育、ならびに臨床における基礎知識や代表的疾患を解説する。		
到達目標	小動物臨床における現場で、動物看護師として習得しなければならない知識を得る。		
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能			
履修上の留意点	スライド写真、動画が豊富であり、テキストがないため、授業中の撮影は許可する		
概要・スケジュール	総論 ウサギ ハムスター フェレット モルモット 小鳥 カメ		
授業期間を通して課される課題			

科目No.	311460S3	科目区分	選択
科目名	エキゾチックアニマル論	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	特になし		
テキスト・参考文献他	緑書房「カラーアトラス エキゾチックアニマル 哺乳類」 緑書房「カラーアトラス エキゾチックアニマル 鳥類編」		
授業形態	スライド		

成績評価基準		
種別	評価割合(%)	評価方法
定期試験	未定	未定
レポート試験	未定	未定
平常点評価	未定	未定

オフィスアワー	未定
その他	

科目No.	311470S3	科目区分	選択
科目名	実験動物学	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	3
担当教員	袴田 陽二, 藤澤 正彦, 天尾 弘実		

授業のねらい	動物実験の意義を正しく理解し、教育研究等に利用される代表的な実験動物の特性ならびに適正な飼育管理法についての知識を修得する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動物実験の歴史について正しく説明できる 2. 代表的な実験動物の基本的な取り扱い（保定、性別判定、個体識別、採血、採尿、投与など）を説明できる 3. 動物実験成績に影響を与える物理化学的、生物学的、栄養学的因子を説明できる 4. 動物種、品種、系統の概念を説明できる 5. 代表的な実験動物（ラット、マウス、ウサギ、モルモット、ハムスター、サルなど）の飼育管理、繁殖法を説明できる
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	動物機能学、動物遺伝学、栄養学、微生物学・感染症等の関連科目の内容を理解、確認してから履修に臨むこと。
履修上の留意点	授業中の発言・質疑など、主体的に授業に参加すること。
概要・スケジュール	<p>第1回 袴田陽二 実験動物の歴史と変遷（1）：実験動物の役割、代表的な動物種</p> <p>第2回 袴田陽二 実験動物の歴史と変遷（2）：法令関係、3R、5Freedom、実験動物の福祉、人道的エンドポイント（安楽死）</p> <p>第3回 袴田陽二 実験動物解剖と生理</p> <p>第4回 袴田陽二 実験動物の遺伝と育種</p> <p>第5回 袴田陽二 実験動物の繁殖</p> <p>第6回 袴田陽二 実験動物の6大栄養素と飼料</p> <p>第7回 袴田陽二 実験動物の飼育と衛生</p> <p>第8回 袴田陽二 実験動物の施設と衛生</p> <p>第9回 天尾弘実 実験動物の病気と感染症</p> <p>第10回 袴田陽二 実験動物学各論：マウス</p> <p>第11回 袴田陽二 実験動物学各論：ラット、スナネズミ、ハムスター他</p> <p>第12回 袴田陽二 実験動物学各論：ウサギ、モルモット</p> <p>第13回 袴田陽二 実験動物学各論：犬、ネコ、ブタ他</p> <p>第14回 藤澤正彦 疾患モデル動物学</p> <p>第15回 袴田陽二 動物実験の代替法</p>
授業期間を通して課される課題	

科目No.	311470S3	科目区分	選択
科目名	実験動物学	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	内容の理解を深めるため次回の講義で取扱う参考図書等を事前に読むこと（30分） 復習として、毎回のテーマについてまとめておく（60分） など		
テキスト・参考文献他	テキスト：授業ごとにプリントを配布する。 動物飼養管理学（全国動物保健看護系大学協会 カリキュラム検討委員会編、インターズー）他		
授業形態	教室内での講義		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	80%	学期末に定期試験を実施する
レポート試験	0%	特になし
平常点評価	20%	出席、質疑応答等、積極的な参加を総合的に評価する

オフィスアワー	袴田：生体機能学分野（E棟4階） yhakama@nvl.u.ac.jp 藤澤：生体機能学分野（E棟4階） masfuji@nvl.u.ac.jp 天尾：動物科学科・実験動物学教室（E棟5階） amao@nvl.u.ac.jp Eメールにて受付または面接を予約（火曜16:00～17:00）
その他	動物繁殖学実習を受講するものは必ず本科目を受講すること。

科目No.	311490S4	科目区分	選択
科目名	アニマルケア論	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	4
担当教員	左向 敏紀, 保志 昌子, 中村 遊香, 青木 忍		

授業のねらい	動物看護に関し、3年次までに不十分だった点の補足講義、および実施されなかった項目についての追加講義
到達目標	動物看護に関する知識に厚みを増す。新生子および老齢動物の理解を深める。補液療法、輸血療法を理解する。鳥に関する獣医療を理解する。
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	
履修上の留意点	
概要・スケジュール	第 1 回：犬猫の糖尿病のケアー 1 第 2 回：犬猫の糖尿病のケアー 2 第 3 回：新生児・若齢動物の管理 第 4 回：新生児・若齢動物の管理：ワクチネーション 第 5 回：手術後動物のケアー 第 6 回：手術後動物のケアー 第 7 回：犬猫に対する輸液管理 第 8 回：犬猫に対する輸液管理 第 9 回：犬猫に対する輸血方法 第 10 回：老齢動物の管理・ケアー 第 11 回：老齢動物の管理・ケアー 第 12 回：輸液、輸血 第 13 回：輸液、輸血 第 14 回：歯周病とホームデンタルケア 第 15 回：間違えやすい歯周病の診断と予防歯科処置
授業期間を通して課される課題	

科目No.	311490S4	科目区分	選択
科目名	アニマルケア論	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	授業内容の事前配布による予習（30分） 授業内容のレポート（70分）		
テキスト・参考文献他	テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布。		
授業形態	スライドを用いた教室における講義。		

成績評価基準		
種別	評価割合（%）	評価方法
定期試験	0%	実施しない
レポート試験	90%	授業内容のレポート
平常点評価	10%	出席

オフィスアワー	左向敏紀：獣医保健看護学科臨床部門（E棟4階） t-sako@nvlu.ac.jp（××を@にすること） メールにて受付または面接を予約 非常勤講師への質問連絡
その他	

科目No.	311500S4	科目区分	選択
科目名	ペットビジネス論	単位数	2.0
学科	獣医保健看護学科	学年	4
担当教員	川原井 麻子		

授業のねらい	ペットビジネスを切り口として、 「社会人としての基礎力」を身につけ、 社会から感謝される人間になるきっかけとする
到達目標	社会人としての基礎力として「考える」チカラと習慣を身につける
事前履修科目・履修に必要な予備知識や技能	特になし
履修上の留意点	特になし
概要・スケジュール	第1回 社会人って何人？～社会における私の役割～ 第2回 トレーディングゲーム 第3回 日本のペット業界 第4回 どうぶつ医療業界～人の医療との比較を通して～ 第5回 どうぶつ保険 第6回 疾患統計と医療情報、診断分類 第7回 災害と医療、感染症対策 第8回 コミュニケーションと医療 インフォームドコンセントとターミナルケア 第9回 ペット業界関連法規 第10回 動物医療訴訟 ※人数等により変更する可能性があります
授業期間を通して課される課題	

科目No.	311500S4	科目区分	選択
科目名	ペットビジネス論	単位数	2.0
授業外学修の具体的な指示、時間の目安	特になし		
テキスト・参考文献他	家庭どうぶつ白書 (http://www.anicom-page.com/hakusho/) よりダウンロード可)		
授業形態	参加型の講義です 楽しみながら、学んで下さい		

成績評価基準		
種別	評価割合 (%)	評価方法
定期試験	0%	-
レポート試験	10%	-
平常点評価	90%	出席、積極性重視

オフィスアワー	学内にはおりませんので、問い合わせ等は臨床部門の石岡先生にお願いします。
その他	